

嘉保元年九月五日

五〇四

家歌合

白河院皇女(寛也) 郁芳門院十番根合、同七年、

六條右大臣、

〔詞花和歌集〕

夏二

六條右大臣家に歌合し侍けるによめる、

よみ人しらす

五月やみう川にともすかゝり火のかすますものは螢なりけり

〔榮華物語〕

根合

永承六年五月五日殿上歌合、○中略

二番 左持

郭公

權左中辨藤原資仲

ほとゝきすたゝ一聲にすきぬれはまたまつ人になりぬへきかな

右

左近中將源顯房

うたゝねのゆめにやあらん郭公またともきかて過ぎぬなるかな

〔續古今和歌集〕

四秋歌上

西院皇后宮にて人々歌よみ侍りけるに、

六條右大臣

いかばかりうれしからまし七夕の待夜の數のあふよなりせは

〔榮華物語〕

の布引

後冷泉院の式部の命婦といひし人の腹に、(顯房)源大納言殿

顯房ノ女
師子白河
天皇ノ寵
遇ヲ蒙ル

顯房ト師
子

白河天皇
ルナ相シ奉

師實室フ
病ヲ訪フ

の御子とていと美しかりける人、東北院に侍ひけり、かたちいとをかしけ

に、心はへなといとよかりけり、(白河天皇)内に聞しめして忍ひて召しければ、夜晝ま

るりけり、山里に住みければ、それよりよひ曉に参りまかてするもをかし、

たたならすなりて、男御子産みたりけれど、つゝましくや思しめすらん、内

よりは絶えて御消息もなし、女院は心苦しう思し召して、心ことにもてな

させ給ふ、(顯房)大納言殿は我女ならましかはまるらましや、いつこなるものゝ

子とはいふならんなどの給はすると聞ゆるは、まことにやあらん、

〔古事談〕

六亭宅諸道

六條右大臣殿ハ相人也、奉相白川院曰、御壽命可令至

八十給、但頓死相難遁御歎云々、院令及暮年給後被仰云、右府相相叶已及八

十、頓死事應有其憚云々、

〔古今著聞集〕

八孝行恩愛

京極大殿の北政所例ならぬ事おはしましける

に、(顯房)六條右府御とふらひに参り給て、則院へ参り給ひけるに、御對面有て、世

間に何事かあると仰られければ、關白の北政所の不例のとふらひに罷向

ひて候つるに、病者のかたはらなけしのしりに大臣三人候つる、以外の事

也と申されければ、これらにさほどの事は有かたしとぞ御返事ありける、

嘉保元年九月五日

五〇五

嘉保元年九月五日
まことにゆゝしかりける事なり、堀川左大臣(後房)、六條右大臣は、北政所の御せ
うと也、略下

〔十訓抄〕

可施人惠事

肥後守盛重は、周防の國の百姓の子なり、(編房)六條右大

臣の御家人になにかしとかや、かの國の目代にて下りたりけるに、次あり
て、かの小童にてあるを見るに、魂ありけなりければ、呼ひとりていとおし
くしけるを、京にのほりてのち供に具して、大臣の御許に参りたりけるに、
南面に梅木の太なるかあるを、梅とらんとて人の供の者ともあまた礫に
て打ちけるを、主のあやつとらへよと、みずの内よりいひ出し給たりけれ
は、蛛のこをふきちらすやうに、逃にけり、其中に、童一人木のもとにやをら
立ちかくれて、さし歩て行けるを、優にもさりけなくもてなすかなとおほ
して、人をめして、しかく物の著たる小童、たか供の者ぞと尋ね給ひけれ
は、主の思はん事をはかりて、とみに申さゝりければ、しるて問給ふに、力
なくて、某の童にこそと申けり、即主召して、某童参らせよと仰られければ、
いとをしくしてつかひ給に、ねひまさるまゝに、心はせおもふはかりにふ
かくわりなきものなりける、常に前にめしつかひ給に、あるつとめて手水

もちて参りたりける、仰に、かの車宿の棟に鳥二居たるか、ひとつの鳥頭の
白きと見ゆるは、僻事か、なき事をつくりて問給ひけるに、つくくともま
もりて、しかさまに候と見給と申ければ、いかにもうるせきものなり、世に
あらんするものなりとて、白川院に参らせられけるとぞ、かうほどのこゝ
ろは、せこそかたからめ、藏人か申様まことにけひたりけんかし、

〔榮華物語〕

布引

その頃、殿布引の瀧御覽し

におはします、道のほといと
をかしう、ささまの狩装束など、いふかたなし、業平かいひつつけたるや
うにそありけんかし、

關白殿

さらしけむかひもあるかな山姫のたつねてきつるぬのひきの瀧

皇太后宮大夫顯房

水の色のたたしらのきと見ゆるかなたれさらしけむ布引の瀧千載歌集

同

〔新勅撰和歌集〕

十六歌一

六條右大臣、小忌宰相にて出侍ける朝につかは

嘉保元年九月五日

しける、

康資王母

五〇八

をみ衣かへらぬ物と思は、や日かけのかつらけふはくるとも

返し

六條右大臣

かへりてそくやしかりけるをみ衣その日かけのみ忘れかたさよ

〔中右記〕寛治元年六月廿九日、齋宮遷御右大臣久我水閣

〔百練抄〕七近衛院 久安元年三月廿三日、六條右大臣舊第炎上、六上北室町西

〔後拾遺和歌集〕一春上 今上六條におはしまして、上達部うへのをのこと

もなとなかしまにわたりて、子日し侍けるによみ侍ける、

右大臣北方

袖かけてひきそやられぬこ松原いつれともなきちよのけしきに

〔金葉和歌集〕九雑部上 六條右大臣、六條の家つくりていつみなとほりて、

とくわたりて見よなど申たりければよめる、

顯雅卿母

千年まですまむ泉の底きよみ影ならへんとおもひしもせし

六條第ノ
泉池

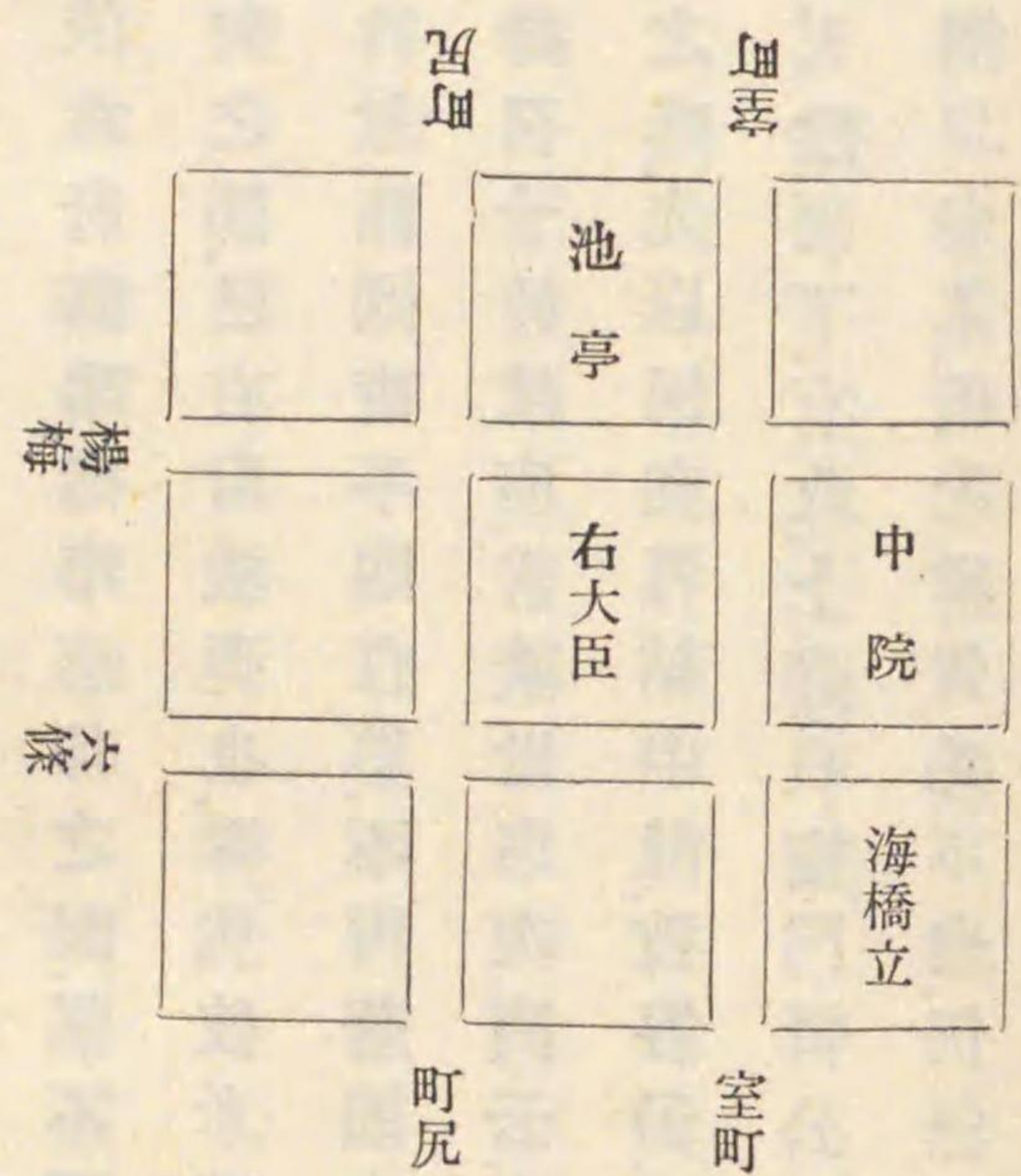
六條第ノ
中嶋

邸宅
久我水閣

六條第

〔拾芥抄〕

中末 京程部圖二十二



○顯房室源隆子ノ薨ズルコト、寛治三年九月二十八日ノ條ニ、顯房、六條亭ニ移ルコト、同六年七月十日ノ條ニ、顯房ノ病ニ依リテ、輕囚ヲ免ズルコト、同七年十一月五日ノ條ニ、顯房女別當殿、卒スルコト、承德元年、年末雜載、疾病生死ノ條ニ見ユ、

〔参考〕

〔山城名勝志〕五洛陽四 顯房公亭 拾芥抄京程圖、在六條北室町西、六條右

大臣顯房公第、

嘉保元年九月五日

五〇九

顯房ノ第

第宅

内文

六日、甲辰請印政、尋テ、又行フ、

〔中右記〕九月六日、申時許新中納言通俊卿參仗座、被行陣覽内文、先上卿在奥座、依無上臚職事、令予可行内文之由、被奏、仰聞食之由、次上卿移居端座、外記覽文、入篋、以外記令内覽、殿下御數刻還來、外記申内覽之由、上卿起座進弓場、殿令職事奏、六位藏人、外記持宮扈從、返給之後、於仗座見文、了返外記、次陣座前立案、立案事、史可沙汰也、而史俄次請印官符、少納言成宗、近衛將監一人、帶弓立其傍、事了上卿退出、

伊賀守惟宗孝言任惟符ヲ待タズシテ下向ス
孝言任符ヲ申請ス

辨官悉ク不參ス

件内文依右府御事、諸事忘却之間、強不可行歟、但伊賀守孝言朝臣不待任符、且下向之間、已右府被薨也、雖然彼孝言從途中令使者申請任符也、仍尋先例被行歟、諸國吏不賜任符、不可著國廳之故也、内覽之間、外記數刻不還來程、上卿召予於仗座、言談世事、次問云、官奏之時、不堪減省、諸國講讀文一度入奏之時、先以何文可結申哉、被答云、先不堪、次減省、次講讀師文也、
八日、丙午、天陰雨下、有政、上卿右衛門督公實卿、參議左宰相中將保實參仕、少納言三人同以參入、但七辨皆悉不參、仍無移著南所、件政前加賀守爲房朝臣、依濟公文、被承知官符請印也、

○惟宗孝言ヲ伊賀守ニ任ズルコト、七月十三日ノ條ニ、右大臣顯房ノ薨ズルコト、本月五日ノ條ニ見ユ、

九日、丁未廢朝ニ依リテ、平座ヲ停ム、

師通俊座ニ九日平座ノ儀ヲ問フ

〔中右記〕九月六日、申時許新中納言通俊卿參仗座、被行陣覽内文、略中内覽之間、外記數刻不還來程、上卿召予於仗座、言談世事、次問云、略中又問云、二孟并九月九日平座之事如何、被答云、二孟日、上達部參集之後、從御所進、被仰云、無御出依例行へ者、九日、貫首上卿令職事奏云、大夫君達に菊酒給ミ、勅云、無御出依例行へ者、其後上卿於仗座行盃酒事、辨互勸盃、大臣被候者、四位辨取續杓納之、不被候者、五位辨取續杓也、勸盃之人ハ必受盃也、後起被奏見參目錄之後、上卿召少納言給見參、召辨給目錄、辨不結申也、又強不下史、入懷中歸里亭歟、

八日、丙午、天陰雨下、略中今夜略中有右府薨奏事、略中警固并廢朝三日者、明日平座停止之由、別不被仰下、是依爲廢朝三ケ日中也

九日、無平座、依爲廢朝中也、但内藏寮居酒肴於殿上如例、諸司供菊花、

○柳原家記錄平座小除目等部類、異事ナキヲ以テ略ス、顯房薨去ノコ

菊花ヲ供ス

十一月己酉廢朝ニ依リテ、伊勢例幣ヲ延引シ、大祓ヲ行フ、

〔中右記〕九月三日、○中

今日左府下給宣旨、來十一日例幣請奏、

八日、丙午、天陰雨下、○中今夜（顯房）○中有右府薨奏事、○中時範仰云、來十一日例幣延引、其由可行大祓、上卿召外記返給宣之次、被仰云、廢朝三日、又來十一日

例幣延引者、又召右少辨時範、十一日可行大祓之由宣下、時範則仰史、

十一日、例幣延引之由有大祓、宰相中將保實行之、（右少辨）不被著者、

○顯房薨去ノコト、本月五日ノ條ニ、伊勢例幣ヲ追行スルコト、十一月

二十日ノ條ニ見ユ、

十五日、（癸丑）伊勢兩大神宮遷宮行事、造豐受大神宮使等ヲ定ム、是日、宇佐八幡宮遷宮日時定ヲ行フ、

〔中右記〕七月十三日、壬子、天晴、○中

（裏書）十三日、依吉日於關白殿初有吉事僉議、公卿濟々著束帶參入、於東小寢殿南庇議定、今年豐受宮之遷宮事始也、望造宮使之輩被相議也、雖然無一定

造宮使ヲ
議ス

宇佐遷宮
延引

之人、則依除目殿下令參內給了、

九月五日、天陰雨下、此曉右大臣薨、○中仍今日雖可有宇佐遷宮、○中皆以止了、

十五日、（癸丑）天晴、○中後聞、帥大納言（經信）只今可被參仕、是宇佐遷宮日時依可被

勘申也、但從今朝及申時亂心地不例、竊以退出、又右少辨依被承行也、

後聞、宇佐遷宮日時帥大納言被參、被勘申之次、中宮大夫有障之替、伊勢遷

宮內宮上卿被仰下、（新中納言）通俊卿

又今年豐受宮遷宮事始也、上卿、（同中納言）兼行、（左少史）伴廣親、造宮使、（神祇權大副）大中臣資清

被仰下也、

予新任之初、勤仕內外遷宮行事、可然叶神慮歟、仰取信奉行許也、中少辨五

人之中、左中辨師賴、（假）權右中辨重資、（日）左少辨左衛門權佐有信、（依爲檢）不關大神

宮沙汰、藏人右少辨時範、（近日）暫奉行法勝寺事、上已承御祈、下官自然當

其仁、仍非可辭申、心中致祈請、可奉行之由、深銘心肝者也、

十七日、○中

今日依吉日、於陣伊勢遷宮役夫工國解三通、（伊賀越）後遠江覽新上卿新中納言、被

嘉保元年九月十五日

內宮遷宮
上卿
豐受大神
宮遷宮事
始

遷宮役夫
工國諸國
解ヲ定ム

造豐受大
神宮使官
符請印

宣旨ヲ遷
宮上卿ニ
下ス

命云伊賀早可奏下、殘二ヶ國解狀心閑見給テ可左右者、仍晚頭參關白殿、
付職事有家令内覽、仰依請者、則歸參内、奏了後下申上卿、々々則被下、於床
子座下行事、史盛忠了、今夕宿仕、

十九日、權中納言大江卿參仗座行内文、外宮造宮使任符也

廿日、中略今日關白殿御籠居後、令參内御後御宿仕、於御直廬内覽、越後遠江

解狀、則奏聞、

廿一日、中略政ノ事了渡參陣、則退出之次、著衣冠中納言被逢也、依初事也參遷宮上卿、新中納言亭下宣

旨、越後則行事、史盛忠來會、便下了、又大和國解覽上卿、其後歸家、

廿三日、早旦參結政、中略史盛忠申上明衣事、則申上卿了、

廿六日、甲子早旦退出、下越後遠江宣旨加署、

〔勤仲記〕弘安十年五月十四日、甲辰、雨降、參院、中略次參内、造宇佐宮正殿杣

採日時定、中略

八幡宇佐宮造替遷宮年限例

當宮寶殿卅年一度所改作也、中略

〔寛吉心〕同年九月十五日被勘下同日時、

十一月廿七日、乙丑、

十二月十五日、壬午、

○造宮使等ノ事ヲ議スルコト、八月二十五日ノ條ニ、造豐受大神宮山
口木本祭日時定ノコト、十月五日ノ條ニ、同宮役夫工等ノ官符ニ請印
シ、尋デ之ヲ造宮使ニ下スコト、十月十日ノ條ニ、宇佐八幡宮遷宮日時
ヲ議スルコト、四月二十六日及ビ二年三月十八日ノ條ニ見ユ、

廢朝ノ後、政始及ビ檢非違使廳政始、

〔中右記〕九月十五日、癸丑天晴、政始也、早旦參結政、入外記門間、右少辨時範

立假裝間、史六人列立、申云、官掌遲參相尋之間、暫以彷彿、官掌信季參來、其後
著座、先史等、次右少辨、次左左大辨季仲、左少辨有信參加史覽於文、左少史盛忠先式日申文一日申左大辨、右少辨如例、

上卿民部卿俊明卿被參著左衛門陣屋、相待宰相參來之處、頗以數刻、上卿以

召使被申云、參議遲參、然者可被始後日歟、左大辨返報云、政始吉日、今日之外

暫不候、而被忍官符等有其數云々、猶暫可令相待給者、未四點、參議皇太后宮

權大夫公定參仕、上卿共被著廳、官掌申云、申文、座頭史申云、申文有リ、左少辨

右少辨起座、次史三人、大史下藤一人、少史下藤二人同起座、少納言家俊、少外記通景同立申

上卿

嘉保元年九月十五日

五一六

文子問史等云、申文時辨先可立座歟、史可立座歟如何、左少史盛忠申云、先例著座之大辨被著廳之後、有申文時先辨立、次史可立也、而大辨猶御坐此座時、此事後日相尋新中納言被命云、必申文時不論是非辨先立爲善者、然者不有失禮歟。史等起座之後辨可被起也、今日已不然、可謂違禮歟者、申文了後、左右少辨被著座、先左、次右。次史三人著座請印、少納言惟信、少外記廣忠、府官符捧料、也百餘枚。此間右大史延行可申南文六枚、一夕申上請印了少納言歸、史等起座、左右少辨起座、出立於外記門、上卿參議引被渡南所之後、左大辨起座、次予起座、一夕漸步出外記門之間、予不揖上官等、如日記者可揖也、而付新中納言通後卿說、不揖也。漸進南所門前樹下程、左右少辨移樹北揖左大辨、又答於樹南揖予、予又答揖、左大辨直被入南所、予留門下立、北西。左右少辨東面立、辨侍直申、予與奪了引立舍西簷下、南上、西面。從此前少納言成宗著座召大舍人、次辨一夕著座居上卿飯間、右少史時真取文杖出來、左大辨被命云、皆居物之後可出來、仍史逗留可謂失也、次居物了後申文、上卿見了後、史結申之時、上卿命云、常陸國某社司神祇官移、已康平年中也、加之姓名已異如何、在座辨違何以被免、上哉。左大辨大咲、無所被陳、先舉右少辨、又以無所陳、件事上卿之難尤可然、七辨皆以奇恠也、後聞史申云、右大辨被申上社司也、仍史不留者、予如此申上之文強不難、然而於此文者尤奇恠也、仍上卿被

嘉保元年九月十五日

五一七

仰了、其後少納言成宗重召大舍人、令居汁物、次立箸食了、辨官等同時起座出立門外、上卿參議等相揖被過之後、辨少納言平寄如例、於陽明門下有出立、各欲乘車間、左少辨右衛門權佐有信申云、今日又可始檢非違使廳政也、仍罷留欲著廳者、上卿許之、自餘人々渡參陣、暫在床子座間、左大辨少史二人、通真、上廣親。日之論被尋問、依殿下、仰被尋也。其後人々退出、十七日、早旦參大殿、次參結政、入外記門間、上官等列立引著座、左右大辨被參加、仍史二人左右相分、天申文、此間又覽文於予、上總國、荒文。見了後、左少辨有信、少納言成宗家俊參來、大夫史祐俊宿禰參來、先從晴路行南方更著座、大辨、依今被參也。日依有恣官符等有政、上卿民部卿俊明卿、但參議皆有障不參、依有例上卿一人著廳行政、請印官符、少納言、家俊。此間大夫史可申南之文四枚、一夕申上、事了上卿欲渡南所之處、召使申上云、當物忌、仍引被渡參內、中略、陣定ノ、陣定之間、コトニカ、ル。參議一人、政之間無著座參議、奇恠之事歟、廿日、中今夜宿仕、廿一日、從內退出之次、先依爲要日參結政、左右少辨參來各著座、史覽三辨於荒文、伊勢國、事了渡參陣、中又大和國解覽上卿、其後歸家、

嘉保元年九月十七日

五一八

廿三日、早旦參結政、大夫史以下史七人參著、史延行付竹竿覽文於予、先伊賀國荒文、次越前、抑今日座歟、頭史已大夫史也、而相讓次史覽文條、可尋知也、大夫外記定俊真人從廳方進本座、異例路若習歟、又可尋、頃而右大辨參來、下蒞史覽文、事了後參內、於床子座直申、予與奪、但不仰申歟、詞大辨依不取人數也、參御前見參之後退出、

廿八日、依爲要日、早旦參結政、引史六人著座、史覽文於予、相模國荒文、頃而右大辨左右少辨來著、少納言成宗、惟信同參、可有政之由外記所申送也、是近江國司符請也、上卿左兵衛督、參議皇太后宮權大夫遲參、兩脚頻下、時刻推遷、右大辨有所勞被退出了、予依早參心神屈了、觸此旨於官省、則退出之次、行向新中納言通俊卿著座所、大炊御門大宮也、著直衣被相逢、盃酌之後、其次越前官使事被氣色、已許之依當番參內供膳、申四點、上卿以下政了、被渡參內間、依無大辨不被著南所也、

○十七日ノ政等、便宜合致ス、顯房ノ薨去ニ依リテ、廢朝ヲ行フコト、本月五日ノ條ニ見ユ、

十七日、陣定、

〔中右記〕 九月十七日、○中略、政ノコトニカ、ル、今日有陣定、帥大納言、經、藤大納言、民部卿、後、右衛門督、公、新中納言、通、江中納言、匡、左大辨、季、淡路甲斐等計歷之事、又諸國條事等、藏人辨時範奉行、及深更事了、陣定之間、參議一人、政之間、無著座參議、奇恠之事歟、

十八日、丙辰軒廊御卜、

〔中右記〕 九月十八日、終日候御前、入夜新中納言通俊卿參仗座、有軒廊御卜、右少辨奉行、予立陣邊清談上卿、牛一之後退出、

二十二日、庚申贈太皇太后藤原賢子國忌、依リテ、法勝寺ニ御念佛ヲ行ヒ、又御讀經供養ヲ修ス、

〔中右記〕 九月廿二日、今日故中宮御國忌也、仍從此曉法勝寺御念佛始、又有御讀經供養、人々參仕、藏人右少辨暫行事、權辨有障替、

廿四日、○中略今夜法勝寺御念佛結願也、此間依奉神事、不參彼寺也、

二十三日、辛酉清涼殿ニ於テ、孔雀大般若御讀經ヲ行ハシメ、同二間ニ於テ、仁王講及ビ聖觀音御修法ヲ行ハシム、又痘瘡ノ流行ニ依リ、祇園社ニ於テ、大般若御讀經ヲ修セシム、

嘉保元年九月十八日 二十二日 二十三日

五一九

嘉保元年九月二十三日

〔中右記〕 九月廿三日、○中

今日於御前被始御讀經二座、孔雀經九日、

御讀經上卿江中納言藏人兵部大輔仰願趣、

又二間仁王講、又被始聖觀音御修法、定務

又於祇園寶前被始大般若御讀經、近日天下有疱瘡之聞故也、圓禪僧都以

都偏奉行也、不仰綱所祇園、別當定秀閣梨有障之間也、

十月一日、己巳、○在晝御座御讀經等、更衣之間暫出他所、是依供冬御座也、今

夕被還入也、

五日、癸酉、天晴、○中 今日於晝御座、藏人兵部大輔定申五節人々、仍御讀經暫

陣外、及深更歸入也、

十二日、庚辰、○次孔雀經三七日御讀經結願、

十一月廿三日、辛酉、○日者候陣外御讀經二座、大般若法華經、并仁王講被入

御前、但非晝御座、以渡殿爲御讀經所也、

〔釋家初例抄〕 下 孔雀經御讀經御導師宗長者勤仕例

嘉保元年九月廿三日被行御讀經、御導師二座覺意法眼可被勤仕之由、雖差

申辭退、上卿依堪能、一座經範僧都可被勤仕由、被差畢、仍勤仕之宗長者也、奇

願孔雀經結

御讀經座
移ヲ渡殿ニ

代例也、

○痘瘡ノ流行ニ依リ、祇園社ニ於テ仁王講ヲ修シ、大般若經ヲ轉讀セ

シムルコト、正月二十五日ノ條ニ見ユ、

二十六日、甲子、公卿著座、

〔中右記〕 九月廿六日、甲子、○

今日戌刻新中納言通俊卿、左大辨季仲著座、又子刻、江中納言匡房卿同被

著座也、六月十三日ノ條參看、

二十九日、丁卯、醍醐天皇國忌、是日、內御物忌、

〔中右記〕 九月廿九日、禁中一日御物忌也、今日是醍醐國忌、牛一之後、與藏人

兵部大輔同車、以下脫

三十日、戊辰、位記請印、

〔中右記〕 九月晦日、民部卿參仗座、被行位記請印、中務輔不參、右少將能俊朝

臣參勤之、

〔魚魯愚抄〕 一

袖書大宰權帥源朝臣請申監典

請殊蒙天恩、因准先例、被拜任監典狀

大宰權帥
申文

嘉保元年九月二十六日 二十九日 三十日

嘉保元年九月三十日

五二二

正六位上秦宿禰國時

望大監

正六位上伴朝臣輔安

望大典

右爲大宰帥者、請任監典等之例、蹤跡已存、不遑羅縷、望請天恩、以伴國時輔安、可被拜任之狀、謹請處分、

寬治八年九月十七日

正二位行大納言兼大宰權帥源朝臣經信

○敍位ノコト詳ナラズ、大宰權帥源經信ノ申文便宜合敍ス、經信ヲ大

宰權帥トナスコト、六月十三日ノ條ニ見ユ、

十月己巳朔

一日、巳旬儀及ビ更衣、

〔中右記〕十月一日、己巳未時許參關白殿、次參大殿、以左衛門佐盛長有被仰

公卿ノ不
參者多シ

事等、則參內、左兵衛督俊實卿、皇太后宮權大夫公定相公被參、公卿今日多有

障不被參由云々、仍付藏人右少辨時範被尋御出事、仰云、無御出依例行者、仰

被仰時範於可居物之由、左兵衛督、皇太后宮權大夫暫起座、此間內、豎(後明)民部卿

被參加於陣後、漸言談之間、予問申兩上卿云、今日勸盃從上、勸盃事、追相尋新中納言處、從下、臈可役由所

被命也、被命也、民部卿命云、從下臈者、左兵衛督云、從上臈、兩卿之說不同也、可尋知也、

下臈、被命也、民部卿命云、從下臈者、左兵衛督云、從上臈、兩卿之說不同也、可尋知也、

居饗饌後、公卿相分被著辨、少納言持笏著座也、其餘殿上人、不持也、辨西面、予、左右少辨、少

史等座、腋陣壁西、公卿座、勸盃、初獻、少納言家俊、內、豎、二獻、右少辨時範、三獻、左

少辨有信、少納言座、勸盃、四獻、內、豎、各居汁物了、上卿召外記、令進見參目錄、外

記、廣忠指文杖、覽上卿、々々見了起座、進御所付職事被奏、御覽了後、返給、還陣

座、以官人召少納言、惟信參、給見參、又召辨、予參入、居膝突一揖、持笏、上卿下給

目錄、置笏於左、給了取副笏一揖、退歸、不結、入懷歸家、近代強不下史也、此間從

北陣方關白殿、令參內御、直衣、仍令入見參、給殿上人十許輩、殿下御宿仕、予牛

嘉保元年十月一日

五二三

勸盃ノ作
法

見參目錄
ヲ奏ス

師通參
内ス

更衣ノ間
御讀經ヲ
他所ニ移
ス

一之後退出、
在畫御座御讀經等、更衣之間暫出他所、是依供冬御座也、今夕被還入也、

二日、略關白殿令候給、
上皇、鳥羽殿ヨリ、六條殿ニ還幸アラセラル、

〔中右記〕十月一日、己巳、略

酉時許上皇從鳥羽殿還御六條殿云々、一日白地、令渡給也。

○上皇鳥羽殿ニ御幸アラセラル、コト詳ナラズ、

三日、辛未關白師通、右中辨藤原宗忠ヲシテ、鈴印辛櫃鑲鎰修理ノ事ヲ奉行セシム、

〔中右記〕十月三日、辛未、略

裝束使辨
不出仕
ニ依ル

鈴印辛櫃鑲鎰修理之事、裝束使辨不出仕之間、可奉行由有殿下御氣色、日下給也、則牛一之後退出、

五日、癸酉天晴、有晴政、略

又依可造鈴印辛櫃鑲鎰、自官奉請奏、是一上宣云々、而一上有障不被出仕間、

取殿下御氣色處、便可觸新中納言之由、依有仰成上宣々旨了、新少史時及深、眞沙汰

官請奏ヲ
奉ル

更、牛一之後退出、

左近衛大將藤原忠實ノ女生ル、尋テ夭ス、

〔中右記〕四月十四日、甲申天晴、依例有御賀茂詣、大殿竝關白殿共令參詣給、

略次公卿之車、略左大將、忠、略出仕人皆參也、略中入御社中、左大將有社、者、不令入社、給、

十月三日、辛未卯刻許左大將殿女子御產平安令遂給之由風聞、則關白殿從內令渡給、事了令歸參給也、女子者一門予光華可喜之、從彼法成寺大相國以道長後、未有如此事、誠以珍事也、御產所左府、土御門亭也。

下官依爲伊勢遷宮行事、日ノ九月十五、條參看、不能參向、終日候內之間、所聞此旨也、五日、癸酉天晴、有晴政、略殿下仰云、今日々次宜、早可令勘日時、仍相催陰陽寮之處、上臈道言朝臣家榮、光平、親宗、已上四人、觸左右大將產穢者、略中殿下御宿仕、明日可令渡籠大將產所給者、

八日、略中

今朝候內之間下人來云、左大將殿女子非常、仍御誦經使走散東西者、乍驚令案內處、已以一定也、左大將殿竝大殿已令歸高陽院給了、雖可馳參、依爲

女子ハ一
門ノ光華
道長以來
ノ珍事

産穢

誦經使ヲ
諸所ニ發
ス

師通五夜
養產ヲ行

師通遭喪
仕始テ出

結政所冬
儀

官符請印

通後上卿
初度ニヨ
リテ吉書
ノ儀アリ

山口本本
祭日時勘
申

嘉保元年十月五日

五二六

神事行事不能參入、世間無常不可云盡、去夜依當五夜、關白殿有養產事、人々濟々參集、今朝已有無常事、哀樂同門、可哀々々、

廿一日、略中酉時許關白殿令參內御、日者依大將姫君入夜令退出給、

○忠實ノ女子天亡ノ穢ニ依リテ、諸神事ヲ延引スルコト、本月十七日ノ條ニ見ユ、

五日、西癸政、是日、造豐受大神宮山口本本祭ノ日時ヲ定ム、

〔中右記〕十月五日、癸酉、天晴、有晴政、新中納言通俊卿著座九〇辰時許相具少

座撤扇居也、但大辨座前二、大辨著座後官掌居之、冬議今日初所見也、納言家俊參結政、史六人著本座、頃而右大辨、左右少辨、少納言惟信參加、史時

真覽文於右大辨、此間座頭史延行又覽文於右少辨、未初上卿、新中納言、參議、皇太

夫大參仕、被著廳、左右少辨、史三少納言家俊、外記申文、事了歸著、次官符請印

少納言惟信勤之、廳事了、官掌義行申請印了、由、左右少辨史等出立門前、上卿

被渡南所之後、官掌又申其旨、右大辨起座、予又同起向南所、先於門前暫列立、

辨侍直申、下官與奪、其後相引著座、此前少納言家俊、南所北庇格子三間下之冬儀者、

時真申文、某國大社文、曆得業生了、右大辨則起座、先被參內了、次立箸食如例、

次辨少納言於門前出立、北東上卿參議相揖被過了、後平寄如例、於陽明門內出立、又如常、被參陣、相從右大辨於床子座被見文、史廣親次於陣有申文、如

例、藏人右少辨時範下吉書、則給起座、是上卿初被著之故也、則予持外宮造

宮使輔清解狀覽上卿、々々可奏者、一通判官主典可被補事、〇祭本月十一日一通

請奏事、則參御直廬內覽、參御前奏聞、出陣座下申上卿、上卿被下子、仰史勘先

例、重內覽奏下如初、殿下仰云、今日々次宜、早可令勘日時、仍相催陰陽寮之處、

上薦道言朝臣、家榮、光平、親宗、已上四人、觸左右大將產穢者、泰長又私穢、仍召

遣本寮頭成平之處、頻申所勞由不參、數度召遣、及亥刻參來、勘申日時、今日月廿三日、

入外記宮內覽奏下、〇中略、鈴印辛櫃等ノ修理ノコト、及深更牛一之後退出、

○伊勢兩大神宮行事、造豐受大神宮使等ヲ定ムルコト、九月十五日ノ條ニ見ユ、造豐受大神宮山口本本祭ヲ行フコト詳カナラズ、

七日、乙亥內御物忌、

〔中右記〕十月七日、禁中一日御物忌也、供朝夕膳宿仕、

十五日、癸未、一日內御物忌也、入夜從內有召馳參、被仰云、今日女房陪膳三位、從午時許月障出來、仍御膳已闕了、暫候下侍邊、牛一之後可參御前者、仰奏時

嘉保元年十月七日

五二七

早令指牛時、後參御前、供夜侍了退出、此曉新典侍被參也。
十八日、今明禁中御物忌也、依當番供朝夕膳了宿仕、
十九日、又御物忌間終日候御前、牛一之後與民部大輔、藏入兵部大輔同車歸家。

○十五日ノ御物忌等、便宜合斂ス、

十日、寅政、造豐受大神宮役夫工等ノ官符ニ請印ス、尋テ、之ヲ造宮使ニ下ス、

〔中右記〕

十月八日、雖可有政、依少納言三人觸穢延引、略中

朝大盤以後、從內退出之次、行向新中納言、通御許言談、已及深更歸家、辨藏人

相具、習禮作法也。

十日、天晴、有政、依可請印伊勢外宮役夫工等官符也、辨侍來催、供朝干飯饌後參結政、已於陽明門下、上卿新中納言通俊卿參逢、相共至外記門下、予西面ニ立、上卿東面ニ立相揖、予入外記門、上卿被著左衛門陣屋、此事且隨上卿命也。立假裝間、史有保以下七人列立、次第著本座、頃而座頭史有保覽荒文、美作上卿、左宰相中將、保實被著廳、外記結申、先官掌申無申、文之由如例。次少納言家俊請印官符等此間

少納言ノ觸穢ニ依リテ延引ス

外宮役夫工官符請印

美作荒文

雨儀

上卿以召使被示送云、今日初所行雨儀政也、而近代無大辨時、依不可有申文、令申南所物忌由、必強不著之、然而初行雨儀政之日也、不可申物忌由、必可著南者、史申上此旨許諾了、上卿參議被渡南所、予又同渡、少納言家俊來具於南所門下、直申如例、欲著本座處、所司未儲物云々、暫徘徊、以使部相催數刻、聞已參來之由、先少納言家俊著座之後、召大舍人後予著居物了、後未立箸前、予申上云、申文無之、上卿聞此旨了、後立箸、是儀近代失了、隨上卿諷諫也。食了後、予少納言家俊列立舍西簷下、西面北上、頗向亥戌角。上卿參議相揖被過了、又予家俊還入舍南一間立、辨東面家俊西面相揖出了、是所謂壁中揖也、近代絕了歟、雖然今日之議、已存古風、仍所行也、次渡參陣、上卿先被著奧座、今日外宮判官主典被補官符內印也、仍所被行內文也、外記兼催所司上卿令下官奏事之由、依無上藤職事也。仰聞食之由、上卿渡著端座、召官人令置膝突、召外記々々參入、是覽官符、一枚外記爲內覽參殿下、頃而還來、上卿見官符返給外記、々々出了、召官人、召近衛將監、々々參、上卿命云、印ヲシテ還入之後、令立案於東庭、從中門方少納言家俊近衛將監、置官符於印盤持、三人立案東頭、少納言持官符重覽上卿、々々見了後、返給少納言、以官符置印盤上、請印、印也、如本還入、其後上卿退出。

請印ノ次第

壁中揖
外宮判官
主典補任
官符請印

造宮使官
符ヲ携ヘ
テ參宮ス

嘉保元年十月十日

五三〇

今日下遣造宮使許官符宣旨等、一々見了後、以行事史廣親相具書仗給造宮使之使者、從明旦下向來十四日彼造宮使依吉日、具件官符等可參宮由、所申請也、仍今日外印內印一日之中所忿行也、官符目六、在別紙、於朝干飯方、掌侍美濃從御簾中給屯田稻奏、則於陣下史有保、今日上藤、仰令成官符、件奏不下上卿、仍官符面不引上卿者、是古實也、終日勤仕女房陪膳、宿仕、
十四日、復日、甲午、或陰或晴、時々小雨、江中納言左大辨、季仲、兩人著座之後、初所被著政也、仍辰時許予參結政、大夫史以下史七人參會、則著本座了、頃而左大辨右少辨時範、少納言惟信、家俊等參著、又上卿被參者、美濃、史覽文於左大辨、又覽予、美作國、先左少史廣親結申式日申文、史生覽官符於左大辨被加署也、此間上卿被著廳、官掌信季不稱鳴高、失歟、次召使來云、著廳給へ、左大辨被著廳、先大史、申可南、官掌申云、申文、大夫史申云、申文有、予并右少辨起座、出外記門著深沓、史三人追來、次廊戶前列立、辨西面南上、史南面東上、少次申文、先少納言家俊、予、右少辨、少外記通景、右大史成俊、右少史通貞、時真、列立南庭、當版立、六位、唯稱之後、予依爲四位辨進著一座、次第著了後、予先起座、申之、右少辨云、先可摩、後聞之也、依新中納言通諷諫不摩靴已了、居本座、史等一々申上、每與奪、摩靴

辨官起座
ノ作法

官符請印

重テ吉書
ヲ覽ルノ
可否

內宮造宮
使ノ非法
シテ制止セ

上野吉書

嘉保元年十月十日

五三一

稱唯事、一々退歸、出外記門後、著淺履復本座、史又付座了、次有官符請印事、少納言惟信、少外記廣忠勤之、廳事了後、外記門前有出立、左大辨先被出外記門、辨少納言未出前也、小失禮也、此間皇太后宮權大夫公定相公被參來、乍淺履被加列、是故實歟、予、大夫史留本座、予問大夫史云、今日所見給之吉書已美作國也、是前日見了書也、而重被覽事如何、大夫史申云、官中之習、於吉書強不慥、雖官奏、同吉書、度々被入奏者、頗有咲氣、頃而予立座向南所、於門前直申入著座、史時真申文三枚、吉書二枚、匙文一枚、食了後、辨少納言出立門前、上卿兩相公相揖被過、平寄如常、於陽明門下有出立、引渡參陣、暫在床子座、左大辨被立座、次々辨皆立了、左大辨又還著床子坐、覽申文、右大史成俊勤此役、次於陣申文如例、藏人右少辨時範下吉書則賜之、其後予退出歸家、休息之間、從關白殿有召、重參入、以時範被仰云、內宮造宮使諸國使猶張行非法、重可加制止由、且傳上卿、且又可尋沙汰者、申承了由、秉燭之程歸蓬門、今日小雨、問衣裳濕損、新中納言通俊卿被談云、左大辨被著政之日、上臈宰相被參會條、尤前例所忌來也、今日已不然、左大辨不覺語、如何者、
十七日、早旦參結政、史皆參各著本座了、大夫史覽文於予、上野國、頃而右大辨

役夫工沙
汰國解文

內宮行事
解狀

講師

嘉保元年十月十日

五三一

左右少辨參加、史時眞覽文於右大辨、時移之後渡參陣、直申如例、與奪、○中略

今日要日結政、是古實者、

廿四日、申時許行向上卿、（儀後）新中納言御許、覽役夫工沙汰國解文書等、則參關白殿內覽相模大和國解、以職事成實被仰云、令召問相模國在廳官人等、并前司經敏沙汰者、至于大和解狀者、追付行家朝臣令申者、則參內奏聞相模解狀、十一月三日、（高略）辛丑、○中略伊勢內宮行事史盛忠付解狀等、八日、終日候內、於對南面殿下被仰文之事、文之次相模在廳官人等、早可召問由承仰、○下略伊勢例幣ノコトニカ、九日、○中略春日祭ノ中宮使權大進仲實相模國事、以消息申上卿、則下行事史盛忠了、

○十四日以後ノ政、便宜合敘ス、伊勢兩大神宮遷宮行事、造豐受大神宮使等ヲ定ムルコト、九月十五日ノ條ニ、造豐受大神宮役夫工等ノ官符ニ請印スルコト、十一月二十八日ノ條ニ見ユ、

興福寺維摩會、

〔維摩會講師研學暨義次第〕

（朱書）「內大臣師通、三月九日任長者之讓也、依大殿師實、男號後二條殿、年卅五、萬廿五日、法相宗、興福寺、言藤原

研學

勅使

暨義

維摩會後
奏

御讀經日
時勘申
同僧名定

治五年、伊房子、權僧正賴信入室、大僧正覺信弟子、依學師賴謹已講、九月十日、（朱書）「四日、專寺良喜、萬廿六日、講師宣旨即辭退了、仍其替被請補矣、（朱書）「勅使左小辨有信、（朱書）「當法印權大僧都賴尊、二月十日、蒙寺探願宣、（朱書）「治五年、（朱書）「大數信、（朱書）「新長者內大臣師通始、勅使同、（朱書）「講師經尋、興福寺、暨義、延覺、重、後慶、廿二、東

〔三會定一記〕

一 嘉保元年、甲戌、九月、（朱書）「中納言伊房息、（朱書）「大數信、（朱書）「新長者內大臣師通始、勅使同、（朱書）「講師經尋、興福寺、暨義、延覺、重、後慶、廿二、東

〔中右記〕

十月十七日、○中略

右少辨有信參殿上口、令藏人明國奏維摩會後奏、御覽了後返給、（依為地、下辨也、參維摩會辨官必參仕、

十二日、（庚辰）軒廊御卜、是日、禁中ニ於テ、法華御讀經ヲ行フ、

〔中右記〕

十月十二日、（庚辰）入夜民部卿俊明卿、皇太后宮權大夫公定參仕仗座、先有軒廊御卜、○中略次孔雀經日、三七御讀經結願、○本年九月二十則被始法

華經御讀經、先藏人兵部大輔通輔承仰、召道言朝臣於所、令勘日時、今日時戌云々、又於朝干飯方、被定申御讀經僧名、九口民部卿同被奉也、

十一月廿三日、（辛酉）○日者候陣外御讀經二座、（大般若、二、九月、三月、法華經、并仁王講、月、二

嘉保元年十月十二日

五三三

御讀經座
ヲ移ス

嘉保元年十月十七日

五三四

十三日ノ被入御前、但非晝御座、以渡殿爲御讀經所也。
十七日、西齋院ノ穢ニ依リテ、伊勢例幣日時勘申ヲ延引ス、尋テ、宇佐使
ノ發遣、齋院相嘗祭、山科祭ヲ延引ス、

穢氣ノ有
無ヲ占ハ
シム

〔中右記〕十月十七日、○中略、政ノコ今日依可被勘例幣日時、催具陰陽寮相
待上卿參、未時許帥大納言被參也、則欲勘申日時之處、藏人辨時範爲殿下御
使仰云、一日齋院之中聊有違例事、卜筮所告穢氣者、然者此例幣過穢氣疑可
有歟、又依穢氣疑、被行御占例勘申者、陰陽助家榮申云、去治曆四年十二月神
今食、依穢氣疑、被行軒廊御卜、又其後於陣頭有如此御占、爲申件由、藏人辨參
院大殿關白殿數度、及深更歸來云、可有穢不之由、令陰陽寮占申後、隨被申可
有一定者、則令道言朝臣家榮占之處、御占形云、有穢氣者、仍以延引、不知何日
歟、

世間穢氣
ノ疑アリ

十一月七日、今日以往去月八日以後、世間有穢疑、是左大將殿小兒非常之間、
○十月三日其穢遍滿天下云々、而有御卜處穢氣者、仍以往神事皆延引、宇佐
使、例幣、五日齋院相嘗、今日山科祭皆以延引、
○齋院相嘗御神樂ヲ追行スルコト、十一月十八日ノ條ニ、伊勢例幣ヲ

追行スルコト、同月二十日ノ條ニ、宇佐使ヲ發遣スルコト、十二月四日
ノ條ニ見ユ、山科祭ヲ追行スルコト詳ナラズ、

直講中原師遠、天文密奏ヲ上ル、

〔中右記〕十月十七日、○中略直講中原師遠奏天文密奏、

○安倍親宗、天文密奏ヲ上ルコト、十一月三日ノ條ニ見ユ、

二十一日、巳前關白師實、四天王寺ニ參詣ス、

〔中右記〕十月廿一日、○中略

此曉大殿令參詣天王寺御、明日令參著彼寺給也、一七箇日令籠給也、御共
人中宮大夫、師新大納言、家大藏卿道良朝臣、殿上人此外不參、地下人前中
務少輔廣綱、刑部大輔家信、諸大夫四五人許云々、依密儀不及廣歟、

廿四日、○中略、皇居堀河殿炎又早差使者、令參天王寺、是去廿一日大殿御彼
寺也、○下略

廿五日、○中略今夜亥終許、大殿從天王寺令歸給、今朝已刻有其告也、

〔天王寺舊記〕（傳抄）同年十月廿二日、大殿下參詣當寺給、御隨從大納言師忠卿、權
大納言家忠卿、大藏卿道良卿、地下人中務少輔廣綱、刑部大夫家信、并諸大夫

嘉保元年十月二十一日

五三五

七ヶ日參
籠

密儀

皇居炎上
ニ依リテ
歸京ス
隨從者

四五輩相扈從

同廿四日、京都大火、出火、西陣、因之翌日廿五日大殿下還御、

二十二日、庚寅清水寺供養、是日、關白師通、十座仁王講ヲ修ス、

〔中右記〕十月廿二日、庚寅天晴、今日關白殿有十座仁王講、十口云々、中略

今日清水寺新造之後、有堂供養云々、

導師權少僧都隆禪者、都人市女爲結緣參集如雲、火事之後、此兩三年依十方施主知識、終土木之功云々、

〔師守記〕貞和五年三月三日、甲午、天晴、中略今日清水寺炎上事御注進之、中略

〔師守記〕貞和五年三月三日、甲午、天晴、中略今日清水寺炎上事御注進之、中略

清水寺炎上并造營事、中略

嘉保元年十月廿二日、新造清水寺供養、件寺去寛治五年三月八日夜燒亡、寺家結構貴賤結緣、中略

右隨所見、粗注進如件、

三月三日

大外記中原師茂

〔園太曆〕貞和五年二月廿七日、天晴、今日午刻許當巽有火終日、傳聞清水寺

導師
都人雲集

寺家ノ造
立

寺家ノ經
營都鄙貴賤
寄進ス

悉拂地燒失、本佛奉殿出云々、

清水寺炎上并造營間事、中略

嘉保元年二月廿三日、新造清水寺供養也、寺家結構營土木功、都鄙貴賤隨分奉料物云々、中略

右例依仰注進如件、

貞和五年三月二日

左大史小槻清澄

○歷代編年集成、一代要記、異事ナキヲ以テ略ス、清水寺燒失ノコト、寛

治五年三月八日ノ條ニ見ユ、

二十四日、壬辰皇居堀河殿炎上ス、依リテ、火ヲ高陽院ニ避ケ給フ、尋テ、大

炊殿ニ遷幸アラセラル、

〔百練抄〕五堀河天皇 十月廿四日、皇居堀河院燒亡、主上遷御大炊殿、

〔中右記〕十月廿四日、中略雖非當番、供夕膳、而藏人宗佐依殿下仰云、人々慥

可候宿者、仍宿仕、夕大盤了後、予與左京權大夫俊賴朝臣、藏人兵部大輔通輔

朝臣三人、脫束帶休息直廬、互以清談間、漸及亥刻、大風頻吹、忽聞西陣方雜人

走叫之聲、而大風盛吹程、存成諠譁之由不驚之處、彌以大叫、三人出直廬見之、

嘉保元年十月二十四日

五三七

西陣ヨリ
出火
中宮御方
ヨリ還御
内侍所御
物ヲ取出
サシメ給
フ
中宮出御

劔璽ヲ具
シ給フ
宿耀御手
宮ヲ取出
サシム
納殿雜物
ヲ搬出ス
師通消火
ニ努メシ
ム
炎氣禁中
ニ滿ツ

高陽院ニ
遷幸

諸卿參會
馬場殿ニ
御ス
上皇及ビ
中宮高陽
院ニ渡御
檢非違使
ヲシテ禁
中ヲ守護
セシム
紫宸清涼
スノ兩殿災

御所ノ方
位ヲ相ス
上皇六條
殿ニ還幸
大炊殿ニ
行幸

西二棟ノ
廊ヲ内侍
所トナス
宗忠ノ感
想

嘉保元年十月二十四日

五三八

西陣方小屋等燒亡、火炎高盛飛燼滿天、則入直廬、著衣冠走參御前、于時主上從中宮御方、悉還御本殿、仰云、宗忠早參中宮御方、可寄御車、俊賴向內侍所、早可奉取出、通輔可取出、清涼殿御物等者、依勅命、三人走散東西、予向宮御方寄御輦車、不懸簾於下簾等於北廊南面、立御几帳、奉乘了、宮司一人未參入、仰侍等令取出御物、又令出女房等於左衛門陣、則歸參御前、申中宮令出御了、由于時腰輿寄南殿、被取出御物等大事物等也內侍所并大刀契、又置陣廊、鈴印辛櫃、七合殿上御倚子、時簡、管絃具等皆相尋處、各以取出了、予奏云、御劔璽宮慥候哉、仰云、吾自持之、又奏云、在夜御坐宿耀御手宮候哉、則命通輔尋遣已了、早取出者、殿上人三人之外藏人宗佐、遠實、隆重、今夜候宿也、遣宗佐取出納殿雜物等了、宗佐納殿沙汰藏人也關白殿、江中納言、匡房、民部卿、俊明右中將顯實、少將有賢參來、殿下令雜人等消火、雖然西風大吹、非可救消、炎氣大滿禁中、已付南藏人町屋西簷、并右衛門陣屋上、內侍所、西中廊也、了、爰主上令持御劔璽等給、右中將顯實令置御輿中、仰右少將有賢令寄內侍所、又右大將乍布衣參入、重服復以前重仰云、又可參中宮御方、走還奏云、中宮御方大進仲實、右大將候、又左大將乍烏帽子直衣馳參、火炎高上後、已有行幸、從東門令出御、經二條洞院西大路、到高陽院南馬場末門、而門戶已鎖、早不

能開間、暫以遲々、

行幸間、藤中納言、基忠并左少將俊忠、布衣早參入、又於此處、公卿雲客諸陣官人等多以參會、此間天台座主仁覺參入、候御前、則開門、暫御馬場殿屋、于時上皇從六條殿馳御車、御幸南門前、中宮同以乍御車御此處、又早差使者、令參天王寺、是去廿一日大殿御彼寺也、殿下召予被仰云、可仰別當、早遣檢非違使、可令守護禁中者、此間火炎高盛、南殿御殿燒也、猶西風大吹、已欲及東三條、又遣檢非違使消火、禁中之火已滅了、程風又吹止、誠天運之令然也、火之起出從大宮東二條南小屋、失火而大風甚盛、須臾及禁中也、夜半許火消了後、有御所沙汰、而主計頭賀茂朝臣道言申云、六條殿當大將軍方、此高陽院當王相方、御所已在大炊殿、近日大后御坐也、大炊御門南西洞院東則可有行幸之由、議定已了、其後上皇還御六條殿、仍太后令、恐立給、御此高陽院小宸殿了、丑刻許行幸大炊殿、寄腰輿於南階、左右宰相中將經實保實、取劔璽前行、暫御東對代廊、御殿未定之間、暫為御所也又西二棟廊為內侍所、東侍廊為殿上、寢殿與東對代廊渡殿為中宮御所、此外今夜未被仰下、從今夜別雖不被仰下、則警固六陣立平張參集、略○中
今夜候宿事、奉公之志深所致也、人々不參前、走散東西、隨心及目及沙汰之

嘉保元年十月二十四日

五三九

嘉保元年十月二十四日

五四〇

間、神心迷亂身體依違、但今夜候逢事、誠夙夜奉公之徵歟、
裏書國史以後皇居燒亡廿四度、內裏十四度、里亭九度、村上一度、太政官朝所一度。

天德四年九月廿三日、庚申、夜、內裏初燒亡、

內侍所并大刀契、鈴印、累代寶物燒了、但靈鏡不損、從灰中求出也、見御記、

天延四年五月十一日夜、內裏燒亡、貞元元年也、

天元三年十一月廿二日晝、內裏燒亡、臨時祭日也、

同五年十一月十七日夜、內裏燒亡、

長保元年六月十四日亥時、內裏燒亡、一條院四度、

同三年十一月十八日亥時、內裏燒亡、

寬弘二年十一月十五日夜、內裏燒亡、

內侍所靈鏡燒損半、公卿有神鏡定、太刀、節刀、契等燒損云々、

同六年十月四日半夜、一條院燒亡、三條院二度、

長和三年二月九日亥時、內裏燒亡、

同四年十一月十七日、內裏燒亡、後朱雀院四度、

長曆三年六月廿七日戌刻、內裏燒亡、

同年九月九日子刻、京極院燒亡、長久元年也、

內侍所靈鏡爲灰燼、太刀契等許取出云々、

長久三年十二月八日、內裏燒亡、

同四年十二月一日丑時、一條院燒亡、後冷泉院六度、

永承元年二月廿八日亥時、朝所燒亡、

同三年十一月二日夜、內裏燒亡、

天喜二年正月八日寅時、高陽院燒亡、

同年十二月八日、京極院燒亡、一年二度、

同六年二月廿六日子時、新造內裏燒亡、遷御未在大極殿同時燒亡、康平元年以前也、

康平二年正月八日夜、一條院燒亡、

同六年三月廿二日夜、豐樂院燒亡、

治曆四年十二月十一日未時、二條殿燒亡、院一度、

承曆四年二月六日丑時、高陽院燒亡、太上皇二度、

永保二年七月廿九日午時、內裏燒亡、相撲後朝、

寬治八年十月廿四日亥時、堀河院燒亡、今上、

嘉保元年十月二十四日

五四一

命婦備後ノ夢想

燒失ノ御物

年中行事障子四搬屏風ヲ搬出ス

藏人頭伺候ス

衛府官人不參者ヲ勘責ス例幣幣物行事官掌宅ニ於テ燒失ス

嘉保元年十月二十四日

五四二

昔貞觀十八年四月十日子時大極殿、小安殿、廻廊等燒亡、又康平六年三月十三日、豐樂院燒亡、此外諸司舍屋燒亡、不可勝計、

後聞、内侍所博士命婦^{備後}、語云、去夜有夢想、又件夜内侍所鈴大鳴、成奇之處、已皇居燒亡、是其徵歟、誠雖末代、可恐者神道也、

廿六日、○中略

燒了物等御厨子共内侍所下床臺者、在内侍所雜劔櫃一合、節會公卿大盤御帳三所、^{中殿}一、版位、火燒屋等、内侍所臺、御湯殿具、御障子共、^{年中行事障子取出、四}季御屏風、此外御物皆取出了、

廿八日、○中略、御帳修理奏、此間、兩貫首有故障不參内、但一夜火事之間、頭中

將被參陣外、頭辨初著冬宿袍被參内了、其後不被參、^{○下}

十一月三日、辛丑、早旦從内參結政、^{依始政也、○中略}藏人兵部大輔通輔下吉書、^{内藏寮}

時公用米五石、^{殿上之文}杖一夜已燒了、○中略

燒亡之夜不參六府陣官人、兵部大輔通輔奉仰尋勘責、

七日、○中略、入夜與藏人兵部大輔同車參内、參殿下御直廬、申云、彼例幣々物、^{幣物燒失之由初所聞也}

一月二十日、一夜内裏燒亡之次於行事官掌信季宅燒失了者、^{○下}一條參看

劔璽ノ箱ヲ具シ給フ宗忠寶器ノ所在ヲ尋ネ奉ル

僧名定

講師宣下

大乘會停止ノ議

法勝寺大乘會

○京都帝國大學所藏文書、續左丞抄、迎陽記、歷代編年集成、十三代要略、皇代曆、天王寺舊記、異事ナキヲ以テ略ス、

〔古今著聞集〕

政道忠臣

寛治八年十月廿四日亥時計に、内裏燒亡有けり、

^{宗忠}中御門右府右中辨にて侍けるか、宿侍せられたりけり、いそぎ御前へ参りて、御劔璽の箱は候やらんとたつねまいらせければ、みつからもちたるそと勅答ありけり、其外の寶物どもをも、一々にたつねまいらせて、分明の勅答を承けり、事急になりて、腰輿すてに南殿によせられたるほどになりける中に、心はやく一々に分明に申ける、いみしかりける事也、

〔中右記〕

十月十二日、庚辰

入夜民部卿俊明卿、皇太后宮權大夫公定參仕仗座、^{○中略、軒廊御下}次被定申法勝寺大乘會僧名、^{卅口、}又同法會講師宣旨被

下、^{阿闍梨寺}、已上二ヶ條右少辨時範奉行、

廿五日、曉暫歸家、遂電參内、公卿多被參内、於殿下御直廬有僉議、公卿直衣、^{○中略、陣定ノコトニカ、ル、本}從昨日、法勝寺大乘會也、而可止哉、否事被問、外記定俊真人申云、前例正月御齋會間、禁中有火之時不被止彼會者、仍准件例、猶

嘉保元年十月二十四日

五四三

皇居炎上
依リ音
樂ヲ停ム

藏人辨退
出ニ依リ
テ停ム

前關白師
實參内ス

皇居燒亡
後行フ例
シテ勸申セ

廢朝ナシ
御簾ヲ下
止メ音奏ヲ
日時ヲ勸
申セシム
テベキ諸事
ヲ定ム

奉幣及ビ
御卜ヲ行
ハズ

嘉保元年十月二十五日 二十六日

五四四

可行大乘會由被仰行事辨時範了右少辨重資有但被止音樂障替所奉也

廿六日○中略陣定ノ晚頭事了公卿多被參法勝寺大乘會衛府公卿垂纒成天被參彼寺也

但帥大納言一人被止了依被勸申日時歟○本月二十六日ノ條參看

二十五日巳大殿祭

〔中右記〕十月廿四日○中略皇居堀河殿炎上ノコトニカ、ル

今夜神祇官爲供大殿祭參入而藏人辨追還奇怪也

廿五日○中略今夜神祇官供大殿祭予今夜白地退出

二十六日午紫宸殿御帳ヲ立ツル日時等ヲ定ム是日內侍所ヲ大炊殿東

中門南廊ニ奉遷ス

〔中右記〕十月廿五日曉暫歸家遂電參内公卿多被參内於殿下御直廬有僉

議公卿直衣但依爲重日明日可有陣定由被仰下了

廿六日曉大殿令參内御午時許公卿太多以參集束帶於殿上有此定關白殿

直衣御座御倚子前大殿御座御殿南庇公卿帥大納言經信民部卿俊明右衛

門督公實左衛門督俊實新中納言通俊江中納言匡房左大辨季仲朝臣等也

自餘人々不關僉議先以藏人右少辨時範里亭皇居燒亡之時被行例令進勸

文入筥廢朝事ハ必不被仰下里亭仍別不被仰下但從一夜下御簾止音奏不

供朝夕膳

可被立南殿御帳事

可被造內侍所御床事

可被造陣時杭事杭一

可被立內膳屋事

可被造置版位事版位

節刀櫃可被作事

以上可勘日時之由僉議已了

清涼殿事北對與西對

奉幣事

御卜事

神社事御違例之由度々見御卜猶燒亡事可有御卜也

件二ヶ條不被行也予倩案此事至御卜者先必可被行也先例禁中火事之時必所行來也

嘉保元年十月二十六日

五四五

就中今度去九月例幣已延引、宇佐遷宮延引、近曾欲被立之處、又穢氣之由見御占、仍頻延引、○本月十七條參看以之思之、猶可有御卜歟、晚頭事了公卿多被參法勝寺大乘會、○中略本月二十條參看但帥大納言一人被止了、依被勘申日時歟、○中略本月三十日ノ又未有公卿座、仍以西中門廊假爲公卿座、但不取簀子敷、此大炊殿已從堀川院當禍害方、是天子所令忌御也、仍咫尺之內、暫今年許不可有大犯土之由、道言所申也、

陰陽師賀茂道言日時勘文

帥大納言著陣座召子、不置膝突、依有簀子敷也則從簀子敷參入、命云、令陰陽寮勘申上件

五ヶ條日時、則於陣腋令道言朝臣勘申、上官等、假以此處、爲床子座沙汰之間已入夜、勘文

云、可被立御帳日時、十一月十一日己未可被造內侍所御辛橫臺日時、今日甲午時

戊二點、奉居新臺日時、可被造時杭日時、今日廿六日甲午時可被立內膳屋日時、始

同日甲午時可被造置版位日時、今日廿六日甲午時

同日甲午時可被造置版位日時、今日廿六日甲午時

奏聞、先參關白殿御直廬、仰云、可御覽大殿、又參大殿御直廬覽之、仰云、早

可奏聞、則奏聞還參關白殿御直廬、申此由、仰云、可下上卿、々々召外記給筥了

後、又召予被下勘文、一々結申了、於陣頭下大夫史祐俊宿禰了、上卿被出了、殿

勘文ヲ内覽ス

内侍所御床ヲ作ラシム

版位ヲ置クノ例

下仰云、今夜早任勘文旨可行也、又内侍所可定御所東中門南廊也、今日々次宜、子刻可奉渡也、其前可令作出御床也、則召集修理木工内匠寮等、令恣作御床并時杭版位等、又從御所彼中門廊、板敷下也、ツヅル仍床下又作假板敷一間、可奉安置之由有仰事也、置版位事相尋先例之處、中務下部所置來也、而大夫史申云、家記云、以近衛將監可置者、沙汰之間未一決程、依召參御前間、大夫史已以近衛將監令置了、後聞、新中納言通俊卿云、新版位尤以中務下部所置也、白地相撲之時、近衛將監所取置也者、大夫史失歟、以此旨、問大夫史處、語云、先例内裏燒亡之時、版位失時、只以近衛將監置之由見故父記者、不知是非、可尋事也、時杭作了付奏時、○内、堅了、

時杭ヲ作ル内侍所ナ移シ奉ル

内侍所渡御供奉

内侍所從西二棟廊、令奉渡東中門南廊事、藏人兵部大輔通輔奉行、伴日時不勘之由、道言朝臣所申也、只以子刻可奉渡者、左右近次將以下一員可供奉旨、皆相催予、又依之作御床并假板敷、令渡給間、同可供奉也、依可潔齋於直廬、聊小沐浴、與顯實通輔同以沐浴、事具了後、參向內侍所、左近少將忠教朝臣、帶壺固間也右中將顯實朝臣、帶壺將監以下各一員、依近々女官等奉昇之、予并通輔相從、西中門南廊、北面先中央間假板敷一間上、立新床、其上安置所入奉

辛橫并ニ
本臺ヲ安
置シ奉ル

小地震

兩貫首不
參

御簾ヲ上
リ音奏ア
ゲ

之辛橫并本臺、其後契、橫、大刀納辛各一合安置了、先件廊子二點事了宿仕、
廿七日、終日候御前、午時許白地大殿令退出給、入夜人々於殿上清談之間、亥
時許小地震、頗以為奇、候宿殿上人濟々、右宰相中將仲實垂纓參內、警固之間
人々為奇、

廿八日、朝大盤以後、行向帥大納言許、申御帳修理請奏事、其後歸家休息、
此間兩貫首有故障不參內、但一夜火事之間、頭中將被參陣外、頭辨初著冬宿
袍被參內了、其後不被參、仍五位藏人奉行万事、人々或冬直衣或夏宿衣相雜、
廿九日、參內人々、多以參集、今夜宿侍、

卅日、戊戌○今日依吉日、初朝夕晝御膳有音奏、上御簾陪膳右少將能俊朝臣、
中略〔禁祕抄〕下內裏燒亡、必有廢朝、但里內或有廢朝或無廢朝、寬治堀
河院燒亡、自次日有廢朝、警固如恆、上皇又渡御有例、自門下御、

○皇居炎上ノコト、本月二十四日ノ條ニ、節刀辛櫃造進ノ日時ヲ勘申
セシムルコト、同月三十日ノ條ニ、節刀ヲ内侍所ニ納ムルコト、十一月
二日ノ條ニ、内膳屋ヲ造立スルコト、同月三日ノ條ニ、紫宸殿御帳ヲ立
ツルコト、同月十一日ノ條ニ、内侍所ヲ中門廊西渡殿ニ奉移スルコト、

同月二十三日ノ條ニ見ユ、

三十日、戊戌公卿定、内裏造營ノ可否、大炊殿中ノ清涼殿ノ位置等ヲ議定シ、
又節刀辛櫃ノ造進等ノ日時ヲ勘申セシム、尋テ、右中辨藤原宗忠、右近
衛中將藤原顯實ヲシテ、燒毀セル節刀ヲ檢索セシム、

六條殿遷
御ノ議

〔百練抄〕五堀河天皇 十月卅日、諸卿於御前定申可遷御六條殿否、并造伊勢
大神宮之間、可有造内裏哉否事、又節刀間事有議定、件節刀右中將顯實朝臣
自灰中選出大刀十枚之中、有靈劔一也、為節刀之由被定畢、

燒損ノ節
刀ヲ實檢
セシム

〔中右記〕十月廿六日、略○中 午時許公卿太多以參集、東帶於殿上有此定、略○中
清涼殿事、北對與西對之間未定也、

雜劔ナリ
トノ説
參集ノ公
卿

爰召右近中將顯實朝臣、令實檢所燒之節刀、申云、件劔所見付十柄、身許但古
節刀圖不叶、若是雜劔歟、殿下仰云、不尋得實否間、暫不可勘日時由被仰也、件
劔本自入櫃、所被加置内侍所也、而今度不取出由女官等所申也、一夜火消了
後、令藏人木工助明國求灰中、則求出劔身十柄也、暫置藏人所也、非節刀者是
雜劔卅柄之由、見村上御記件劔歟、略○下
卅日、戊戌於殿上有公卿定、關白殿、御直帥大納言、經中宮大夫、師新大納言、家

嘉保元年十月三十日

五五〇

諸國疲弊 依リテ 皇居造營 延期ノ議 節刀ノ辛 櫃ヲ作ル 宇佐宮黃 山及彦 公卿大炊 殿ノ對屋 陰陽師賀 茂道言辛 櫃造進ノ 勤日等ヲ 殘存ノ所 納メシム

民部卿、(後)右衛門督、(公)左兵衛督、(後)新中納言、(通)江中納言、(匡)皇太后宮權大夫、(左)左大辨、(季)未時許參集、大殿令候御殿給、先內裏可作哉否事、諸卿多被申云、伊勢大神宮內外遷宮之次、(北)諸國役夫工等相催之間、多有亡弊聞、過今三年可被造營歟、多以同申云、又此大炊殿中清涼殿西對與北對之間、以何處可爲善哉、公卿兩方被申歟、又置內侍所節刀櫃已燒了、如本作櫃可被置乎、先今日依吉日可被加置內侍所者、此次前日宇佐黃金正體、竝彦山事、(六月五日)頗被定申歟、又音奏供膳事等者、僉議了後、依仰公卿皆悉廻見西對北對等、殿下同御覽西對可有便宜之由被申歟、此間左宰相中將保實被參加、

今夜帥大納言於仗座召予、參進、被命云、節刀櫃可作納日時令陰陽寮勘申、則於陣頭令道言朝臣勘可被造節刀御辛櫃日時、(今月卅日)被納節刀於御辛櫃日時、(十一月二日)一枚覽上卿、々々召外記筥、則令予內覽殿下、白地令退出給、仍參二條亭、付職事基綱內覽仰云、早可奏下者、其次被仰云、節刀卅餘柄之由、已見天曆御記、而一夜藏人明國所求得纔十柄也、若是殘猶在灰中歟、明且汝與右中將顯實相共行向堀川院內侍所之跡、可尋求者、又今夜件劔十柄在藏人所、近衛將監一人相共先可納內侍所、(天德例權左中辨國光與近衛將監一人相共先可納內侍所)

內匠寮ヲ 辛櫃ヲ 始メシム

古老女官 辛櫃ノ 本樣ヲ 問フ

節刀ヲ 燒跡ニ 搜索ス

膳屋造立ノコトニカムル、則歸參、日時勘文奏下、則下大夫史祐俊宿禰了、召十一月三日ノ條ニ收ム、又相具右近將監大中臣行季付藏人所、從出納許所取出之節刀十柄受取、令將監置內侍所了、(博士命婦備後受取了)、則以消息、早且可被參會堀川院之由、示顯實中將許了、及深更退出、

十一月一日、(己亥)、早且著束帶參內、先付內侍所召集古老女官等、問節刀櫃本樣之處、申云、長四尺許、黑漆、(但其)無鑲、鎰只以綱結之者、則以此旨可作之由、召仰行事史了、于時顯實中將參會、同車行向堀川院內侍所燒跡、令吉上五六人許尋求、已無求得者、大略從本有雜劔十柄歟、則參賀陽院、(殿下)令歸了之間、聞馳參二條殿、(中將)殿下御東小寢殿南面、(北)夫被候、面不求得之由、令申了、又歸參奏聞此旨、其次有被仰事等、晚頭歸家之次、行向新中納言通俊卿許談萬事、又顯實中將來會、及深更歸家、

〔禁祕抄〕

(下) 內裏燒亡

內裏燒亡之後必有殿上定、凡殿上定主上著御殿上倚

子、御直衣也、寬治評定如此、如節刀有實檢用近衛司、(寬治)先以藏人令求也、求節刀又辨官、天德國光、寬治宗忠、皆相具將監求也、

〔濫觴抄〕

(下) 造節刀

同年十月卅日、戊戌、令造節刀、件刀本四十八也、而度

嘉保元年十月三十日

五五一

々炎上之後今度自灰中求出、僅十柄云々、

○皇居炎上ノコト、本月二十四日ノ條ニ、節刀櫃造進ノ日時勘申ヲ議
スルコト、同月二十六日ノ條ニ、節刀ヲ内侍所ニ納ムルコト、十一月二
日ノ條ニ、宇佐宮黄金ノコトヲ議スルコト、寛治七年十月十四日及ビ
永長元年五月十六日ノ條ニ見ユ、

十一月己亥朔

一日、己亥神祇官、御贖物ヲ供ス、是日、御曆奏、

〔中右記〕

十一月一日、己亥、中略

○神祇官供御贖物如例、

天下依有穢氣疑、
參、付内侍所奉之也、
十七日

陣座ヲ改
作ス
公卿座ナ
シ
御曆奏ヲ
内侍所ニ
付ス

參殿下、問外記廣忠、申云、今日依御曆奏、欲相催上卿之處、陣座被作直間、已無
公卿座、工等數十人作公卿座也、仍無便宜、先例上卿有障不被參時、直付内侍
所奏聞、然者准彼例、雖無上卿、付内侍所可奏歟、仰云、然者早雖上卿不參、付内
侍所可奏者、大殿從内令退出給、新殿下又令參内給者、

〔園太曆〕

觀應二年十月廿六日、天晴、中略

○抑御曆奏、上卿奏聞之儀、御旅所之

間、仗座未被渡之上、上卿已下曾無出仕人、可爲何樣哉之旨、被仰合、上卿不參
之時、直付内侍所、准此例可有沙汰哉旨申入了、彼例注進之、

御曆奏上卿不參付内侍所例、中略

〔樗囊抄〕

嘉保元年十一月一日、同奏、上卿不參、依先例付内侍所、

行中 御曆奏、十一月一日、上卿不參、嘉保元、付内侍所

二日、庚子、節刀ヲ内侍所ニ納ム、

〔中右記〕

十一月二日、庚子、

天晴、午時許參内、先參關白殿御直廬、付職事說長

御曆奏ヲ
内侍所ニ
付スル例

節刀ヲ先例
ナハシム
問ハシム
經信ニ許
問セシム

新作辛櫃
納ニ節刀ヲ
ム

節刀十柄

切鋒八柄

令申、今日任勘文、可納節刀於新作辛櫃、而宗忠一人可納歟、將又他人相共可
候歟、○中略、内膳屋造立ノコトニ收ム、仰云、略、納節刀事、先可問先例於外記、若
不詳申者、行向帥大納言許尋問、可隨彼命者、於陣邊依仰旨、尋大外記定俊真
人之處、不詳見之由所申也、仍行向帥大納言許、一條京極宅以仰旨令傳之處、被申
云、件事先例不見、但天德四年内裏燒亡之時、被遷節刀於他處日、辨官一人、近
衛將監一人相具監臨之由、見外記勘文、然者付彼例可被行歟、歸參申此旨、被
仰云、至近衛將監遷他處時可相具也、於内侍所已納之間、猶次將一人可相具
也、與右中將顯實朝臣共可奉納也、依仰與彼中將向内侍所、官行事所新作辛
櫃一合、長四尺、黑漆、中朱漆、無鎖匙、以朱綱結之、件相具與彼中將共取出節刀
十柄、一々監臨納辛櫃、

節刀十柄、此中有靈歟、

劔樣

切鋒八柄、

一柄、長二尺五寸五分、左方ニ府形、纒見打界也、左鋒ニ雲形、

一柄、長二尺、殘鋒二寸許、師及柄本五寸四分、目貫之穴二、

一柄、長二尺二寸、峯ニ有銘文云、後立、此物字不見、下許見、其上鳥尾形、纒在、柄本六寸、穴一、不見文、

靈劍

鯨尾二柄

女官陪見

顯實靈劍
圖ヲ所持

泰長家藏
靈劍圖ヲ
師通ニ進
明ノ所
說

以上二柄、若是靈劍歟、

殘六柄、長二尺四寸、但柄本或六寸、或四寸、等相加也、劍并腰不見、

鯨尾二柄、

一柄、長二尺四寸、一柄、長二尺、柄本四寸、

以上十柄皆以燒損、

納了後、以朱綱結固之、于時内侍所博士命婦一人、備後女官三人、上野、百濟、奈良相共見之、其後與中將共參御直廬、申納了由、

裏書

件靈劍二柄圖、權中將顯實朝臣所被持也、彼家相傳也、明法博士允亮所抄
政事要略百卅局中詳見也、為一本書不在他家、而件節刀沙汰之卷、隨身直
廬與下官共披閱之處、大略今日所見之古劍二柄相叶也、尤有與、件書中天
德内裏燒亡時、陰陽師晴明奉勅命作營之由所見也、而安倍泰長為彼末葉、
此靈劍之圖、今所獻殿下也、彼中將圖與泰長圖皆以相叶、是有指南也、
長德三年五月廿四日、藏人信經私記云、遣召主計助安部晴明、召問宜陽
殿御劍等事、申云、件御劍卅四柄也、去天德内裏燒亡之日、皆悉燒損、晴明

破敵劍
守護劍

百濟國ヨ
リ進獻セ
ル劍

劍ハ庚申
日ニ作ル

大祓日時
勘申

嘉保元年十一月二日

五五六

爲天文得業生之時、奉宣旨、進勘文所令作也、卅四柄之中二腰名靈ハ一腰破敵、一腰守護、但件劍有鏤之歲次并名等、又同鏤十二神日月五星等之躰也、而燒損之後不見其文、仍所獻勘文也、御劍樣乃本形也、件破敵是遣大將軍之時所給節刀也、一腰是名守護、候御所是也、去天德以後度々燒亡之後、未被作、件二腰本是百濟國所獻云々、今日取遣劍身六柄之中、靈ハ二腰也、實有其真、件靈刀等國家大寶也、必可被作儲者、天德奉勅以備前國撰獻假治白根安生令燒、其實其高雄山也者、七八月庚申日必可作此劍者、其故仰造酒令史安倍宗生等也、今年八月廿六日是庚申日也、然而已爲九月節、又日次不宜、明年七八月庚申日可被始作歟、
○節刀辛櫃造進ノ日時ヲ勘申セシムルコト、十月三十日ノ條ニ見ユ、
大祓、是日、皇居炎上ノ後、始メテ御浴殿ノ儀アリ、
〔中右記〕十一月二日、庚子、天晴、○中

今日權中納言通俊卿參仗座、被勘申大祓日時、令藏人右少辨時範奏、今日件大祓所被行也、皇居燒亡之時所行來也、參議皇太后宮權大夫公定著行者、

木工寮ヲ
シテ御浴
殿ヲ造作
セシム

兵亂ノ兆

師通内膳
屋ノ造立
ヲ沙汰ス

造立ノ日
次ヲ定ム

上卿

今日初有御浴殿、物具等皆以燒了、仍仰木工寮令作進也、

○皇居炎上ノコト、十月二十四日ノ條ニ見ユ、

三日、辛丑天文博士安倍親宗、天文密奏ヲ上ル、尋デ、又上ル、

〔中右記〕十一月三日、辛丑○天文博士親宗進密奏、藏人明國奏、兵亂云々

十九日、略○中 天文博士親宗奉密奏、

○中原師遠、天文密奏ヲ上ルコト、十月十七日ノ條ニ見ユ、

皇居炎上ノ後、初度ノ政アリ、是日、内膳屋ヲ造立ス、尋デ、竈神ヲ奉遷ス、

〔中右記〕十月卅日、略○中 仍參二條亭、付職事基綱内覽、略○中 其次被仰云、略○中

又内膳屋今夜可立也、而只今御所廿七丈之中也、遷御西對之後、追撰日可立者、件事等先取御氣色、仍所被仰也、

十一月二日、庚子、天晴、午時許參内、先參關白殿御直廬、付職事說長令申、略○中

又今日内膳屋可立也、而從御所相當太伯神方、以後日可立作歟、先相尋陰陽寮之處、明日々次宜之由被申者、仰云、内膳屋然者明日可立也、

三日、辛丑、早旦從内參結政、依政始也、漸進外記門之間、上卿江中被著左衛門陣座、

進著本座、從斯以前左右大辨、季仲、右少辨、時範、在座聞、左右大辨見吉書了後、

嘉保元年十一月三日

五五七

官符請印

仗座ヲ作
リ直ス

吉書

御方違ア
ラセラル

上棟
御本所ニ還

又左少辨有信、參來、頃而上卿被著廳、座頭史祐俊宿禰可申南文、三枚結申、諸
 枚得業生文一枚、次依催左大辨被著廳、左右少辨史三人申文、少納言惟信、外記通
 景加之、事了各還著本座、次官符請印、少納言家俊、外記廣忠、勤之、廳事了後、上
 卿參議被渡南、出立等、次右大辨被出了、次下官渡行南所、左右少辨、於門下直
 申、予與奪、入著各座、先少納言惟信在座、追又少納言家俊來著、申文史通真、ツキ
 了辨少納言先出立門前、上卿參議相揖被過後、辨少納言平寄如例、於陽明門
 內有出立、渡參內、西洞院下車、於江中納言被著仗座、件仗座在西中門南廊、今
 日初作直了也、有申文、左大辨先於床子座被見文、右大史成俊勤之、申文了後、
 藏人兵部大輔通輔下吉書、內藏寮臨時公用米五石、殿上之文杖一夜已燒了、
 也、兩貫首不出仕之、上卿召予、進出居膝突、被下吉書結申、上卿仰云、申旨万々、
 間、五位藏人奏下也、則出陣下左大史延行、了上卿退出、略、○中
 今日戌刻立內膳屋、其所從町尻東、先申殿下奏事由、只今之御所東對廿七丈
 之中也、可令避犯土御也、中寢殿西庇暫供御座、中宮主上暫令渡御也、權大進
 御裝束、主上、其後差行事史通真可立件屋、五間二面、卯酉、先例也、戌四點立屋
 上棟之由行事史申上、則奏事由還御本所、侍臣渡不扈從、與中宮、件屋如先日勘

宗忠行事
ノ諸事

文者、去晦日可立也、而聊有議延引及今日也、頃又可勘申日時也、然而帥大納
 言被申云、如此依凶事重不勘日時、內々被問陰陽寮、雖不勘申何事在哉者、仍
 付彼被申、不被勘也、可爲善、略、○中

裏書

皇居燒亡之後予奉行事等、

日時勘文

令作內侍所御床事、內匠寮、但依可早速作出、

立內膳屋事、職、修理

作入節刀橫事、內匠寮、漆工等

南殿御帳修理事、堀川院南殿御帳、燒了、仍尋大嘗會時御帳、欲立之處、破損

召分、召分、料

南殿版位、修理職、作之、右近將監置之、是大夫所行也、後聞木工寮、可作、中務

此條誤也、由下知之、處

火燒屋、修理職、作之

陣座時杙、一作加、修理

御竈神奉渡事、

六日、早旦參殿下、面御竈神可渡奉內膳屋之由、令申之處、仰云、上卿江中納言

御竈神ノ
引ス

者、則向彼卿家仰此旨、次參內、今朝大殿令退出給、入夜新殿下從內令參內御、仰云、今日竈神奉渡可延行者、牛一之後退出、

十一日、己酉、早旦天陰、○中略、結政ノコトニカ、本月五日ノ條ニ收ム、

定御日時

申時許江中納言被參仗座、藏人辨時範仰云、可勘申御竈神奉渡內膳屋之日、時、上卿召予、參入被仰此旨、則令陰陽寮勘申、今日戌二點、上卿令予內覽并奏、則下

渡御ノ行

上卿、々々被下予、又召外記可催四府之由被仰下了、戌二點上卿江中納言予、外記廣忠、史通貞、竝諸衛宮主相共行向、一夜之後、件御竈二條北堀川東、上卿與中宮御竈神同所ニ俄奉置也、

祭神ノ儀

以下步行、先左衛門府、次御竈神、左右兵衛相別左右、宮主相具、次上卿辨外記史、次右衛門、行向新造內膳屋奉置之後、宮主御竈神祭間、上卿辨外記史列立戶前、

御井祭

往古數座、上卿以下著之、事了各退出、宮主又御井祭勤仕者、左右兵衛佐、皆壺胡籙、尉以下一員、某、左右衛門共佐不參、以尉爲代官、此中

檢非違使平胡籙也、上卿無勅授宣旨、先例者、○中略、

御竈神奉渡間事等、

先成宣旨於所司召物、

宣旨ヲ以テ所司ヨリ物ヲ召ス

絹一疋、布五段、以上大覆料、枴八支、宮內省、衛士十六人、左右衛門、宮主催儲

宮主先進御竈神祭御內膳御炊、

以上辨仰史令催也、

左右衛門左右兵衛佐以下一員、

渡御ノ供奉者ノ例、天德四年

上卿仰外記令催、昔少納言供奉、近代絕了、天德四年內裏有事、令渡他所給時、件竈神日時勘文、權大納言源朝臣奉行、其由見御記、其後遷宮之時多於

藏人所被勘日時、被下上卿也、今夜依天德例也、

件事等偏依上卿江中納言之命也、

御竈神事、

御竈神由緒

長德三年三月廿一日藏人信經私記云、今日雨降、又遣召宮主令奉御祓、厨

子所并、仰詞云、陰陽寮依例奉仕癸御祭、而月來之間奉仕之勤不如法也、此

由所不知食也、爰日者御膳非例、仍令占申之處、御竈神主崇之奉致者、此由

可祓申者、兼信奉宣旨向彼司、奉仕御禊、還參令奏聞云々、內膳司御竈神三

所也、一所平野、件癸御祭奉仕之神也、一所庭火是尋常御飯奉仕之神也、一

所忌火三神也、是則十二月新嘗祭、六月神今食祭奉仕之神也、而癸御祭不

如法之由、欲祓申之處、件平野神無所在、仍召問司官人、申云、件神圓融院御

嘉保元年十一月五日

五六二

時爲人所盜取、依件神事朝臣奉改以後、納置內膳御戶宅內、是有事危之上、依無神殿也者、因之月來於庭火神御前奉仕、件癸御祭云々、是尤乖舊規、則奏聞事由、宣旨云、隨兼信所申之旨、如舊跡可令奉仕者、仍召修理職官人等、仰造立神殿之由、又召陰陽師晴明、光榮等、令勘申可立神殿之日時了、昨日依左大臣仰、召宮主兼信奉仕御祓、御所件記從治部卿許、通後借得而書付也、

○皇居炎上ノコト、十月二十四日ノ條ニ、內膳屋造立日時ヲ勘申スルコト、同月二十六日ノ條ニ見ユ、

五日、卯、癸結政、尋テ又行フ、

〔中右記〕十一月五日、終日休息、後聞右大辨、基朝右少辨參結政云々、

十一日、己酉早旦天陰、參結政、外記門前外記廣忠、史盛忠、宣行三人出向云、陰陽寮鐘頻報、定知刻限移、仍退出也者、則引件人等漸還出之間、外記四九此前程史成俊參來、又相具出陽明門、欲乘車之間、外記定政、通景、史廣親參來、于時天晴、遲參上官三人申云、上官等早退出之條頗有疑、慥見刻限可一定也、就中同日、上日之輩可爲憂者、遲參之人遂參結政、○下略、南殿御帳ヲ立

近衛府使
故障ヲ申
ス

師實神馬
ヲ立テズ

坎日ニハ
神馬ヲ立
テズ

平野祭御
禊

十日、申、戌春日、平野等諸社祭、

〔中右記〕十一月九日、早旦退出、依例奉幣於春日社、近衛府使右少將源有賢欲立出處、俄身有溫氣、無術之由、大將被申也、仍可用代官之由被仰下了、中宮使權大進仲實、○中

裏書 九日、大殿春日祭不令立神馬給、是依長者辭退也、

只奉幣許也、其由作告文差清家朝臣被申本社也、例使五位也、今日被用四位、依有告文歟、餘社モ自此以後不可立神馬、關白殿又不令立神馬給、長者後祭日依當坎日歟、

十日、戌、申諸社祭等如例歟、

於東對南面有平野御禊、兩貫首不參、仍以右中將顯實爲陪膳、使民部大輔基兼、

〔兵範記〕

仁安三年十一月三日、庚申、天晴、○中今日平野祭、○中

（隆季）大理云、今日雖欠日勤神態、中納言後嘉保元年十一月十日、右大丞辨官初度此祭奉行之日欠也、被示、令任中納言時、氏神事不可准他由、度々有例之上、納言昇進之後、初勤此祭庭事之由被申、仍令奉行云々、准彼年例并江家跡所勤仕也

嘉保元年十一月十日

五六三

云々、

〔春日祭歷名部類〕春日祭

同年十一月十日、戊申、祭

近衛使右少將有賢、申代官、

十一日、酉梅宮祭、南殿御帳ヲ立ツ、是日、大炊殿東對ヨリ西對ニ遷御アラセラル、

〔中右記〕

十一月十一日、己酉、早旦天陰、○中略、政ノコトニカ、其後引參陣、

依無辨侍無直申、于時已四點也、追通景等來云、天晴日景不及黑事二三寸許

御帳ヲ立
ツル時ヲ
報ズ
中宮梅宮
奉幣

者、依爲行事、任日時勘文、令立御帳、南殿、懸帷了、中宮御方依當梅宮祭有奉幣、

西對ノ裝
束

職事宮司不參、予勤仕陪膳役、治部少輔懷季益供、○中略

今夜主上從東對遷御西對、先藏人玄蕃助宗佐率所衆、御裝束如例、但西中門

以北從彼堀川院當禍害方、御忌方者、仍不可有大犯土之由、道言朝臣所申也、中門

北廊殿上前簀子敷等不被放棄、中門以南之廊取板敷爲公卿座、渡御日時先

遷御ノ日
時勘申
遷御

師實師通
供奉
吉書
中宮渡御

於藏人所被勘、今日、戊申、秉燭之後、從南殿御後敷筵道、掌侍二人取劔璽、出居左

密儀
安和二年
ルノ例ニ依

宰相中將保實取劔劔前行、主上、御直衣、新宰相中將宗通取璽、殿上人取指燭前

解陣

今夜依密儀、無饗饌并反問之事也、渡御之間、予依御竈神渡奉不候、後以人

渡御ノ儀

說所記也、江中納言談云、安和二年圓融院初渡御清涼殿之時、主上御束帶

渡御之後有解陣事、上卿中宮大夫、

〔禁祕抄〕

下殿舍渡御 寬治堀河院燒亡後、大炊殿從東對還御西對、敷筵道、主

上御引直衣、內侍二人取劔璽出、宰相中將經實、宗道等取之、有前後殿上人候

脂燭、關白以下公卿四五人皆束帶扈從、次有吉書、藏人方、先於殿上內覽、今度

依密儀、無公卿饗饌并反問、

○皇居炎上ニ依リテ、大炊殿ニ遷御アラセラル、コト、十月二十四日

ノ條ニ、南殿御帳ヲ立ツル日時等ヲ定ムルコト、同月二十六日ノ條ニ、

大炊殿東渡殿ニ遷御アラセラル、コト、十二月二十八日ノ條ニ見ユ、

上皇、鳥羽殿ニ御幸アラセラル、

〔中右記〕十一月十一日、己酉、早旦天陰、略○中

今夜上皇御幸鳥羽殿者、

十三日、○中略、御惱ノコトニカ、ル、從院有御使、院只今從鳥羽殿還御二條殿者、

十二日、戊庚大隅正八幡宮燒失ス、

〔百練抄〕堀河天皇十一月十二日、正八幡宮燒亡、件宮去寛治年中有火、土

木未半分之間也、

〔石清水八幡宮記録〕○山城八幡宮寺縁事抄 正八幡宮燒失例

嘉保元年十一月十二日、丑刻、(作方)申、代神殿重燒失、大隅、薩摩、日向等國司可造進

之由、同二年、被定下了、

〔歷代編年集成〕堀河院十一月十二日、大隅正八幡宮燒亡、件宮既寛治五

年有火、仍仰大宰府造營土木之勤、漸及半分、今重有此災、神慮難測云々、

〔十三代要略〕堀河院十一月十二日、正八幡宮燒亡、由、後日言上、

○大隅正八幡宮燒失ノコト、寛治五年十二月十三日ノ條ニ見ユ、

十三日、辛亥大和長谷寺燒失ス、

二條殿ニ還御
神殿造營
半バニシ
テ災ス

大隅薩摩
日向國司
日向國司
進セシム

放火

〔中右記〕十一月十三日、略○中

裏書、長谷寺拂地燒亡、是放火云々、

〔徵古雜抄〕大和一社寺文書 長谷寺文書

長谷寺燒失、

燒失社殿

嘉保元年十一月十三日、夜、長谷寺燒失了、正堂、同禮堂、鎮守、同拜殿、鐘樓、食堂、

昇廊、中門、大門等皆成火燼畢、(灰)觀音堂、昇廊、中門等、承德年中雖令造營、自餘不

事行之間、經卅餘年、天承元年、遂供養了、七僧導師覺譽律師、六十僧、舞樂等如

例、

〔百練抄〕堀河天皇十一月十五日、長谷寺燒亡、

○興福寺略年代記、皇年代略記、十三代要略、皇代曆、東寺王代記、異事ナ

キヲ以テ略ス、長谷寺堂佛像造立ノ日時ヲ勘申セシムルコト、嘉保二

年七月十三日ノ條ニ見ユ、

御惱、

〔中右記〕十一月十三日、略○中 午後主上頗不例御也、有溫氣、入夜兩殿下令參

内給、人々參集從院有御使、略○下

嘉保元年十一月十三日

上皇御使
ヲ奉リ給

溫氣增加
アラセラ

御藥

御痘瘡

師實師通
等奉幣ス

官符請印

嘉保元年十一月十四日 十五日

五六八

十四日、天陰雨下、從曉小減氣御也、又從申時許以後玉躰猶不例、溫氣彌增者、
略○中 午時許白地退出、則歸參宿仕、

十五日、終日候内、玉體猶不豫也、
略○中 宿仕、

十六日、早旦退出、未時許參内、
略○中 有御前試、件試前例后宮不例之時被止也、
而主上御藥之間已有此事、頗不得心者、
申時以後玉體溫氣已散御者、又宿仕、

十七日、早旦退出、未時許 直衣、參内之次、
略○中 次參内、

〔長秋記〕

目錄 寬治八年十一月

中宮御方依主上御痘瘡無朗詠、

○御惱ニ依リ、臨時二十二社ニ奉幣スルコト、本月二十日ノ條ニ、御惱
ノ後、始メテ御浴殿ノ儀ヲ行ハセラル、コト、十二月四日ノ條ニ見ユ、

十四日、壬大原野祭、

〔中右記〕十一月十四日、天陰雨下、
略○中 今日大原野祭、兩殿下爲奉幣、白地令

退出給、則令歸參給、

十五日、癸五節、

〔中右記〕八月廿八日、天陰雨下、早旦參結政、
略○中 少納言成宗請印官府、
辨左大

五節定

舞姬參入

帳臺試ニ
出御ナシ
帳臺ノ戸
ヲ開キテ
窺フ者ア
三獻形ノ
如ク遊興
ニ及バズ
中宮御方
盃酌ノ儀
御前試

殿上淵醉

宰相中將、
五節、
節官符云々、

十月五日、癸西、天晴、
略○中 今日於晝御座藏人兵部大輔定申五節人々、仍御讀

經暫陣外、及深更歸入也、

十一月十五日、
略○中 今夕五節參入、以東對代廊爲五節所、入夜行向宰相中將

許、訪五節事、同車參内、左大辨五節安藝舞姬等曉參者、宰相中將并但馬守隆
時、五節舞姬如法從北陣方參入、帳代試間無御出、頭辨沙汰萬事之間、開帳代
戶人々見之、頗以奇恠也、

十六日、
略○中 未時許參内、頭辨以下濟々參集殿下、
無召 但不及遊興、如形有三

獻、五節預藏人式部丞定仲束帶、
青色 有小饗應、事了引參入中宮御方、無盃酌
各々退下、若人兩三人、辨藏人等出衣、此外無著出衣、有御前試、件試前例后宮
不例之時被止也、而主上御藥之間、
日ノ條參看 已有此事、頗不得心者、
略○中 今

日藏人辨時範束帶、

十七日、早旦退出、未時許 直衣、參内之次、先行向新中納言亭、暫清談、次參内、頭

辨以下於殿上如形有淵醉、五節預式部丞定仲、
布袴、三獻了令退出、
略○中 新
トニカ
、化、

嘉保元年十一月十五日

五六九

帳臺ノ戸
ヲ開ク告
ニ依リテ
師頼定仲
ヲ勘事ニ
處ス

中宮御方
ニ朗詠ノ
儀ナシ

嘉保元年十一月十七日

五七〇

十二月二日、入夜參内宿仕、聞、今日頭辨并一薦式部丞定仲恐懼、是五節之間、舞姬入之後、開帳代戸萬人見了、奇恠者、依件事從院被申、被召問彼兩人、無所陳歎、仍以勘事、頭辨縱不知故實、雖表奇恠、職爲貫首、被恐懼事如何、爲藏人頭者勘事、近代頗所不聞也、日ノ十二月六條參看

〔長秋記〕 目錄 寬治八年十一月

但馬五節參入院御隨身立明、

舞姬各參上儀、帳臺〇

中宮御方依主上御庖瘡日ノ本月十三條參看、無朗詠、

御前試事、

童下仕裝束事、

十七日、卯、新嘗祭、是日、神祇權少副大中臣資清、神祇官ニ於テ、御祈ヲ行フ、

〔中右記〕 十一月十七日、略 中 予著束帶、戌刻許參神祇官、入從北門著南屋、西

間、上卿辨、外記、史座北面、宰相、少納言座、酒司南面、親王西面、壁下、史生、官掌、召使等東面、居饗饌、予參入之後、上卿通俊、參議、宗通、少納言成宗、參著、陰陽寮下

掌侍等正
廳ニ著ス

部時守申時、掌侍藤惟子引率采女々官、乘納女等、參著正廳、亥刻神祇官欲供

夕膳ノ儀

夕膳前、采女上卿以下起座、進正廳前、著小忌日陰蔓、洗手、帶劍人解先上卿取

曉膳ノ儀

御手巾奉之、次宰相辨、昇板枕、宰相東面、奉之、次少納言昇御壘、還著本座、人々

被著尋常儀、可供夕膳、頃而徹夕膳、丑刻供曉膳、事了後、又人々起座、徹御手巾

板枕御壘等、脫小忌退出、

上卿命云、猶著小忌、先可著座歟、又中古、少納言、已北面者、尋常儀上卿先著

南門座、所司具了後、可進座者、從今夜、神祇權少副大中臣資清、宮外

十八日、丙辰豐明節會、是日、七瀬御祓、四界祭及ビ齋院相嘗御神樂等ヲ行フ、

〔中右記〕 十一月十八日、酉時許著小忌參内、節會御裝束如常、但依無御出、御

座間、以東懸御簾、人々參集之後、先引陣、左少將忠教朝臣、右中將賢宗、輔、宗內侍召人、內

辨帥大納言、經外辨座、小忌新中納言、通新宰相中將、宗大忌中宮大夫、師新大

納言、家民部卿、俊右衛門督、公左大將、忠別當、俊江中納言、匡皇后宮權大夫、公

左大辨、季著座了後、小忌辨少納言著床子、上官等在後床子、中宮大夫召外記

問所司具否、次開門、召了少納言成宗起座、進中門、其後外辨之人々被立座、辨

嘉保元年十一月十八日

五七一

節會御裝
束出御ナシ
内辨
外辨

嘉保元年十一月十九日 二十日

五七二

立座前、公卿引進出、次第如例歟、不能委記、兩殿下令候給、亥刻事了、殿下仰云、今夕齋院相嘗御神樂也、殿上人多可參入者、或入召人、仍多參齋院、予依入召人乍著小忌、恐參入、御神樂如例、新大納言家節會了後、令陰陽寮勘申廿二社奉幣日時、○中予雖為行事、依參齋院、語付藏人辨時範、々々則奏下者、夜半御神樂了後歸家、今夜有七瀬御祓并四界御祭等、

十九日、中女王王祿、

〔中右記〕十一月十九日、○中

王祿左宰相中將保實、權右中辨重資勤之、

二十日、戊午伊勢例幣及^ビ臨時二十二社奉幣、

〔中右記〕十一月七日、今日以往去月八日以後世間有穢疑、是左大將殿小兒

非常之間、其穢遍滿天下云々、而有御卜處穢氣者、仍以往神事皆延引、宇佐使

例幣、五日齋院相嘗、今日山科祭皆以延引、入夜與藏人兵部大輔同車參內、參

殿下御直廬申云、彼例幣々物一夜內裏燒亡之次、於行事官掌信季宅燒失了

者、仰云、早參大殿可申此旨、則參高陽院付盛長令申、御返事云、早重下宣旨於

諸國、可催幣物、又如此時御占被行哉否條、被問外記可被進止者、歸參付職事基綱申此旨、則奏達宿仕、

八日、○中今夕又宿仕、藏人大輔通輔幣物燒亡事被問外記、先例有御卜者、

十二日、庚戌天晴、○中次參高陽院、左大將御曹司參內供膳、戌時許新大納言

家忠卿參仗座、藏人辨時範仰事之由、上卿召辨、予參入、伊勢例幣日時令勘申、

則仰陰陽寮令勘申、今日戊午予進勘文於上卿、々々召外記筥、付予令內覽、則參

二條殿內覽歸參奏、又下上卿、々々下予、則下新少史時真、又藏人木工助明國

件奉幣請奏下上卿、上卿召予下給、同下行事史時真了、今夜宿仕、

十八日、○中新大納言家節會了後、令陰陽寮勘申廿二社奉幣日時、明後日、予

雖為行事、依參齋院語付藏人辨時範、時範則奏下者、

十九日、○中新大納言家被奏明日宣命草、大內記在良作

廿日、戊午天陰、雨雪共下、例幣并臨時廿二社奉幣也、依為行事辨早旦參八省、

白雪粉々、行事官掌光經私宅之藏去夜燒亡、但至幣物者、皆渡所司了不穢、彼

光經一身穢之由所申上也、仍仰二官掌吉行之處、不辨濟國々沙汰之間、頗以

懈怠、阿波下總寄事於掌侍平仲子周防參向、且於小安殿中、令裹伊勢幣物、掌侍

嘉保元年十一月二十日

五七三

女官二人、内藏寮官人、忌部一人、行事辨共檢察

幣物二箇度料例幣并臨時幣時刻推遷、上卿并使々參議被參、此間社々幣未具了、上

卿召予被問幣物具否、申云、行事官掌光經私宅燒亡、俄以觸穢、如此之間自致

懈怠、早可催具者、則立座重相催、已及申刻、具了上卿遷渡東廊座、内記辨、外記

史等行事相具使、祭主親定申云、兩度幣一度可給歟如何、上卿命云、宣命一紙

同使也、然者一度可給也、仍祭主等引使々賜幣物了、次召使王賜宣命、次召内

記返給筥了、後上卿還著本座、召諸社使賜宣命、石清水後輔朝臣賀茂參議、松尾參議

仲平野參議、稻荷義綱朝臣、自餘使五位、但丹生、貴布禰、神祇官々人六位、使々

立了後、上卿被退出、行事辨以下上官等出立嘉喜門西腋、予歸參大内、申使々

立了由於殿下之次、不辨濟國々令注申了、殿下仰云、慥雖後日可令催成、

今日奉幣之間玉體不豫、依無御浴殿、○十二月四日、無御拜、又伊勢宣命一紙

之中有辭別、先例幣有故延引之由、皇居燒亡之由、玉體不豫之由者、至諸社

宣命者、偏不豫之由被祈申者、入夜歸家、

〔伊勢公卿勅使雜例〕 九月例幣延引例

八年九月例幣延引、十一月廿日進發、上卿權大納言藤宗忠、宣命云、依故障延

宣命 諸社使 稻荷使義綱 御幣ニ依リテ御拜ナシ 御平癒ヲ祈ル

大神宮へハ兩度幣ヲ一度ニ給ス

請奏

宗忠通俊ニ吉田祭事ヲ習フ

上卿

三獻

倭舞定

二十二日、庚申、吉田祭、

〔中右記〕 十一月十九日、○中略大納言召辨、予參入、下給吉田祭請奏、則下新少

史時真了、

廿一日、晚頭行向新中納言家、尋習吉田祭事之次、萬事清談、及夜半退歸、

廿二日、庚申、天陰雨下、○中略未時許參向吉田社、雨脚頻下、先須著行事屋也、而

上卿左大辨季仲已參會者、仍著々到殿、辨入從北著座、無官別當藤季任、有官

替、上官等、外記廣忠召仕氏人忠季等參著、次辨申所掌事於上卿仰之、次掃部

敷宮主座、南庇次宮主參入、次置卜串、卜祝師了起座、次一獻氏人獻盃、辨執酌、

上卿給辨、々轉氏人、々々等轉上官、所司獻盃無官別當季任、次外記入卜串於

宮覽、上卿上卿令開、又見了返給、次二獻、居汗氏人諸大夫上三獻了、上卿命云、

長者殿并后宮儲、今日皆被付所司、仍不可仰祿事者、次季任申上卿倭舞定申、

奉幣

祝詞

直會

倭舞

神態祿

上卿仰之、五位一人未參、至忠季合卜者、定了後外記雖可申代官、左大辨初依被著行止之、次上卿以下起座出從南辨同、到鳥居下洗手進、昇一御棚上卿、辨人、次々御棚氏人等又昇之著奉幣座、雖可敷庭中、依、內侍下奉幣、氏人同奉幣、付社司、次敷祝師座雨儀、中、祝師忠季著座祝詞、馬寮御馬率立長者殿御馬可奉給、仍、祝了拍手、上卿以下拍手、御馬廻八度、馬九一、上卿以下著直會殿、東屋不見來、、大膳居膳、大藏省曳幔、三獻了盡事、無轉、上卿召々仕二音、參入、仰云、宮ノ内ノ省召

參入、仰云、御飯堅ニ給へ、稱唯退出大膳參入、申給了之由、次敷和舞座、和舞七、、參入、仰云、御飯堅ニ給へ、稱唯退出大膳參入、申給了之由、次敷和舞座、和舞爲綱朝臣爲定、朝臣追參加也、季任雅樂發笛、外記進見參於上卿、々々給辨、乍起座給之後、目史下、于時秉燭之間也、事了歸家、予初奉幣此社祭從夏祭雖可立始、今日依爲行事、又不可不立今奉幣也、去大原野分配也、而依當凶會日、相替左少辨有信、今勤此祭也、左大辨又新任日ノ條參看之後、初被著行也、仍歸家有神態祿云々、

二十三日、辛酉、內侍所ノ鳴動ニ依リテ、御トヲ行フ、是夕、內侍所ヲ大炊殿東中門廊西渡殿ニ奉遷ス、

〔中右記〕十一月廿三日、辛酉、略。

近衛府ノ供奉ナシ

於所有御下、近日内侍所類令、鳴給、恠異者、略、中、今夕内侍所遷御東中門廊西渡殿、日者御同中門北廊也、已同廊之前也、依程、近衛府不相共也、五位藏人時範一人沙汰、

〔禁祕抄〕

賢所 禁中事

有瑞相鳴動光、堀河院御時寬治八年頃、度々有此事、

天德燒亡之時、又鳴云々、

○皇居炎上ニ依リテ、內侍所ヲ大炊殿東中門南廊ニ奉遷スルコト、十月二十六日ノ條ニ見テ、

賀茂臨時祭ヲ延引ス、

〔中右記〕

十一月十一日、己酉、早旦天陰、略、中

十一日未時許有臨時祭定、

十二日、庚戌、略、天晴、略、中、初有臨時祭調樂、以左近陣座東御隨身所也爲樂所、行事藏人

左近將監仲兼、

十三日、略、中、午後主上頗不例御也、略、中

臨時祭調樂、有御神樂、依神事、不止也、

十九日、略、中

嘉保元年十一月二十三日

定

調樂

御惱ニ拘
ハラズ御
神樂ヲ行

巳日調樂
ヲ停ム

御禊ナキ
ニ依リテ
延引ス

御痘瘡ニ
依リテ延
引

嘉保元年十一月二十三日

五七八

今夕恆例巳日調樂也、而奉幣前齋如何、巳日調樂未被止、仍被問帥大納言云々、遂被止了、及深更退出、

廿三日、辛酉、中略○今日臨時祭已延引、未有御浴殿前不可有御禊之故也、

〔年中行事祕抄〕十一月十一日 下酉日賀茂臨時祭事

延引例

寛治八年十一月廿三日、賀茂臨時祭、依公家御藥瘡御痘瘡延引、

〔年中行事祕抄〕三月 石清水臨時祭事

同臨時祭延引及四五月例

承安五年三月、主上御痘瘡間也、依以前例并寛治八年御痘瘡之間、賀茂臨時祭延引例等延引、

○御惱ノコト、本月十三日ノ條ニ、賀茂臨時祭ヲ追行スルコト、十二月六日ノ條ニ見ユ、

晝御座ニ於テ、孔雀經、請觀音經ノ御讀經ヲ行フ、

〔中右記〕十一月廿三日、辛酉、中略○

又於晝御座被始行御讀經二座、孔雀經、請上卿江中納言、

結願

十二月十五日、壬午、天晴、中略

御讀經結願者、孔雀經、請

二十四日、壬戌、内御物忌、軒廊御卜、

〔中右記〕十一月廿四日、今明御物忌也、依當番供朝夕膳宿仕、入夜江中納言（皇房）

參仗座、有軒廊御卜、稻荷鳴事、出雲國社、惟異事、

廿八日、今明内御物忌也、天陰雨下、（通使）上卿被招予、依當番、候内御物忌也、（皇房）○

略 晚頭供膳宿仕、

廿九日、丁卯、天晴、依非御藥御物忌、公卿不被參籠、

○二十八日以後ノ御物忌、便宜合致ス、

二十六日、甲子、延曆寺ヲシテ、同寺中堂ニ於テ、千僧御讀經ヲ行ハシム、

〔中右記〕十一月廿五日、白雪紛々、宛如花散、終日候内、江中納言參仗座、有度

緣請印事、入夜退出、

廿六日、甲子、於延曆寺中堂有千僧御讀經、右中將顯實朝臣給度者、仰御願趣、

供料能米百斛、布施各一疋、觀音經十萬局、人別百局、○中略

裏書 千僧御讀經中堂并廻廊食堂相并敷座、綱所不參、只以延曆寺所司被行也、

嘉保元年十一月二十四日 二十六日

五七九

稻荷社ノ
鳴動
出雲國社
ノ怪異

度緣請印

度者

綱所不參

導師

嘉保元年十一月二十七日 二十八日

五八〇

行事權右中辨重資、布施供養丹後重任功、進祈願所物中也、以權少僧都圓觀爲導師也、

二十七日、乙丑三萬六千神祭、

〔中右記〕十一月廿七日、今夕三萬六千神御祭、行事藏人隆重云々、

二十八日、丙寅政、造豐受大神宮役夫工等ノ官符二請印ス、

〔中右記〕十一月三日、辛丑伊勢內宮行事史盛忠付解狀等、

十九日、未時許參殿下、面內覽造宮使解狀并大和國解、則令參內給、爲御供參

內、被仰云、件解狀等早行向帥大納言許、可云合、則向彼卿許、又歸參於御直廬、

付職事有家申返事、略中及深更退出、

廿二日、庚申天陰雨下、午時許先參內、爲上卿使申殿下、伊勢內宮作事懈怠之由、略事了歸

家、

〔中〕歸家之後內宮造宮親長來、

廿三日、辛酉未時許行向新中納言亭、內宮造宮使親長、行事史盛忠參集、沙汰

造宮懈怠事、又下諸國解狀、則參殿下、令參內御間也、爲御共參內、於年中行事

障子邊、內覽相模在廳官人等對問記并行事所請奏、依仰早下行事史了、

內宮作事
懈怠ノ聞
アリ

造宮使解
狀等ヲ内
覽ス

造宮懈怠
ノ沙汰
相模在廳
官人等對
問記

文書御覽
アラセラ
レズ

造豐受宮
諸國役夫
工等官符
請印

造宮使注
文ヲ内覽
ス

造宮懈怠
シテ沙汰
セ

遷宮上卿
行事等造
宮懈怠ノ

裏書

今日下盛忠文、役夫造宮使親長申請文、大和國解、

〔中〕相模在廳官人對問文、已上宣旨、

二十同親長備後國宣旨請文、淡路國解、阿波國解、越後國解、

今日以上先内々可沙汰之由仰了、

〔近日主〕上不御覽文書間、取御氣色所下知也、

廿八日、略中、天陰雨下、略本月二十四日ノ條ニ收ム、有政、上卿新中納言通

俊卿、參議皇太后宮權大夫公定、少納言成宗、是造豐受宮諸國役夫工等官符

請印等、政了後、不參一人引被參内也、上卿被招予、略中、略内、略物、略忌、遷宮事等沙

汰相共被參殿下御直廬東對東西、前之令職事有家造宮使親長注文三通覽、則返

給上卿被申請云、所澁國々兼又催使非法、縱雖不申上、直從行事所、遣官使令

沙汰如何、每度經上奏間、自以遲遲、就中造宮懈怠之由、已有風聞、仰云、早可令

沙汰、又被申云、外宮官符雖付諸國、已不承引、就中美濃、近江兩國、早々可濟國

也、而寄事於左右不進濟者、早遣官使可令責成者、則仰行事史了、

十二月一日、未時許行向上卿新中納言亭、沙汰伊勢遷宮事、行事史盛忠、造宮

嘉保元年十一月二十八日

五八一

コト等ヲ
議ス

嘉保元年十一月二十九日

五八二

使親長、春日神主時經來會、件時經故造宮使維經舍弟也、仍爲尋其間事、所召遣也、造宮懈怠諸國所澁共以沙汰也、及深更歸家、

○造豐受大神宮役夫工等ノ官符ニ請印スルコト、十月十日及ビ十二月九日ノ條ニ見ユ、

齋院令子内親王御不例、

御痘瘡

〔中右記〕十一月廿八日、中天陰雨下、大殿從内令參齋院令子内親王給齋院此三四日有溫氣不例御也、疑是御痘瘡歟、

左兵衛督兼檢非違使別當源俊實、檢非違使別當ノ辭狀ヲ上ル、之ヲ返付ス、

〔中右記〕十一月廿八日、中略

今日左兵衛督俊實卿辭別當狀付藏人右少辨時範令奏、仰返給也、

二十九日、卯秋季仁王會、

〔中右記〕十一月廿三日、辛酉、中略

僧名定

又於仗座中宮大夫、兼中左大辨被定申秋季仁王會僧名、來廿九日云々、

殺生禁斷
官符請印

廿七日、略中有政、江中納言、左大辨被著行云々、仁王會殺生禁斷官符請印云々、

々、

廿九日、丁卯、天晴、中秋季仁王會也、出居堂童子參籠、行事藏人辨、予早旦退出、不見件儀也、

嘉保元年十一月二十九日

五八三

三日、庚午 內御物忌、

〔中右記〕十二月三日、一日御物忌也、終日候御前、松容之次、万事有被仰事、依當番供御膳、下官之外、全殿上人不被候、略 中 天陰、從朝雨下、宿仕及深更殿下

令參內御、

四日、辛未 早旦從內退出、

五日、今明內御物忌也、略 中 入夜參內宿仕、人々多被參籠也、

六日、癸酉 天晴、御物忌也、有賀茂臨時祭、略 中 無御神樂、依御物忌也、

九日、今明內御物忌也、天陰雨下、終日祇候、供朝夕膳、

十五日、壬午 天晴、今明御物忌也、供朝夕膳、略 中 略、改元、ル、

及深更事了、公卿參籠御物忌、依可有明日除目也、略 中 本月十七

十六日、癸未 天晴、改元之後、有政始、略 中 渡參內御物忌也、被參籠公卿、被著仗

座、依除目也、左大臣、（俊明） 民部卿、左大將、（忠實） 新中納言、江中納言、右宰相、（兼實） 中將、左大辨等

也、略 中 後聞、大納言一人不被參籠、

殿上人淵
醉テ行フ

廿一日、一日御物忌、天晴、略 中 予又宿仕、

廿五日、天晴、今明內御物忌也、供朝夕膳、入夜牛一之後、與藏人大輔同車歸家、

晦日、天晴、今明內御物忌也、

〔歷代殘闕日記〕

右大記 十二月十五日、壬午、略 中 略、改元、ル、

今夜不被參吉書、上臈職事不參籠、御物忌之故也、

十六日、癸未 午後雨下、御物忌也、

○五日以後、御物忌便宜合致ス、

四日、辛未 宇佐使ヲ發遣ス、是日、御惱ノ後、始メテ御浴殿ノ儀アリ、

〔中右記〕

十月十一日、略 中

今日宇佐神寶被始、先藏人右少辨時範召道言朝臣於所、令勘神寶可始日

四時奏聞、今日戌刻云々、藏人立蕃助宗佐爲行事、略 中 行事從今

十一月廿五日、白雪紛々、宛如花散、終日候內、略 中 入夜退出、從院有召馳參、令

爲賢申參由、則爲御使參內、是御浴殿事也、令藏人明國奏、又參大殿御直廬付

上皇御浴
殿ノ儀ヲ
奏セシメ

宇佐神寶
始

給フ

宇佐使

神寶御覽

御拜

宣命

請印

神馬御覽

使參著日

出雲守重仲令申了、歸參院申御返事、夜已及亥半、

十二月三日、略○中因幡守長實朝臣爲院御使參入、可有明日御浴殿事云々、

四日、辛未、早旦從内退出、今日御炮瘡之後、初有御浴殿、被立宇佐使也、左兵衛

佐基隆、兼美守、神寶行事藏人宗佐、略○中

後聞、宇佐使被立事、先早旦有御梳櫛并御浴殿、御施瘡後初也、午時許御覽神寶、於畫

方有此事、御直衣、即有御禊、於御殿南面有之、陪膳道時朝臣、貫首不候、役供藏

兩殿下令候給也、人辨時範、藏人兵部大輔通輔供御笏、關白殿令候給、大殿早出御也、令使宮主參

著、御禊了御拜、入御、召使於御前被仰勅旨、於畫御座方也、使退下之間、給御衣、取之、使

下庭中拜舞退出、神寶相具之

先是、俊明民部卿參陣座、被奏宣命并清書及内印文等、了宣命給使、於殿上次有

内文請印事、次左大辨率少納言外記、向結政、請印外文官符云々、又神寶御

覽之後、有神馬御覽、右中將顯實候之、御馬一疋、不置鞍、事了神寶行事藏人宗佐給勅祿、御重

於殿上口拜舞云々、以藏人大輔通輔說所記也、

廿八日、乙未、天陰雨下、今日宇佐使參著日

○穢ニ依リテ、宇佐使發遣ヲ延引スルコト、十月十七日ノ條ニ、御惱ノ

平野社遷宮、

コト、十一月十三日ノ條ニ見ユ、

〔中右記〕十一月廿六日、甲子、略左大臣初參仗座、被賜吉書云々、帥大納言參

仗座、被勘申平野并住吉遷宮、本月二十八日、右少辨時範奉行、平野假殿

日、正遷宮來月左少史盛忠同行事、平野ハ待破損遷宮、略○下

十二月四日、辛未、略○

裏書夜平野遷宮、行事右少辨時範、左大史盛忠行向社沙汰云々、

十日、天晴、略○中史盛忠行向平野社覆勘云々、

法成寺八講結願、

〔中右記〕十二月四日、辛未、略○

後聞、宇佐使被立事、略○中即有御禊、略○中關白殿令候給、大殿早出御也、令參

今日御堂御八講結願也、大殿令行給也、新殿下不令行給、攝籙之後、未被行

之故也、

○八講ヲ始ムル日、詳ナラズ、

上皇及ビ郁芳門院、鳥羽殿ニ御幸アラセラル、

遷宮日時
定假殿遷宮

師實參ル

〔中右記〕十二月四日中略○

今夜院并新女院御幸鳥羽殿

十三日庚辰天陰雨下時々飛雪午後得晴略○中

今夕上皇并女院從鳥羽殿還御六條殿

六日酉賀茂臨時祭ヲ追行ス

〔中右記〕十二月五日略○臨時祭御馬御覽少將有賢候之云々

六日癸酉天晴略○中有賀茂臨時祭先藏人辨時範於所令勘日時今日午刻道

奏聞之後下出納早且依例賜裝束於舞人陪從等關白殿次有御浴殿未刻有

御禊中殿南面庇兩殿下令候給大殿陪膳宗忠頭辨被免勤事十五日藏

人辨時範役供并供御笏御拜了後入御次庭中敷座立御倚子但無出御大殿

令候簾中給藏人兵部大輔通輔召之使道時朝臣舞人有賢惟信地下宗輔家

俊實隆家政藏人左近將監仲兼行事左兵衛尉源家俊地下陪從宗季朝臣定

實朝臣以下初獻舞人宗忠陪從時範舞人二人成宗盛長候陣二獻以下新大

平納言家次第及五獻次重杯師隆宗信次插頭花時範取之人々起座公卿依召

候篋子敷關白殿新大納言家右衛門督公左大將忠左宰相中將保三位侍從

還御

御馬御覽

日時勘申

御禊

御拜

舞人

密々一舞
ヲ御覽ア
ラセラル
御神樂ナ
シ

宣命

參列ノ公
卿

二舞

〔中右記〕十二月七日甲戌天陰雨下

今日關白殿始令著陣給也仍人々參集二條亭新大納言家民部卿俊右衛門

督公左大將通新中納言通江中納言匡三位侍從能皇太后宮權大夫公左大辨

季辨少納言右大辨基綱朝臣予右少辨時範少納言三人成宗惟此外殿上人

七日甲戌關白師通初度著陣ノ儀ヲ行フ

〔中右記〕十二月七日甲戌天陰雨下

今日關白殿始令著陣給也仍人々參集二條亭新大納言家民部卿俊右衛門

督公左大將通新中納言通江中納言匡三位侍從能皇太后宮權大夫公左大辨

季辨少納言右大辨基綱朝臣予右少辨時範少納言三人成宗惟此外殿上人

由大內記在良大納言付通輔被奏草并清書於殿上給使

〔年中行事秘抄〕十一月十一日下酉日賀茂臨時祭事

延引例

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

十二月六日賀茂臨時祭也依御樂延引

二條第ヲ
發ス
著座

出立ノ儀
諸事ヲ經
信ニ諮問
ス

濟々連車扈從大略皆未時出御前驅十六人中四出御東御門經三條坊門洞
院西大路於二條辻下御此辻兼引入從右衛門陣經敷政門代著御與座此
間公卿徘徊陣邊上官等大外記定俊真人以下在陣邊但雖可在床子座公卿
被立其前仍不著無申文又不令賜吉書給也頃而出御從本路六位外記宗政
史宣行前行左右右外記於冷泉院南路令止前行上官給各稱唯留了但外記
召使二音彼稱唯了後留於幔中有出立如陽明門政儀公卿上官等鴈行其後
西面一々相揖乘車人々或有仰自斯歸家々或又扈從今日無御前上官等帥
大納言著直衣早旦被參也萬事被問仰歟陰陽師安倍泰長勘申日時予扈從
歸參晚頭歸家了

八日乙亥內侍所御神樂

〔中右記〕十二月八日略中

今夜有內侍所御神樂東中門西庭引廻幔敷座殿上人召人六人予在中地下召
人六人近衛召人六人々々長右近府生兼方夜及亥半事了勸盃給祿如例宿仕

十日丁丑御體御卜奏請印政

〔中右記〕十二月三日略中伊勢神寶行事所請奏經奏聞了

役夫工催
ノ神民使
廳ノ下部
ニ殺害セ
ラル
大神寶請
奏大神寶
造宮使親
長ノ解狀
ヲ内覽

四日辛未略

召檢非違使丈部保成付申文獻別當是備前役夫工催神民爲廳下部被殺害
事依上卿命也

八日未時許參殿下令說長内覽大神寶請奏造宮使親長解狀五个條此中美
濃國住人陵礫神民事爲御使參高陽殿付永實令申歸參申御返事又越前國
役夫工作料代賃事一日宇佐使立日檢非違使廳下部等備前役夫工催使神
民殺害事重付說長令申又爲御使申大殿歸參申御返事了後入夜參内
九日略中 天陰雨下終日祇候供朝夕膳奏昨日内覽文牛一之後與藏人大輔
同車歸家

十日天晴早旦參大殿次參結政爲要日之上依有政也著本座後史覽文出羽
書右少辨左大辨被來史覽文於左大辨追又左少辨參來上卿江中納言被著

應座頭史可申南文一々申上十枚左大辨被著廳官符請印此大豐受官官符

了少納言引著南所史時眞申文了退出渡參陣神祇官奏御卜奏略中 申時許

行向上卿新中納言亭下昨日宣旨則下給之後歸家

十一日午刻許造宮使親長并男敦清行事史盛忠官掌信末集會萬事沙汰已

上卿
官符請印

及數刻、或下宣旨了、（略）

○伊賀國ヲシテ、造豐受大神宮役夫工料等ヲ進濟セシムルコト、本月十七日ノ條ニ見ユ、（略）

十一日、（戊寅）月次祭、神今食、

〔中右記〕十二月十一日、（略）○中只今辨侍來云、神今食合卜、右少辨俄穢氣、仍相

催他辨之處、皆以故障所出立也、

上卿以下著座

入夜先參內、次參神祇官、暫徘徊南屋邊之間、上卿江中納言（匡房）被來、共從南

面著座、次左大辨、（季仲）少納言（惟信）從北著座、外記通景、史時真、官掌信元著座、

問所司具否、掌侍未參、縫殿寮小忌并御衾未持參、頻加催、采女八人參來、頃而

皆具了、掌侍（伊勢）參、上卿以下起座於此屋邊著小忌、（無藏本）向北神殿洗手、（少納言）

解劍、上卿執打拂筥參進、參議與下官共昇坂枕、（參議）東、少納言以下供奉御疊、

了、後幔中暫列立、（上卿參議）西北上、一揖之後、還著本南屋、少納言惟信、（帶劍）次

亥一刻供夕膳、此間時守申時刻、且又問陰陽寮、有盃酌儀、少納言惟信勸盃、次

下官上卿座東邊敷膝突筵、居件筵勸盃也、夕膳撤了、待曉膳間互以清談、丑一

夕膳ヲ供ス
曉膳ヲ供ス

腰衾圍基ノ興廢絶ス

月次祭

坂枕疊等、各退出、于時雲集、高晴、月華甚明、

上卿命云、近代腰衾并圍基之興絶了、又戌一刻人々參集、亥一刻供夕膳、丑

一刻供曉膳、寅一刻可退出也者、而見西宮記之處、多注二點如何、

月次祭、新中納言通俊卿、左少辨有信勤仕者、

十二日、（己卯）前關白師實、其室卜共二、讚岐守藤原行家ノ七條第二赴久、

〔中右記〕十二月十二日、雨下、（略）○中參大殿之處、白地相具北政所渡御七條行

家朝臣宅云々、

十三日、（庚辰）政、是日、關白師通初度上表、

〔中右記〕十二月十三日、（庚辰）天陰雨下、時々飛雪、午後得晴、殿下初有御上表

事、仍參入二條殿、大殿令渡給公卿、（直衣）殿上人濟々參集、御表行家朝臣作之、

令公經朝臣清書、各給祿、（小寢殿）新中納言（通俊）被命云、今日所申行政也、刻限雖

過、可參結政者、仍相具上卿參結政、右大辨、源少納言相共之、各著本座、史覽文

於右大辨、予又見荒文、（伯耆）外記廣忠結申如常、座頭史延行可申南文、五枚申

上之間、外記廣忠重結申、（無印文）是依無參議、無請印也、左大辨被參之間、俄左

上卿起座被渡南所、則右大辨予同向南所、右大辨直被入了、予於門下直申如

伯耆荒文

上表作者

上表使

常、先少納言成宗著座、召大舍人、史時真申文、此中出羽帳被下了、曆得業生文
 上卿被難、不讀上事了引渡參陣之間、於大宮大炊御門程、殿下御上表使家司
 等相逢、上卿抑車被過了、渡參陣間、左府被參、令定申荷前使、本月十八并元
 日侍從等、給左大辨、季仲書之、但被申請無內覽、是依爲式日、雖被定申、殿御上
 表間不違他事、仍不被內覽、則左府令退出給了、此間從中務省昇表案、付內
 侍所女官、昇立晝御座、掌侍藤惟子、因幡持表函奏聞之後、女官等昇立案、爰大
 殿參內令候朝干飯給、召藏人辨時範、令讀表、次召頭辨師賴朝臣下給表函、師
 賴朝臣留表函於御厨子上、取表許、留裏下上卿帥大納言、召大內記在良朝臣、
 下表令作勅答草并清書、內覽奏聞、頭辨取勅答、於殿上召右近中將顯實朝臣
 爲中使、此間予先馳參殿下、頃而中使來向、先於東中門邊取表函立、家司行家
 朝臣相逢、次殿下々從中門、相逢中使、令取函給、令還昇給、行家朝臣召中使中
 將、則昇自南階、著堂上倚子、東小寢殿南庇、指筵當階間、敷地敷二枚、殿下令下
 其上立唐倚子、其後立四尺屏風、敷帖
 中門廊於前庭、舞蹈、中使下庭次撤倚子、此間中使暫敷疊并茵、重使行家朝臣
 召中使、殿下取祿給中使、祿、能遠朝臣取中使、下自中門廊、進出砌前再拜、歸參了、
 次殿下出御南庇、公卿多被候、覽吉書、官、方觀力、宗忠、美濃國、藏人方、頭辨師賴朝臣、家司、家行

勅答

中使

吉書ヲ奏

上表ノ儀

上皇上表
ヲ内覽シ
給ハズ

臣朝、事了人々退出、及深更、下官參內奏吉書、

後聞、上表之儀、先殿下取表出御南庇、兼南廣庇、此中召行家朝臣、令置表於案
 上、少納言惟信結之、生絹三幅、覆案上次職事四人昇出案於中門、隆宗、基綱、於中門
 孝清、有家邊、下家司四人著束帶又昇之、路間仕丁等、赤衣昇表案、家司下家司等相具
 向中務省、本省輔共付內侍所也、參結政間不見件儀、追所書付也、牛一之後
 歸家、略中

上表時例必內覽上皇、而從鳥羽殿依爲還御以前、本月四日、不令覽給、是
 兼被申請云云、

裏書、參結政、舊仰史延行、美作前司清長公文之文書等、早可覽上者、彼朝臣
 依被請也、

十五日、壬午、天晴、略中

今朝頭辨師賴朝臣初參結政、去六月除目轉左中辨、六月十三、今日初參
 日ノ條參看甚遲怠、頗奇恠歎、

○師通ヲ關白トナスコト、三月九日ノ條ニ、第二度上表ノコト、嘉保二
 年二月八日ノ條ニ見ユ、

痘瘡ニ依ル

十五日、壬午、嘉保ト改元ス、

〔百練抄〕

堀河天皇

嘉保二年

寛治八年十二月十日改元、依疱瘡也

〔公卿補任〕

九

堀河院

寛治八年

甲戌

十二月十五日、改爲嘉保元年、

〔中右記〕

十二月十五日、壬午、天晴、略、中

改元之事

今夕有改元、兼日藏人辨仰左大臣可撰申權中納言大江朝臣并文章博士等

年號字者

申時許左大臣、帥大納言、民部卿、左大將、新中納言、江中納言、左大辨

參仗座、關白殿令參內給、先令藏人辨時範奏年號勘文、返給可定申者、承德、承

安、弘德、天成、嘉保、此中承德、嘉保之間、可隨勘定者、仍以時範被申院并大殿、可

用嘉保者、是江中納言所被撰申也、

召大內記在良作詔、依疱瘡改元、

令奏草并清書、召左衛門權佐有信、仰免物事、

及深更事了、

十六日、癸未、

天晴、略、始ノ

後聞、略、中

改元之後、今朝奏吉書、先於殿下御直廬內覽、次奏、賴朝臣、官權、右

於畫御座奏、先官而於朝干飯方奏、頭辨

勘文

匡房ノ撰申

免物

改元後吉書奏

詔書覆奏

大殿不令參給、

廿八日、乙未、天陰雨下、略、中

次有詔書覆奏、大納言皆有障不參、仍有別仰、治部

卿被勤之、進弓場殿付藏人木工助奏覽、此間召子、御畫日事、内々令尋問上卿

給返給、及深更歸家、

晦日、天晴、略、中

去年冬天下自疱瘡、引及此春、又今年秋冬赤疱瘡、可云凶年歟、仍已改元、

永長元年十二月九日、略、中

仍以藏人式部丞宗仲、被仰江中納言、於年號可撰進由、去々年嘉保改

元之時、江中納言ニ

外記宣下也、彼時不沙汰此事也者、仍今度違去々年儀

歟、

十七日、癸酉、略、中

抑嘉保之例、改元夜、不被奏吉書、禁中御物忌間、人々依不被參籠云々、

〔歷代殘闕日記〕

右十五

改嘉保

寛治八年十二月四日、辛未、天晴爲御使參院、申改

元事、仰云、十二月例、寶龜、天延、長和也、何等事在哉、依疱瘡云、改元、又有何事哉、

儒者可仰江中納言、兩文章博士者、歸參申兩殿了、次參左府令申云、令權中納

嘉保元年十二月十五日

五九七

元號勘進

嘉保元年十二月十五日

五九八

言大江朝臣并文章博士等擇申年號字者次歸了、十五日、壬午、今日申刻左大臣、帥大納言、民部卿、右衛門督、新中納言、江中納言、左大辨參著右仗頭之、大外記定俊以年號勘文覽于左府、次大臣被付年號勘文三通、江中納言書檀紙宿紙兩文章博士以外記令書寫宿紙各有懸紙不入管

匡房ノ勘

江中納言

嘉保史記曰、嘉保太平、

承安論衡曰、承安繼治使賢任能

文章博士成季朝臣

弘德周易正義云、得位處尊、爲天立之主、兼弘德義、

承天後漢書曰、陛下聖德、承天當隆盛化、

文章博士敦基朝臣

承德周易曰、幹文用譽、承以德也、

天成尚書曰、地平天成、六府三事、元治萬世、永賴乃功、

下官取之、懸紙一枚內、籠三通結之、覽于殿下、次奏聞、次返給大臣、仰云、宜令定申群議如例、次大臣被奏云、帥大納言以下一同令定申云、權中納言大江朝臣

敦基ノ勘

成季ノ勘

俊房ノ意

元號ヲ院ニ奏ス

嘉保卜定

御物忌
改元ノ吉書

所擇申之承安、文章博士敦基朝臣所擇申承德、共避忌諱、兩個之間、被用何事、上卿被申子細事、在哉、大臣申云、權中納言大江朝臣所擇申之嘉保稱謂尤佳、被用可宜、即參御直廬、申此由、次奏聞、次爲御使參大殿覽件勘文、并申諸卿定申旨、又大臣密々被申云、承安本文云、承安繼治、頗以不宜、承德者承字從水不宜、加之天德、長德共、不吉事、寬德、應德共、時代之末也、然者德字難爲佳歟、仰云、大臣被定申旨、尤有其謂、早參院可令奏達件等旨、戊刻參院奏聞、仰云、嘉保字稱謂不宜、然而大臣申旨又非無其理、被用何事在乎、次歸參申殿下、次以藏人玄蕃助宗佐奏聞之、勘文留所、勅可（所之）可之後出陣、仰大臣云、依定申、以嘉保爲年號、但依庖瘡宜改元、任承曆元年例、令作詔書、大臣以在良被內覽、以藏人宗佐被奏聞、仰云、令清書、々々之後、又以在良被內覽、以宗佐令奏聞、返給之後、給中務、輔不參、仍以外改元翌日奏吉書事、次大臣以下退出、今夜不被奏吉書、上臈職事不參籠、御物忌之故也、十六日、癸未、午後雨下、略、中早旦頭辨參御直廬、內覽吉書、昨日改元之後始所覽也、略、中次頭辨被奏吉書、

寬治八

江寬治八年云、且可見兩儒勘文由、左府被示給被下之、

嘉保元年十二月十五日

五九九

嘉保元年十二月十五日

六〇〇

成季勸文

弘德正義今案似恆德公之諡號、

承天後漢書文天字在下年號殊不聞於本朝、

敦基勸文

承德周易今案德字如何天德長德、

天成尚書應德寬德竝代終年號也、

字ノ難

或人云被沙汰年號進承安者繼治字無由左府被申仍嘉保承德之間德字不宜也天德初有火事長德疫癘流行寬德應德竝代末仍難用院又仰云應德之間德字不快由所食目也嘉保維時中納言所進之其旨見於御記、

〔改元部類〕

自承平至寬治大記 嘉保元年十二月十五日壬午今日改元定左大臣被參陣左大辨匡房承安嘉保文章博士成季朝臣弘德承德等擇申、

議被擇上嘉保承德勅定以寬治八年可爲嘉保元年深更大內記在良持參宣命草殿下御大內予申之、

〔元祕別錄〕

勸文部 寬治八年十二月十五日改元 嘉保 依抱齋

匡房ノ勸

三人 博士藤成季 同敦基 權中納言匡房

大輔闕 權大輔正家不進 依有事也、

或抄云、納言之後進年號、紀納言例也、

江中納言

右大臣舉之 嘉保

史記曰、嘉保大乎、

季仲匡房藤中納言右大將民部卿咄大納言等舉之 承安

論衡曰、

文章博士成季朝臣

弘德江記曰、今案似德恆公之諡號、

周易正義曰、得位處尊爲天立之主兼弘德義、

承天江記天字在下殊不聞於本朝、

後漢書曰、陛下聖德承天當隆盛紀、

文章博士敦基朝臣

承德江記今案如何天德應德寬德代終年號也季仲匡房藤中納言右大將民部卿咄大納言等舉之、

嘉保元年十二月十五日

六〇一

成季ノ勸

敦基ノ勸

嘉保元年十二月十五日

周易曰：幹文用譽承以德也。
江記：故實範進之，但唐年號也。曆道者常爲口實者，故源右府所難也。天

尚書曰：地平天成，六府三事元治，萬世永賴乃功。

右大記：十二月十五日，壬午，今日申刻左大臣以下參著右仗，頃之大外記定俊以年號勘文覽于左府，次大臣召下官，被付年號勘文三通。江中納言，兩次奏聞，次返給大臣仰云：宜令定申，帥大納言以下一同令定申，權中納言大江朝臣所擇申之承安，文章博士敦基朝臣所擇申承德共避忌諱，兩個之間被用例之事在乎，大臣申云：權中納言大江朝臣所擇申之嘉保，稱謂尤佳，被用可宜。又大臣密々被申之承安，本文承安繼治，頗以不宜，承德者承字從水不宜，加之天德，長德共有不吉事，寬德應共時代々末也。然者德難爲佳歟，戊刻參院奏聞之，仰云：嘉保字稱謂不宜，而大臣申旨又非無其理，被用何事在乎，次歸參奏聞，勅可之後出陣，仰大臣云：依定申，以嘉保爲年號，但依庖瘡宜改元，任承曆元年例，作詔書。日記：下文江記，前揭歷代殘闕，同シキヲ以テ略ス。

〔京都帝國大學所藏文書〕

一 改元赦，常赦常例也。

定申ノ儀

改元赦

詔書

改寬治八年爲嘉保元年，詔書云：

十二月十五日詔書，同廿八日□□正月四日到來云々。

詔□改寬治八年爲嘉保元年，可大赦天下，今日昧爽以前，大辟已下，罪無輕重，已發覺未發覺，已結正，未結正，咸皆赦除，但犯八虐，故殺，謀殺，私鑄錢，強竊，二盜，常赦所不免者，不在赦限。

〔柳原家記錄〕

元十六別錄 異本

〔采書〕「翌日奏吉書例事」

嘉保 寬治八年十二月十五日改元定，依庖瘡〔采書〕奉行藏人右少辨時範，承德，嘉保奏聞，今日御物忌，〔采書〕本月三日上臈職事不被參籠，次日奏吉書。

左大臣 舉房，嘉保，帥大納言 舉經信，承安，承德，民部卿 承俊明，承德。

左大將 承忠實，承德，江中納言 舉匡房，承安，承德，新中納言 但通俊，承德，辨。

左大辨宰相 承安，承朝臣，承安，承德。

〔元祕抄〕

年號字 和漢年號字難

我朝

弘德 寬治八年，匡房卿內々難云，似恆德公之諡號。

承天 寬治八年，匡房卿內々難云，天字在下之年號，不聞於本朝。○中

承安 寬治八年，左大臣難云，承字從水不宜。○中

嘉保元年十二月十五日

改元仗議
公卿

字難

天成 寬治八年匡房卿云故實範進之唐年號也曆道之者常爲口實隆國公故源大延久四葉也

納言難也○中略 德弘德承德齊德元德 寬治八年匡房云天德長德寬德並代終年號也左府難云德字不宜天德始有火事長德疫癘流行寬德應德並代末也院仰云德字不快之由所思食也○中略

兩字中有他字之年號事

承德 寬治八年季仲記云下官定申云承德可被用歟但承德本文承以德承字中有他字先例之樣思給敦季存此由撰申上江中納言云天曆天之曆數論語又如此

〔京都御所東山御文庫記錄〕

甲百二十四 西禰抄 一年號切韻字之例

嘉保切韻

○改元鳥兔記歷代編年集成十三代要略一代要記皇代略記如是院年代記迎陽記異事ナキヲ以テ略ス庖瘡ノ流行スルコト寬治七年是冬ノ條ニ見ユ

御髮上是日大炊殿東對ノ方ニ於テ佛像五體ヲ造立セシム

御浴殿

〔中右記〕 十二月十五日壬午天晴○中略

於東對方被造立始等身御佛五躰權少僧都林豪啓白先有御浴殿行事藏人宗佐○中略

今夜有御髮上事

上皇春日社ニ於テ五部大乘經ヲ供養セシメ給フ

〔中右記〕 十二月十五日壬午天晴○中略

今日於春日御社供養五部大乘經五日十座有講筵云々是上皇御願也仍院別當權大納言家忠卿向彼社行事者

十六日癸未改元後政始

〔中右記〕 十二月十六日癸未天晴改元之後有政始仍參結政右大辨基共入

外記門史六人中原延行以下列立次第著本座少納言三人參來成宗惟史覽

於荒文右大辨與下官先左少史盛忠結式日申文今日也頃而左少辨有信來加上卿右衛門督公實卿著左衛門陣屋此間史生覽吉書於右大辨次又相分二人覽吉書於下

官與左少辨如例加署最初政始也仍宰相被遲參頻雖相尋外記方不被參日已及昏寒風殊甚未代之事希也惟也申刻宰相參來保實上卿以召使被問所

講筵五日十座

上卿

吉書

宰相遲參

年號切韻字

官符請印

外宿ノ人
ハ御前ニ
參入セズ

司具否、申具了由、次上卿被著廳官掌信元申云、申文座頭史延行申云、申文有
 有申文由告外記方、次予并左少辨史三人右大史成後、右起座、自出外
 記著深沓還入列立、次少納言家俊、外記通景來加、漸進出、申文如例、予先進著
 座依爲四、其後一々著座、予申々文由、次史一々申文、事了出外記門、著淺履著
 本座自藤、次官符請印、少納言惟信、外記廣忠、史生等相具如例、請印之間、座
 頭史延行可申南文、三枚結申、事了官掌申云、オシテオハス、次史左少辨少納
 言成宗、外記等出立、上卿被渡南所、次右大辨、下官起座向南所、左少辨有信於
 樹下南北相揖、右大辨、下官等、右大辨直被入南所門了、予左少丞留門前直申
 與奪、次著座、史時真申文了後、右大辨起座退出、少納言成宗召大舍人居汁物
 食了後有勸盃、少納言家俊起座、自土昇於東橋板敷下持盃進上卿前勸盃、參
 議目予々起座進參議座前、給盃之後歸本座、拔笏擬少納言成宗、一々轉盞、次
 於南所并陽明門内出立如恆、宰相中將保實於陽明門、渡參内、御物忌也被參
 籠公卿、被著仗座、依除目也、○中略、除目ノコトニカ、藏人木工助源明國出
 陣召公卿、進弓場殿、一々進御前、右衛門督、左宰相中將、依爲外宿、猶在陣座、吉
 書申文、右大辨於床、史時真候申文、事了、予竊退出、依爲外宿人、不可參御前之

故也、

權少僧都政經寂ス、

〔園城寺傳法血脈〕

乾

明尊前大僧正授卅三人、○中略

政經、西院、同、一、一、辭職、廿一、同、所、十五人、少僧都、法勝寺、執行、同、修理、別當、寬治、
 卒、七十、

〔僧綱補任〕

○五 興福寺本

權少僧都政經 十二月、於法勝寺逝去、

〔僧綱補任〕

○四 興福寺本

律師政經 承曆二年十月六日任、行幸賞、依爲寺

上座也、近江守藤實經子、永保三年十月一日任、權少僧都、法勝寺御塔賞、依爲

寺上座也、

〔尊卑分脈〕

藤原氏

行成權大納言、正二位、

實經正四位上、近江守、

政經少僧都、法勝寺執行、

〔寺門傳記補錄〕

十五 少僧都政經 西院

政經 民部大輔藤實經子、行成之孫也、補充法勝寺執行並修理別當、永承五

嘉保元年十二月十六日

六〇七

官歷

世系

年二月二十一日、受阿闍梨位灌頂於前大僧正明尊、寬治八年十一月辭職、十二月十二日逝、年七十、

十七日、甲申京官除目、

〔公卿補任〕九

權中納言正二位源家賢七、四左衛門督、十二月日宮內卿、

藤通俊八、四十二月日兼治部卿、同日敍從二位、

江匡房五、四十二月十一日（七九）勅授、見江記、敍從二位歟、

〔公卿補任〕

九康和二年 參議正四位下藤忠教廿六、（寬治八年）同十二月十七日敍從四

〔公卿補任〕

十天永二年 參議正四位上藤爲房三、六十、（寬治）同八八（辨時）從四位下、

〔辨官補任〕

左大辨正四位下藤季仲 十二月十七日勘解由長官、

右少辨正五位下平時範 十二月十七日兼右衛門權佐、

〔中右記〕

十二月十五日、壬午、天晴、略、中

勅授

御物忌ニ
參籠ノ公
卿伏座ニ
著ス

功過定ナ
シ

執筆

下名
敘位
少辨衛門
權佐ヲ兼
帶スルハ
稀代ノ例

公卿參籠御物忌、〇本月三日依可有明日除目也、
十六日、（癸未）天晴、〇中略、政始ノ渡參內御物忌也、〇本月三日被參籠公卿被
著仗座、依除目也、左大臣、民部卿、左大將、新中納言、江中納言、右宰相、中將、左大
辨等也、

後聞、〇中又無諸國文書無功課定、〇中裏書

除目御前座、左大臣、次關白殿令著給也、但先殿下進著圓座、依天氣、召左大臣、爲執筆也、依里代儀、所注付也、

十七日、天晴、晚頭參內、依除目也、公卿參集、但民部卿爲御使往反院大殿之間、已及深更、月亭午後有召、公卿進御前座、左大臣、帥大納言、（不執）民部卿、右衛門督、左大將、藤中納言、新中納言、江中納言、右宰相、中將、左大辨、新宰相、中將、及雞鳴事了、清書并下名上卿、右衛門督、於殿上被披大間、有敍位、右少辨時範、任右衛門權佐、左右少辨兼帶左右衛門權佐例、古今未曾有之事也、但當時之撰、時範當其仁、雖無先例、又以理也、何爲哉、逐電退出、

後聞、下名辨一人不勤、退出了、仍有仰頭辨被勤、下官有其催、答云、下臈辨三

嘉保元年十二月十七日

嘉保元年十二月十七日

六一〇

人只今在座、何催上臈哉、辨侍無所陳、存其旨處、下臈皆被退出了、右衛門權佐時範使宣旨被下、○本月十九條參看、藤仲實任參川國、是故陽明門院當年院分也。

〔歷代殘闕日記〕

右十五大記

十二月十六日、癸未、早旦頭辨參直廬、○中略、改元吉書ノコト

ニカ、ル、本月十日ノ條ニ收メ、次下官內覽除目申文、次頭辨被奏吉書、次下官奏申文、次頭辨被奏之、自今日有除目、

〔本朝世紀〕

康和元年八月十六日、丙戌、○中略、此日從二位行權中納言兼治部卿藤原朝臣通俊薨、通俊者、○中略、十二月十七日兼治部卿、同日敍從二位、爲辨

官之時、依造三條院行事賞也、

〔敍位除目執筆抄〕

嘉保元年二十六京官、十七日入眼、執筆左大臣俊房、

官宣旨ヲ伊賀ニ下シ、大神宮神民及ビ東大寺寄人等ヲシテ、所定ノ官物ヲ進濟セシメ、造豐受大神宮役夫工料等ニ宛テシム、

〔正倉院文書〕

左辨官下 伊賀國

應令伊勢大神宮神民并東大寺出作等、段別宛米陸斗辨濟所當官物宛用

段別宛米 六斗

執筆

新立ノ莊 多シ

官物ハ往年ノ半分 新任ノ吏 新立ノ莊園 難シテ停メ難シ 造興福寺 舍屋料

造宮使近江ノ濫行ヲ訴フ

重色用途事

右得彼國司去月十二日解狀稱、謹檢案内、神民及東大寺寄人等恣出作公田、徵下官物之時、各募本所之威勢、不辨如數之官物、就中當國本自境內狹少、公田不幾、其內前司任以後新立之庄已以有數、所減之田動及三百餘町、然猶神民東大寺之出作又八百餘町、已募權勢不辨官物、百姓作田五十餘町、其外公田七百餘町、已徵下官物之數往年半分也、如起請者、新立庄園雖可被停止、新任之吏、難方、雖左右、望請天裁被下宣旨於出作等、徵納如數之官物進濟、宛齋院禊祭諸寺御封加舉涌、マ、三寶布施料、兼又宛用造豐受宮役夫工并造興福寺舍屋料者、權中納言大江朝臣匡房宣、奉勅依請者、國宜承知、依宣行之、

嘉保元年十二月十七日

大史小槻宿禰

右少辨平朝臣

○役夫工ノコト、便宜左ニ合敍ス、

〔中右記〕

十二月十二日、雨下、晚頭參殿下、付職事有家覽中宮大夫申文、遠江庄

夫工 仰云、申合大殿之後可左右、

廿一日、○中略、天晴、晚頭參殿下之御直廬、面內覽駿河國解、并造宮使申近江濫

嘉保元年十二月十七日

六一一

行文

廿二日、早旦奏聞昨日內覽文、

廿四日天陰、時々小雨、午時許參殿下、東三條內覽造宮使解狀、伊賀國解殿下於

南戶下自御覽也、其次所澁國々ニ可付檢非違使之由、依上卿命所申請也、已
以許之、次參內奏聞件奏狀等、

廿六日、癸巳、天晴、略中

參殿下、內覽淡路役夫工國解、仰云、先云合帥大納言後可申者、則參帥大納言、
已被出了、歸參殿下、付職事說長申此旨退出、

廿八日、乙未、天陰雨下、略中參殿下、內覽淡路國解、次參內奏聞、

○造豐受大神宮役夫工官符ニ請印スルコト、本月十日ノ條ニ見ユ、

十八日、乙酉、荷前、

〔中右記〕十二月十三日、庚辰、天陰雨下、時々飛雪、午後得晴、○中略、關白師通

渡參陣間左府被參、令定申荷前使并元日侍從等給、左大辨季仲書之、但
被申請無內覽、是依爲式日、雖被定申、殿御上表間不違他事、仍不被內覽歟、則
左府令退出給了、

檢非違使
ヲ付シテ
催サシム

淡路役夫
工國解ヲ
經信ニ諮
ラシム

定

行事
使

裝束使ノ
失
官奏申文

內覽
御南殿ニ出
御鑑奏

番奏

關司奏ヲ
止ム

十八日、乙酉、天陰荷前、行事左少辨有信、今日下官不出仕、不見其儀也、

使民部卿藤中納言、左大辨、新宰相中將、宗班幣、右宰相中將、仲

〔樗囊抄〕年中行事 荷前三十日 定 神事 寬治八十二十八、○去本月十四日、字佐使立間也、

十九日、丙戌、旬、官奏、政、

〔中右記〕十二月十九日、丙戌、時々天陰、飛雪隨風、今日依爲吉日、初出御南殿、

旬、先御裝束如常、所司供奉人々參集之後、又改替御裝束、是裝束使大失也、甚

奇恠歟、左大臣被參之後、依可有官奏、季仲左右大辨并予著仗座、覽申文於左大辨、

親、史廣左大辨於陣座申文如例、其後又覽奏書於辨、先下官次左大辨進仗座、左

史、盛忠候奏、大史不候、仍先大次召直辨、予參大臣、令內覽、吉書此間殿下御座

殿上御倚子前也、仍於小板敷內覽、不指歸出陣申內覽了由、次主上出御南殿、

殿下、申時吉時也、兩掌侍二人持璽劔前行、女房八人扈從、大監物行高御鑑奏、先關

次召左大臣官奏、次出居右近權中將顯實朝臣、侍從宗信朝臣參上、次々事等

存先規歟、漸臨暗不能委記、一獻之程已秉燭、番奏左少將忠教朝臣、右少將有

賢、左衛門權佐有信、餘三府判官等也、列立庭中奏如例、但關司不奏前、列立

關司、公卿多雖參入、依座不足、不著堂上、只被候座人々、左大臣、帥大納言、藤大

嘉保元年十二月十九日

六一四

還御

官符請印

昇殿ヲ聽ス

納言、新大納言、左大將、左大辨、新宰相中將、宗許也、御膳行事藏人、兵部大輔通輔、戊刻事了、還御本殿、

今明有政、是右衛門權佐時範檢非違使、○本月十七條參看、官符請印者、早旦參結

政、左大辨、左衛門督被參、左少史廣親爲座頭覽文、伯耆國荒文、南申文三枚、次第

如常、渡參陣、旬間被仰下昇殿之由、前兵衛佐長忠朝臣、備前守國明朝臣、治

部大輔敦兼、刑部大輔行信四人者、

下官任辨之後、初今日候官奏、

今日旬、御鑰奏官奏、番奏、此外無他奏、又無音樂、事了殿下令還二條亭給、

廿日、○中略

新殿上藤敦兼參入付簡、

廿二日、○中略、朝大盤以後爲要日之上、依有政、參結政、史覽文、土佐國釣匙、次右大辨、

左少辨來加、少納言成宗、惟信參仕、頃而民部卿、左兵衛督被著廳參議、有障不

參仕、仍上卿二人參仕也、請印少納言惟信、座頭史延行可申南文、十二枚結申、

廳事了著南所、史通貞申文、其後引渡參陣、○中略、上卿治部卿、通後卿、一日除目兼任治部卿也、

下申今朝宣旨、暫清談之後歸家、已及秉燭、

通後加階
後初度著
座

廿六日、癸巳、天晴、早旦參結政、治部卿通俊卿初加階、○本月十七條參看、之後所被著

行也、兩儀、入外記門立假裝間、史二人、延行、時真、此外皆所勞故障、史二人時、辨依不

能著座、暫徘徊、而間右大辨參來、申史二人由、右大辨云、至見障者何爲哉、仍著

本座了、各見文、上卿被著廳、無參議少納言、但外記不申結申、是依上卿仰不申

也、初依被著行也、雖然官掌并史不結申失也、是稱上卿仰也、也、頃而引著南所、申

文事了渡參陣、

廿七日、甲午、天晴、早旦參大殿、次參結政、依有政也、左大辨、右少辨來著、江中納

言被著行也、是加階、○本月十六條參看、之後、初所被著也、而外記申結申、異昨日儀如

何、次第事了、

廿八日、乙未、天陰雨下、○中略、依有政、前晚之、今間上卿、治部卿、左大辨、左少辨、少納言家俊

從結政參內也、予朝間有障不參也、聞史纔一人參來、或見故障、或從左府有召

參了、仍無結申結文、只廳事許也、不被著南所云々、有廳覽內文、治部卿、少納言家俊、掌侍、仲子、

○勅下略事、○二十二日ノ政等、便宜合敘ス、

二十日、御佛名、

嘉保元年十二月二十日

六一五

內文

〔中右記〕

十二月廿日、○中 今夕御佛名初也、次第如例、但次第僧一人俄不參也、請定之間、且被始行也、兩殿下令候座給、及夜半事了宿仕、

廿一日、○中 天晴、○中 御佛名中夜、新大納言、右衛門督、左大將、二位宰相中將、

三位侍從、祇候柏梨如例、予又宿仕、

廿二日、○中 略

今夕內御佛名結願也、

廿三日、庚寅、雨脚濛々、○中 一院御佛名云々、

廿六日、癸巳、天晴、○中 略

事了參郁芳門院、六條東面、依有御佛名人々濟々、及曉更歸家、

廿七日、甲午、天晴、○中 次參中宮御方、中寢殿御佛名、及曉更事了、名對面間、權大進有

信問之、右衛門督、江中納言、權大夫被候、及曉更歸家、

○上皇、郁芳門院、中宮等ノ御佛名等、便宜合敘ス、

不堪佃田荒奏、

〔中右記〕 十二月四日、辛未、○中略

江中納言被示送云、駿河國班符減省、早可免上者、許諾已了、

荒奏

申文ヲ奏ス

十五日、壬午、天晴、○中 略

予在床子座間、右少史時真、出羽前司信明、勘出覽之、免上了、牛一之後歸家、

廿日、未時許參內、是依可有不堪荒奏也、左大臣、右大辨被參也、於仗座予申云、

可有申文歟如何、右大辨被止、仍奏書予先見之、十九次右大辨見之、右大史成

右大辨出仗座、史立出庭間、大臣命云、先可有申文者、仍又還出、是不堪申文之

後、可有奏也、太奇恠、又著仗座申文、史廣親候之、次奏、予參東三條內覽、於東對南面

覽、殿下御直衣、歸參奏事由、并召大臣、事了間及秉燭、大殿令候給

○不堪佃田定及ビ和奏ノコト、本月二十四日ノ條ニ見ユ、

二十二日、己丑、圓宗寺法華會、是日、權少僧都圓禪寂ス、

〔中右記〕 十二月廿日、○中 略

先於仗座有圓宗寺法華會定、左少辨有信書僧名、江中納言爲上卿、日時勘

文、來廿三日者

廿二日、○中 略

今日圓宗寺法華會始之日、五ヶ上卿江中納言、行事辨左少辨有信、講師增珍

阿闍梨、

嘉保元年十二月二十二日

嘉保元年十二月二十三日 二十四日

廿六日、癸巳、天晴、略中

今日法華會終者、

〔僧綱補任〕五 興福寺本 權少僧都圓禪 十二月廿二日逝去、爲圓宗寺探

題、立義當日頓滅、仍立義止了、

〔僧綱補任〕寺本 興福 權律師圓禪 永保元年十二月廿七日任、二會已講勞、

〔六十六〕上四 以 寬治六年五月十六日轉任少僧都、上五 以

○圓禪ヲ延曆寺千僧御讀經導師トナスコト、十一月二十六日ノ條ニ見ユ、

上皇、東北院ニ御方違御幸アラセラル、

〔中右記〕 十二月廿二日、略中

今夜上皇爲令避節分御、有御幸東北院云々、有障不參、

二十三日、庚寅 光仁天皇國忌、

〔中右記〕 十二月廿三日、庚寅 雨脚濛々、光仁天皇 國忌日、

二十四日、卯辛 不堪佃田定及ビ和奏、

〔中右記〕 十二月廿四日、天陰、時々小雨、中 晚頭左大臣、大納言 治部卿、左

結願

圓宗寺探

頓死ノ日

節分ヲ避ケ給フ

申文ノ作法

減省

病ニ依ル

大辨參仗座、有不堪定、次依可有和奏、左大辨并下官著床子座、先有俊不堪申

文、史時眞候申文、座頭史右大史延行、左大辨著仗座申文、而左大臣命云、申他

上卿不堪文等、今入此申文如何、頗違例也、未申上卿文、乃今日可入奏、可入

申文也者、仍他上卿ニ申ル文等、仰史不被結申、而奇恠之事也、次官奏、當年不

堪和奏外、後不堪減省等、於床子座、予并左大辨覽了、左大臣見了、予參殿下內

覽、已及深更、次奏聞次第如例、事了後、予供朝夕膳宿仕、

○不堪佃田荒奏ノコト、本月二十日ノ條ニ見ユ、

二十六日、癸巳 東大寺別當慶信辭退ス、

〔東大寺別當次第〕 法橋上人位慶信 嘉保元年十二月廿六日、依病辭別當、

寺務廿年、承保二、三、承曆四、永保三、應德三、寬治七、嘉保元

〔東南院務次第〕 第九法印慶信 法印慶信、姓藤原、權中納言公成卿子、隨有

慶僧都習、申三論、深究玄底、中 嘉保元年十二月廿六日、依病辭別當、

○慶信ノ寂スルコト、嘉保二年正月九日ノ條ニ、權少僧都經範ヲ東大

寺別當ニ補スルコト、同年六月二十二日ノ條ニ見ユ、

二十七日、甲午 官奏、陣定、

嘉保元年十二月二十六日 二十七日

官奏

〔中右記〕十二月廿七日、甲午、天晴、早旦參大殿、次參結政、依有政也、○中次第
 事了渡南所、少納言成宗召大舍人引渡參陣、左大臣被參、有官奏、仍左大辨并
 予於床子座覽文、十一左少史盛忠候奏、次左大臣召予可內覽者、則參東三條、
 於東對南面御覽、次左大臣候官奏、次第如例、次有陣定、左大臣、帥大納言、左衛
 門督、右衛門督公實藤中納言、治部卿、江中納言、左大辨有條々定、不能委記、及深更事了、帥大
 納言被下上野前司業房并飛驒勘出、其儀只如例申文、仍左大辨予在床子座、
 ○下略、中宮御佛名ノコトニカ
 ル、本月二十日ノ條ニ收ム、

二十八日、住吉社遷宮、是日、大炊殿東渡殿ニ遷御アラセラル、

〔中右記〕十一月廿六日、甲子、○帥大納言參仗座、被勘申平野并住吉遷宮日
 時、右少辨時範奉行、平野假殿遷宮廿七日、正遷宮來月
 左少史盛忠同行事、平野ハ待破損遷宮、住吉廿年一度者、
 十二月廿六日、癸巳、天晴、○中
 今日住吉神寶御覽、行事藏人木工助源明國、廿八日、依遷宮事、今日所被奉本
 社也、有宣命、上卿帥大納言、
 廿八日、乙未、天陰、雨下、今日字佐使參著日、○日本
 月、又住吉遷宮者、○中略、

神寶御覽

今朝主上暫遷御東渡殿、是西陣屋立、并弓場殿殿上前板敷被放之間也、

○大炊殿東對ヨリ西對ニ遷御アラセラル、コト、十一月十一日ノ條ニ
 大炊殿ヨリ閑院ニ遷御アラセラル、コト、二年十一月二日ノ條ニ
 見ユ、

二十九日、丙申追儼、復任除目、是日、阿闍梨、諸寺別當ヲ補シ、秀才給料等ノ
 宣旨ヲ下ス、

〔中右記〕十二月晦日、天晴、○中略、内御物忌ノコトニカ、有復任除目云々、上

卿江中納言、左大辨行之、則右大將、頭中將被參内云々、

追儼之間上卿治部卿右宰相中將、又被任掌侍仲、其次先阿闍梨宣旨八人、諸寺別當二人
 被補了、又秀才一人、大江元給料一人、大江匡時宣旨被下了、

〔僧綱補任〕○五、興福寺本

權大僧都永超、十二月日爲法隆寺別當、

覺信、十二月□爲京□法花寺別當、

〔法隆寺別當次第〕永超大僧都、治一年、興福寺新院、嘉保元年甲戌十二月
 晦夜任之、

掌侍ヲ任

法隆寺別

當
法花寺別

〔除目大成抄〕

八

課試及第

式部省

勘諸道得業生并問者生事

紀傳道○中

文章得業生大江有元

嘉保元年十二月廿八日補○中

右諸道得業生等勘申如件

承德二年十二月八日

正六位上行少錄小野朝臣義定
正六位上行大丞藤原朝臣業仲

散位從四位下大江公仲ヲ隱岐ニ配流ス、

〔中右記〕

十二月晦日天晴○中

又散位從四位下大江公仲流隱岐國是行向散位資俊宅強盜放火殺害者仍
召問件事從檢非違使廳有召及三个度遂不參仍勘罪名處流罪也

〔十三代要略〕

院○中

十二月廿九日配流大江公仲於隱岐國依放火盜賊之
犯也

強盜放火
罪ニ依
ル

〔大江仲子解文〕

大江仲子解申請 院廳裁事

請被特蒙鴻恩任次第文書理裁下散位有經朝臣推妨大和國山口相模國

早川庄等子細狀

副進次第文書等○中

亡父公仲朝臣惣處分案一通

前右馬頭兼實入道書狀案二枚

件案者公仲不慮坐事赴配所之時去嘉保二年正月十日所書置也京都之家
地田舍之庄園皆作分法所宛行也非唯妻子子孫雖他人於有志之輩者不漏
其分具注其由公仲以自筆件案袖書云案文爲後證所進置于右馬頭殿也者
右馬頭者兼實入道也然間公仲幸逢恩免歸洛之後於件處分正文者先返取
了而公仲住宅燒亡之次爲灰燼了仍又所返取彼案文也○中

大治五年 月 日

大江仲子

公仲配所
赴ク時
惣處分
作ル

公仲處分
目錄

處分目錄

嘉保元年十二月二十九日

嘉保元年十二月二十九日

一坊城地壹町在左京四條一坊二町

丑寅角捌戸主北西一二三四行四門

建板葺五間四面寢屋一字有東北二面

四間二面廊二字

五間二面雜舍一字

三間倉代一字但在西地分可移渡

三間一面車宿一字但在南地分同可移渡

此外有六間四面屋一字於件屋者所分宛男以實也隔中垣之日可渡南地乎

領田貳拾貳町在伊勢國郡鄉條里坪付見公驗

右件地元者故六左前司忠季入道領也。以他處相博傳領之後所達舍居也。於伊勢領日者故嚴君在任之間限價直所買得也。其後年來領掌各无他妨。而今依有所思讓與室家大江氏已畢。但至地本公驗者仍有類地不能副渡。抑下官无過處重科不慮坐配流宿運之拙可耻可悲。雖在遠所現在之間相待歸京。不成他心耳矣。被變改者互又違約歟。努力々々莫企二醜之思。尙背此旨者。縱雖

悔返不可有其怨矣。此外處々小領注別紙奉預室家於件等處者。先人故伊州伊州各可被分給下官之愚息等也。其由具裁注文狀（裁力）而下官在存之間雖在遠所各以所出地利可宛室家之用途也。

同地辰巳角捌戸主西三四行北五六七八門

建板葺四間書倉一字但在北地分隔中垣之日運渡之

六間三面屋一字但在北地分隔中

同地未申角捌戸主西八二行北五六七八門堂敷地也

同地戌亥角捌戸主西一二行北一二三四門分宛女子軍

一美福地壹町建在左京四條一坊八町

西三條地壹町建在右京三條一坊六町

件貳箇所先年之比各從領主手限價直所買得也。子細具見券文而傳領之後。建屋栽樹堀池洒泉屢爲避暑納涼之地。自留遊興慶翫之思。定有輪廻之餘。□爲恐々々仍訓量佛堂用途千僧供等料。若會恩免早歸京者身自可遂其懇懷。不然者子孫之中孝心之輩可果之努力々々莫違失而已。

嘉保元年十二月二十九日

嘉保元年十二月二十九日

六二六

山城石田

一石田 在山城國

件所先祖相傳所領也、隨□一先人故伊州所宛給曾孫持々丸也、不可改易矣、

同梅津

一梅津 在同國

件所相傳領也、隨亦故伊州所宛給愚息廣言也、不可改易矣、

藤泰莊

一藤泰莊 在同國

件庄故伊州、從僧春照之手、負物之代所被傳領也、隨亦可宛給愚息以實也、不可改易焉、

河埒莊

一河埒莊 在攝津國

件庄元者天安寺領也、故伊州買領之後、所被宛給公仲也、而今依有所思、相副本公驗等、永讓與彈正小忠藤原盛仲畢、是入室弟子之上、禮義之至歟、如子姪、不得心之輩、不可為奇耳、

無那莊

一無那莊 在大和國

池邊莊

一池邊莊 在同國

件貳箇所分、宛小僧範乘畢、

國府莊

一國府莊 在大和國

件庄分宛男以實畢、

淡路莊

一淡路莊 在大和國

生坂莊

一生坂莊 在同國

已上貳箇所宛給男廣言而、下官遠行之間、廣言可相伴、仍於件等庄地子并佃米者、可宛室家大江氏及下官女子月料、至庄公驗者、暫預男以實者也、廣言歸洛之後、可尋取也、

小高莊

一小高莊 在遠江國

件庄親父故伊州、從本主之手、相副調度文書、可被傳領也、而無使請國判、從以為荒野、仍任本公驗為被沙汰立、相副公驗等、去年春獻上右馬頭殿畢、若如本被立券預者、試勵和力招集浪人、欲令每年年貢、若遂開發之功者、永為公仲領、相傳子々孫々、可令領執行之由、所申彼殿也、定以無相違歟、

山口莊

一山口御庄 在大和國

早川牧

早川御牧 在相模國

件貳箇所各相傳所領也、而祖父故遠州為募御勢、所被寄可進故民部卿殿

嘉保元年十二月二十九日

六二七

嘉保元年十二月二十九日

六二八

也、隨則故九條前太政大臣殿相傳知食之間、依有嫡々之理子孫相續、又無他妨所領知也、公仲一生之後、可讓與以實之由、有故嚴君之命、仍無改易讓與畢、於事之沙汰者、任先例、可申本家也、
以前處分大略如右、公仲遠行之間、若有橫妨者、早可訴申右馬頭殿也、申付其由、忝有恩諾、不異季布歟、殊致愚謹深所奉憑也、事之子細、各見所帶公驗而也、

嘉保二年正月十日

大江 在判

○公仲ヲ召還スルコト、承德元年十二月二十九日ノ條ニ見ユ、

是歲、弓場始ヲ停ム、

〔中右記〕 十二月晦日、○中

今年無弓場始、

關白師通、多武峯淨土院經藏ヲ造立ス、

〔多武峰略記〕

下第五別院之內當寺 淨土院經藏 檜皮葺、間四面、 □

古記云、嘉保元年、後二條關白師通建經藏、安七千餘卷經律論及台典章疏矣、
件堂天仁燒失、安置釋迦坐像、皆金色、長二尺五寸、脇仕二菩薩坐像各一軀、皆金色、長六寸、件像天仁燒失、

經論七千餘卷ヲ納

嘉保元年是歲

六二九

年末雜載

變異

〔中右記〕

二月四日丙午○子時許當東有燒亡處、富小路三條坊門小屋也、中略檢非違使等不奏燒亡之由、仍殿下遣尋別當之許、頭辨以消息、被尋此旨、近代度々不奏聞也、

廿七日○中今夜々半許四條高倉小屋燒亡、

三月七日○中

亥時許京極西高辻南北小屋燒亡、

七月十八日夜半烏丸四條坊門東西三町許小屋燒亡、

八月二日○中今日午時地震、

十月廿七日終日候御前○中入夜人々於殿上清談之間、亥時許小地震、頗以為奇、候宿殿上人濟々、右宰相中將仲實垂纓參內、警固之間、人々為奇、

神社

〔宗像社大宮司次第〕氏季 嘉保元（年）、補、在職十三（年）、

佛寺

京都火災
富小路三
條坊門災

四條高倉
災

京極西高
辻災

四條坊門
災

京都地震

宗像大宮
司

醍醐寺修
二月會

清瀧宮季
御讀經

高野山灌
頂

春秋二季
灌頂

結緣灌頂

不斷理趣
三味會

大湯屋功
德湯沸
カス

〔慶延記〕

六下醍醐雜事記六 一修二月番頭次第

同八年（寛治）

保嘉 暹賢 定眞 行暹

〔慶延記〕

二上醍醐雜事記二 一清瀧宮季御讀經執事頭帳

同八年（寛治）

嘉保 春三月法眼靜意 秋 澄成（河）梨（關）

〔高野興廢記〕

一高野佛事始行事

同一年（寛治）

於灌院（頂院力）二季灌頂被始行之、建立者白河院
應德元年也

〔高野春秋〕

五二月、於灌頂院執行恆例結緣灌頂、導師算師、

九月廿七日

大御室行恆規結緣灌頂、大阿闍梨維範師、
御命辰

〔高野興廢記〕

一高野佛事始行事

同八年（寛治）

七月七日（七日號力）七夜不斷理趣三味始之、

〔高野春秋〕

五秋七月七日、始行晝夜不斷理趣三味會于中院大堂、至十三

夜結願矣、以為後格也、是則依算師及山籠定深阿闍梨諸衆一味之內評、勤修

之、後來為出
金堂之起

九月廿八日、沸大湯屋功德湯、是號後朝湯、入湯人々時々番々貴賤有其品、考
寛文已前迄、時人指行人呼五番衆是入湯之次

也、第

嘉保元年雜載

金峯山一切經會

〔金峯神社文書〕 ○金峯山寺創草記 一顯密佛事

一切經會 三月十一日、職衆百口、供僧役慈應上人、寛治八年六月十三日夜、同八月十八日夜、

天台二會講師

〔東寺文書〕 ○甲號外三 山城 天台二會講師次第

增珍嘉保元

〔僧綱補任〕 ○五興福寺本 講師增珍 十月十三日宣旨、年來勅勘、經十五年

免之、賞五十九

公家、

師實參內宿仕

〔中右記〕 正月四日、中略、法成寺阿彌陀堂 殿下則御參內、令宿仕御也、

二月廿九日、辛未、中略 終夜雨下、今夜殿下御宿仕、

三月五日、丙子、中略 晚頭殿下令參內給、御宿仕、

六日、丁丑、天晴、中略

殿下令宿仕御、

七日、朝間殿下令退出御、

閏三月廿一日、中略、近衛萬里小路ノ火災ニ收

大殿馳令參御堂給、則又歸參內御、

廿二日、大殿下從內令退出給、

四月六日、中略 大殿參內、御宿仕也、

七日、中略 午時許大殿令退出給、

五月一日、辛丑、中略 從夜前大殿并北政所令候內給、今夜令退出給、

九日、雨不止、中略 大殿御參內、令宿仕給、

六月三日、中略 晚頭大殿令參給、御宿仕、

四日、午時許大殿令退出給、

十日、中略 大殿令參御宿仕、

九月八日、丙午、天陰、中略 雨下、

大殿今日御除服、依前太相國、中略 令參內御、令宿仕給、

廿四日、中略 大殿令參御宿仕、

廿五日、中略 未時許大殿令退出給、

十月廿六日、曉、大殿令參內御、

廿七日、中略 午時許白地大殿令退出給、

同參院

宗忠參內
宿仕

〔中右記〕四月六日、略申時許大殿、略令參院給云々、

六月十日、略中大殿又申時許令參院給後、略下

〔中右記〕正月十九日、早旦參內宿仕、

廿日、壬辰終日候內、依當番供御膳、牛一之後與藏人大輔同車退出、

廿三日、乙未、略其後參內宿仕、

卅日、壬寅、略

殿上夕日、日廿三、夕十五、供膳八個度、

二月一日、癸卯、朝間天陰飛雪紛々、巳時以後遠天清明、略中次參內、供夕膳後宿仕、

二日、天晴終日候內、略中又歸參內、牛一之後歸蓬門、

六日、略中下官依女房陪膳、終日祇候、入夜退出、

九日、入夜參內宿仕、

十一日、天陰雨止朝大盤後、與藏人大輔同車參院、則退出歸家、

十三日、略中次參內宿仕、

十六日、戊午、天晴早旦參內終日候御前、略中今夜宿仕、

女房陪膳
=候入

十七日、己未、申時許自內退出之次、略下

十八日、庚申、略入夜參內依當番宿仕、

十九日、終日候御前、略中牛一之後退出、

廿六日、略中午後參內、略中依當番宿仕、雲客多被候、

廿九日、辛未、略

殿上夕日、日廿五、夕十八、

三月四日、未時許、與藏人兵部大輔通輔同車參內、略中入夜歸參內宿仕、

五日、丙子、自內退出之次、略中申時許歸參內、是依無女房陪膳也、略中今夜宿仕、

六日、丁丑、天晴、略中

今日終日候女房陪膳宿仕、

七日、略中

供腋御膳後、午時許源中將被參也、相替退出、

八日、己卯、天晴、今日凶會也、早旦依無女房陪膳參內、

十日、辛巳、天陰小雨、早旦相替源中將退出、猶女房陪膳不被候也、

十五日丙戌天晴坎日也。略○中入夜略○中次參內宿仕

十六日丁亥天晴終日候御前。略○中入夜略○中宿仕

廿五日略○中宿仕次日晚頭歸家

卅日略○中

殿上夕日日十五假十日

閏三月十二日癸丑○中略

今日勤仕女房陪膳終日候內宿仕

十五日早旦參內依無女房陪膳也

十六日略○中終日候內依女房陪膳也無脫之宿仕

十七日早旦自內退出依陪膳女房被參也

十九日庚申○中次參內依當番供御膳宿仕

廿日終日候內又宿仕

廿一日早旦與藏人兵部同車各歸家

廿四日略○中次參內宿仕

廿七日雨下早旦從內退出三个日候御前

廿九日早旦參內略○中申時許歸參內供夜侍後牛一了退出

殿上夕日日十五假十箇日

四月二日壬申天陰雨下略○中當番仍供御膳宿仕

三日雨不止朝大盤以後歸茅屋休息

四日天陰雷鳴晚頭天晴略○中參內宿仕供夜侍

五日供朝干飯膳退出略○中入夜下官參內供夜侍宿仕

六日供朝干飯御膳了後退出

七日早旦參內勤仕女房陪膳略○中候宿仕

九日己卯天晴略○中晚頭歸家之後依無女房陪膳馳參內供脇御膳并夜侍宿

侍

十日庚辰天晴供朝干飯御膳間午一左大將殿初合著陣給仍參內略○中

下官依當番供夕膳脇御膳了後申時許退出之次略○下

十八日戊子依當番參內供膳略○中歸參內宿仕

十九日終日大雨略○中從朝及夕候御前又宿仕

廿二日早旦參內勤仕女房陪膳朝膳之後略○中未時許歸參略○中依當番供內

外御膳宿仕

廿三日早旦退出依源中將被參也

廿五日乙未午時許參內今夜宿仕

廿七日丙申略中

今月殿上夕日日廿三供膳十一度

五月三日略中宿仕

八日天陰雨下依當番參內御膳供膳力後宿仕

九日雨不止終日祇候御前略中宿仕

十日早旦與藏人兵部同車退出略中

晚頭依女房陪膳闕有召則歸參宿仕

十一日辛亥早旦退出之次略中下

十六日略中

次參內宿仕

十七日終日雨下祇候御前略中今夜重宿仕

十八日辰時許殿下令退出給之後退出之次略中下

廿七日丁卯早旦參內及昨日終日候御前略中今夜宿仕
廿八日戊辰復日略
午後大雨頗雷電依當番供朝夕膳牛一之後退出
廿九日大雨

殿上夕日日十四供膳產穢七六個度

六月三日依當番午後參內宿仕

四日略中申時許退出

五日甲戌天晴略中

今夜宿仕

六日早旦自內退出之次略中下

十日略中入夜參內宿仕

十一日早旦歸蓬門入夜略中次參內宿仕

廿七日從內又參中宮大夫許次歸參內略中供御膳宿仕

廿八日申時許從內參入大納言殿略中逢申殿下則為御共參略中內入夜歸家

卅日、○中

殿上夕日、日廿二、官上日廿、結政十三、衛後十七

七月一日、庚子、○中略與頭辨同車參內、依當番、供朝夕膳宿仕、及曉大雨、

二日、辛丑、天晴、○中略依無女房陪膳、候禁中宿仕、

三日、壬寅、天晴、從內早旦先參大學寮、

四日、早旦參內、則歸畢、

五日、○中略依當番、供膳宿仕、

六日、自內退出之次、○下略

八日、○中略晚頭參內宿仕、

九日、終日候內、依當番、供朝夕膳後宿仕、

十日、早旦歸家、及夜陰、依無女房陪膳、從內有召、則馳參、供夜侍宿仕、

十一日、終日依無女房陪膳候內、在直廬間、新少史時真覽文五通近代之說者、

晚頭相替頭中將退出、

十四日、早旦依召參內、依無女房陪膳也、○中略終日候內宿仕、

十五日、早旦自內退出、

十七日、○中略依當番、供朝夕膳、依小所勞、入夜退出、

廿一日、○中略晚頭參內、依當番、供朝夕膳宿仕、

廿二日、晚頭從內退出、○下略

廿四日、○中略晚頭參內、無陪膳之由、依來催也、供朝夕膳宿仕、

廿五日、候內之間、○中略依當番、供朝夕膳、晚頭歸家、

廿八日、○中略

上日廿三、結政十三、衛後十三殿上同、

八月十六日、乙酉、天晴、○中略次參內、供御膳宿仕、

廿三日、○中略依為當番、供膳了宿仕、

廿四日、○中略牛一之後、與兵部大輔同車退出了、

廿五日、○中略晚頭參內退出、

廿八日、天陰雨下、○中略予宿仕、

廿九日、天陰雨下、依女房陪膳、終日候御前、入夜歸家、

殿上夕日、日十二、夕六、衛後六以後出仕也、宮中上日十二、結政六、衛後六

九月一日、○中略巳時許參內、終日候御前、依女房陪膳也、

在直廬間新少史時真覽文書牛一之後退出今夜有名對面

三日略○中未時許參內略○中予宿仕

四日終日候內晚頭退出

六日略○中

今夜宿仕

七日朝大盤以後退出（前晚方）蓬門

八日丙午天陰雨下略○中依當番未時許參內供朝夕膳略○中宿仕

九日略○中

晚頭從內參入大納言殿歸參宿仕

十日大盤以後從內退出

十二日略○中

晚頭參內依當番供朝夕膳宿仕

十三日辛亥終日候御前宿仕

十四日壬子早旦從內歸葦

十七日略○中

今夕宿仕

十八日終日候御前略○中牛一之後退出

十九日略○中入夜參內宿仕

廿日終日候內依當番供膳略○中今夜宿仕

廿一日從內退出之次略○下

廿四日申刻參內依當番供膳之後宿仕

廿五日終日候內略○中今夜宿仕

廿六日甲子早旦退出

廿八日略○中依當番參內供膳略○中今夜宿仕

廿九日略○中牛一之後與藏人兵部大輔同車○以下闕

晦日略○中

殿上夕日日廿六官上日廿六（結政九、後十七）

十月二日入夜參內依當番宿仕

六日入夜參內宿仕

九日早旦參內勤仕女房陪膳終日候內宿仕

十日、天晴、略○中終日勤仕女房陪膳宿仕、
 十一日、供朝干飯、暫退出、依爲旬日小解除也、未時許歸參、供腋御膳、宿仕、
 十二日、庚辰、略○今日候女房陪膳、今夜又宿仕、
 十三日、終日候內、勤仕女房陪膳、牛一之後退出、五、今日勤仕女房陪膳、
 十七日、略○中今夜宿仕、
 廿一日、早旦從內有召、依女房陪膳事也、新典侍依忌、前退出者、○中略、逐電參內、終日候御膳役、
 廿二日、庚寅、略○今朝從內退出、依新典侍被參也、
 廿九日、參內、人々多以參集、今夜宿仕、
 卅日、戊戌、略○
 殿上々日、日廿八、夕廿、結政上日、結政八、衛後廿、
 十一月三日、辛丑、略○雖非當番、供朝夕膳、略○中今夜又宿仕、
 四日、壬寅、白雪紛々、早旦歸家、
 八日、終日候內、略○中今夕又宿仕、

宗忠一院及ビ女院ニ參ズ

九日、早旦退出、
 十二日、庚戌、略○參內供膳、略○中今夜宿仕、
 十三日、依女房陪膳終日候御前、略○中今夜宿仕、
 廿七日、略○中入夜參內宿仕、
 廿八日、略○中晚頭供膳宿仕、
 廿九日、丁卯、略○中予早旦退出、
 殿上々日、日廿五、夕十七、供膳九度、
 十二月二日、入夜參內宿仕、
 八日、略○中入夜參內、略○中宿仕、
 十二日、雨下、略○中參內、暫候御前、牛一之後退出、
 十四日、略○中及深更參內宿仕、
 〔中右記〕二月一日、癸卯、朝間天陰飛雪紛々、巳時以後遠天清明、參入一院竝〔新女院〕
 閏三月十九日、庚申、出仕之後、初參入一院竝女院、
 九月廿二日、略○中早旦參院、略○中入夜歸家、

國信子息
ヲ伴ヒテ
參内ス
宿内ニ
師通參
仕内

嘉保元年雜載

〔中右記〕

二月七日、己酉、天晴雪飛、略中

今日源中將國信朝臣從北陣方小兒二人被將參、

三月十七日、爲大納言殿御共參入大殿、然間關白殿令參御、則御參内可令宿

仕御云々、殿上人五六輩被扈從、曉頭歸家、

閏三月十五日、略中、關白殿從夜前令候給、今夜御宿仕、

十六日、殿下午時許令退出給、

十九日、庚申、略中、關白殿從夜前御禁中、午時許令退出御、次令參一院給云々、頭

中將自院爲御使被參内、

廿九日、略中、從夜前關白殿令候給、

四月七日、略中、入夜關白殿御參内、宿仕、

十九日、終日大雨、略中、新殿下令候給、

廿日、略中、殿下令退出給、

廿四日、殿下令參給、御宿仕云々、

廿五日、乙未、略中、關白殿令退出給、

五月三日、略中、殿下令參内給、御宿仕云々、

十六日、略中

新殿下入夜令參内給、御宿仕、

十七日、終日雨下、略中、新殿下令候給、御宿仕、

十八日、辰時許殿下令退出給之後、略中

六月一日、庚午、略中、殿下從夜前令候給、

七月十三日、壬子、天晴、略中、先關白殿令參内給、略中

殿下令宿仕御、

十四日、略中、殿下巳時許令退出給、

八月廿三日、略中、關白殿令參給、御宿仕、

九月三日、略中、殿下令參御、則御退出、

廿日、略中、今日關白殿御籠居後、令參内御、後御宿仕、

十月五日、癸酉、天晴、略中

殿下御宿仕、

廿一日、略中、酉時許、關白殿令參内御、日者依大將姫君事不令入夜令退出給、

〔中右記〕

三月卅日、天晴、關白殿令參一院、御直

嘉保元年雜載

師通一院
ニ參ズ

閏三月十九日、庚申、○關白殿從夜前御禁中、午時許令退出御、次令參一院給云々、

廿九日、○中略、從夜前關白殿令候給、午時許自內令參一院給云々、

六月二日、殿下自內令參給(略)

十日、早旦殿下自內令參院給

〔中右記〕四月六日、○中申時許、○中左大將殿令參院給云々、

卅日、午時許爲大納言殿御共參仕鳥羽北殿、於頭中將直廬暫令休息給、晚頭歸洛、

時範參內

忠實參院

宗俊參內

攝津國前

雜掌主計
察ノ總返
抄文書ヲ
請フ

〔時範朝臣記〕六月十六日、乙酉、○中次參內、次歸家、

〔朝野群載〕二十七諸國公文下

攝津國前雜掌津成安解 申請主計察總返抄文書事、

右去應德二三、寬治元、并三箇年料合文等付抄帳所奉取渡也、雖然有後日糺繆者、國司相共可令申沙汰也、先爲給總返抄、進上請文、以解、

寬治八年十一月廿四日

前雜掌津成安

諸家、

宗忠念誦

〔中右記〕正月一日、癸酉、高天清晴、宿雪殘庭、○中

今朝依吉日始念誦、祈請佛神、

十日、壬午、天陰雪飛雨下、○中

今日依當吉日、始炎魔天念誦、金剛般若經一卷、心經五十卷、提婆品一卷、炎魔天真言二千遍、地藏菩薩真言五百遍也、四季各一日、春正月、夏五月、限以秋九月、冬一月、永年、心中所祈請申也、

卅日、壬寅、依本命日籠居、小念誦如例、

二月廿五日、丁卯、天晴、○中

至小念誦、依當大原野祭、期後日、

閏三月一日、壬寅、天晴、依爲本命日、小念誦了、

五月二日、壬寅、天晴、依本命日、朝間小念誦、

〔中右記〕正月十日、壬午、天陰、雪飛雨下、○中

今朝參詣吉田野年首物詣、以氏明神爲先之故也、

廿三日、乙未、早旦參殿下、

二月二日、天晴、○中、夕方參大納言殿、

嘉保元年雜載

同吉田社
ニ參詣ス
同諸家ヲ
訪フ

七日、己酉、天陰雪飛、早旦參內、○中略

晚頭參大納言殿、并參左府御方、入夜歸參、

十三日、午時許參殿下并中納言御方、(忠實)

十七日、己未、申時許自內退出之次、參中納言中將殿、(忠實)

十八日、庚申、中略○高天清明、晚頭參入大納言并左府御方、

三月五日、丙子、中略○次參大納言殿、

十五日、丙戌、天晴、坎日也、○中略入夜參仕、○中略中納言殿、

十六日、丁亥、天晴、○中略入夜參入一條殿并大納言、(後家志)

廿五日、參大納言殿并一條殿、

閏三月十一日、從早旦天陰雨下、○中略

今日依吉日初出仕、先參關白殿、次大納言殿、次大殿、左大將殿、(歸實)

廿四日、早旦參左大將殿并大殿、

廿九日、早旦參內、○中略自內參大殿、次參一條殿并大納言殿、

五月三日、○中略參一條殿、

十六日、○中略夕方參大納言殿、

六月六日、早旦自內退出之次、參大納言殿並一條殿、終日祇候、尼上近日頗不
例御也、入夜歸家、

十一日、早旦歸蓬門、入夜先參左大將殿并大納言殿、

廿八日、申時許從內參入大納言殿、一條殿、歸之間逢申殿下、則為御共參大殿
并內、入夜歸家、

七月一日、庚子、○中略次參高陽院、關白殿令參御之間也、(歸實)

廿一日、未時許參關白殿、民部卿、新中納言、(歸實)江中納言被參逢、互清談間時剋
推遷、

廿二日、晚頭從內退出之次、參大納言殿、入夜歸家、

八月五日、○中略參入大納言殿、一條殿、終日祇候、入夜尼上令渡朱雀殿給扈從、
及深更歸家、

廿二日、○中略次參一條殿并大納言殿、

九月九日、○中略

晚頭從內參入大納言殿、

十二日、○中略次參關白殿、次參大殿、

廿二日、○中

次參左大將殿、次參大納言殿并一條殿、入夜歸家、

十一月十二日、庚戌、天晴、參大納言殿、次參高陽院左大將御曹司、

十七日、○中、未時許、直衣、參內之次、先行向新中納言亭、暫清談、

廿七日、○中、參大納言殿并一條殿、

十二月五日、○中、參內之次、行向新中納言亭、清談之間及深更、

十四日、夕方參大納言殿、

〔中右記〕二月廿五日、丁卯、天晴、○中

今日北野御忌日也、致精進、

廿七日、○中、晚頭歸家之次、與源中將參入中宮御所鴨院、達案內於女房、了後

歸家、○中宮、鴨院ニ御幸ノコト、

三月十五日、丙戌、天晴、坎日也、○中、入夜參仕太后、

閏三月四日、遲明夢想告云、故式部大輔被光臨也、從夜談申文事、被命云、源順

猶巧文者也、就中雪詩云々、安塔少有春之句神妙也者、安藝有俊朝臣在其座

互談此事、予在其傍、則夢覺了、定知有文之道冥加安塔之文付集可尋知事也、

宗忠北野
精進

同中宮御
所ニ參ル

同太皇太
后御所ニ
參ル
同夢想

八日、己酉、○

八日曉夢奉見故大宮右大臣殿、

十七日、○中、入夜歸家之次、參前齋宮、月前與女房清談、及曉更歸家、

九月廿一日、○中、其後歸家、祓依爲旬日也、

〔中右記〕正月七日、己卯、天晴雲收、○中

北政所從夜前令候中殿給、

八日、天晴、○中

今夜北政所自內出給、

廿三日、乙未、○中、次參入中納言殿御方、爲御共參仕、內府自殿下令奉給御馬二

疋御覽、番長下毛野敦時騎之、未時許中納言殿令還給、

〔西園寺家記錄〕公衡公記 弘安十一年三月二十八日、癸丑、○中

普賢延命例

寬治八年二月四日、於關白第、被修普賢延命法、阿闍梨法、忠實卿祈也、

〔中右記〕八月廿二日、○中、次參左大將殿、御共參大宮歸家、

〔中右記〕三月十九日、庚寅、辰刻以後天晴清明也、

宗忠前齋
宮ニ參ル
同旬祓ヲ
行フ
師實室參
內

忠實師通
ヲ訪フ

同師實ノ
邸ニ修法
ヲ行フ
同太皇太
后ニ參ル

俊家室忠
實ノ爲メ
修ス

藤原實綱
遠忌
師實高陽
院ニ還ル

賴通室祇
子遠忌
時範遠忌
ヲ修ス
時範師通
邸ニ候ス
有信宗忠
ヲ訪フ

宗佐夜盜
ニ襲ハル

季仲ノ息
元服

命婦任子
卒ス

忠實痘瘡

嘉保元年雜載

六五四

十九日、早旦(後家書)一條殿御前、中納言(忠實)中將殿御料有御佛供養、仍先新少將宗輔被參御迎也、中納言殿令渡御、仍一條殿東御方寢殿安置御佛二體普賢延尺六寸作像、十一醍醐法務定賢爲導師、仍真言供養也、事了布施絹五十重、面觀音像、同前、依一家間別無御牽出歟、午時許中納言殿令還御、依可令參女院御、令忍還給者、後聞此事、

〔尊卑分脈〕

藤原氏

俊家

右大臣、正二位、母同內大臣伊周公女、依病先出家、永保二十二年薨、六十四、號大宮右府、又號壬生、

宗俊

權大納言、正二位、母大納言源隆國女、永長二、五、薨、五十二、

宗忠

右大臣、從一位、母式部大輔藤原實綱女、保延四、廿六、出家、永治元、四、廿二、薨、八十、歲、

宗輔

太政大臣、右大臣、從一位、母左大臣俊房、應保二、正、出家、同月、廿、薨、八十六、

女子

全子、關白師通公北政所攝政忠實公母、准后、從一位、

〔中右記〕

三月廿二日、癸巳、○

廿二日、巳時許、行向七條堂前、是依故式(藤原實綱)部大輔之遠忌也、依例供養諸經、講師已講賴嚴也、安藝守(有信)右少辨來會、晚頭歸家、○實綱ノ卒スルコト、永保二、四月三日、雨不止、○中今夜大殿以下還御賀陽院也、

五月廿三日、今日法成寺西北院、遠忌御念佛也、○祇子ノ卒スルコト、天喜元、

〔時範朝臣記〕

六月十五日、甲申、今日不出仕、依遠忌也、

十六日、乙酉、未刻參殿、

〔中右記〕

八月七日、在家、左少辨有信來、及曉更清談、

十一月九日、○中

去夜梁上公入藏人宗佐私宅、如衣裳皆悉被竊取之由所聞也、

十二月廿六日、癸巳、天晴、○中

今夕左大辨(季仲)小童加元服、依招引行向彼所、是宰相中將保實三條宅也、加冠帥大納言、理髮權中將顯實、指燭藏人兵部大輔通輔、源少將有賢、此外雲客十餘輩、內御冠、御直衣、殿御笏、藏人大輔表衣云々、

疾病、生死、

〔中右記〕 正月廿九日、辛丑、○

聞、內女房兵衛命婦任子(號務)一日已卒去、是依月來所惱也、年卅餘、巧和歌之人也、月下花前人々莫不談話、嗟哀哉、凡此正月間、有人々多天亡之聞、二月廿四日、早旦參入(忠實)中納言中將殿、聊從一夜有不例御事、依有御痘瘡疑、暫

嘉保元年雜載

六五五

令慎御也、

廿五日、丁卯、天晴、○中為大納言殿御共參入中納言中將、今日御庖瘡所々令出給也、

廿六日、早旦參中納言殿、從夜前御庖瘡令增給、人々濟々參入、

廿七日、朝大盤以後、自內退出之次、參入中納言殿、尋申夜間安否、御在樣同昨日者、

大般若經
轉讀

廿八日、庚午、天陰、雨下、○中早旦參入中納言殿、從此夜半許、溫氣令散給、已減氣御也、但請僧卅口、一日之中、轉讀大般若經、人々濟々、

三月四日、○中夕方參中納言中將殿、

五日、丙子、自內退出之次、先參中納言中將殿、御庖瘡後、初令沐浴給、

成春寂ス

〔石清水八幡宮記錄〕

權上座 石清水八幡宮略補任

成春 寬治八年四

月卅日死、

〔石清水八幡宮記錄〕

權上座 石清水八幡宮略補任

成春 少別當 寬治

三年十月廿二日、官符、永因轉任上座替、于時在筑前國、成官符呼上也、四年四月五日拜堂奉行、右人令下向筑前國之間、被成官符、其後上洛、且寺主成胤、權

寺主高信、都維那信昭、權都維那教快、令超越已上四人、

〔石清水八幡宮記錄〕

○山城 八幡祠官俗官並所司系圖

清基

權上座、寺、權寺主、寺、少別當、同、師主、木幡定基、大僧都、母、曆雅別當女也、

成春

三郎也、權都維那、寺、權寺主、同、少別當、同、權上座、可、寬治八年四月卅日、春字改智也、死去、疫病云々、

賴覺

賴春

基春

〔中右記〕

五月二日、壬寅、天晴、○中先行向治部卿御許、訪申二禁、從今朝止水

之由所被命也、

五月廿日、庚申、巳時平產遂了、仍以七個日籠居、女子、

廿七日、丁卯、早旦參內、及昨日、產穢、

廿九日、大雨、

殿上々日、○中產穢七個日、

六月四日、○中略

此曉關白殿聊御霍亂氣御、但別事不御座云々、

俊明病△

宗憲ノ女
生ル

師通病△

雅實病△

八月十六日、乙酉、天晴、○中

今日參右大將許、○中、右大將瘡病、

八月廿二日、早旦參右大將亭、訪申瘡病、昨日大發之由返報、

九月廿二日、○中

次行向新宰相中將許、訪二禁、

宗通病△

學藝、

〔中右記〕

閏三月十七日、○中、申時許依頭中將招引、向彼八條亭、源少將有賢、

兵部大輔通輔、因幡守長實、終日有連歌管絃興、入夜歸家、

四月十日、庚辰、天晴、○中

申時許退出之次、行向前大判事菅有真茅屋、初讀受職員令、秉燭之程歸家、

廿七日、朝大盤以後退出之次、向有真宅、讀了職員令、午後歸家、

五月十一日、辛亥、早旦退出之次、行向有真宅、受神祇令、

十八日、○中、退出之次、行向有真宅、受戶令、晚頭歸華、

九月六日、申時許新中納言通俊卿參仗座、被行陣覽內文、○中

內覽之間、外記數刻不還來程、上卿召予於仗座、言談世事、次問云、○中、又問

宗忠有眞
ニ令ヲ學
ブ

宗通連歌
管絃ヲ催
ス

宗忠史記
ヲ通簡等
實ス

師實通俊
宗忠下詩
ズノ事ヲ談

曼殊室利
五字瑜伽
儀軌

唯識分量
決

云、史記之中有亂脫之由雖承、未知何卷如何、被答云、五帝本紀三所、韓世家
二所者委、向本書可傳者、又問云、史記之中稱大史公、若大史談歟、將又司
馬遷歟如何、被答云、極祕事也、往年從師匠佐國口傳所聞也、大史公已非談
并遷二人、是云東方朔也、司馬遷作史記時、多以東方朔爲筆者也、仍以東方
朔說稱大史公也者、予答云、尤有興、更未知事也、不可外聞、但此事若見何書
哉、將又只口傳歟、返報云、百詠之中、史詩注文、已顯然也、此間更萬人、不見付
者、伴倭漢事爲備後覽、以藤中納言說所記付也、

〔來迎院如來藏重書目錄〕

一、曼殊室利五字瑜伽儀軌

一帖

寬治八年三月廿一日未時許、於常壽院廊法花堂書寫之、

宗仁

〔唯識分量決〕

寬治八年春比、爲遊戲昇鐘樓見出之、時年十二、

於醍醐寺鐘樓經中見出之、

嘉保元年雜載

三論宗末流賢仁之本ナリ

〔悉曇撰書目錄〕

大隨求陀
羅尼及尊
勝陀羅尼

大隨求陀羅尼及尊勝陀羅尼 梵字朴筆紙本 一軸 高楠順次郎藏

寬治七年甲戌初夏月十六日洛東清水寺僧定深從源秀小院之手奉得之、

但以梵字大佛頂付假字之功所被付屬也、

〔藥師瑠璃光如來消災念誦儀軌〕

藥師瑠璃
光如來消
災念誦儀
軌

○東寺寶菩薩提院所藏

祚壹請來、或本云、奮然法橋請來、

寬治八年四月二十四日書了、同日了、又又又又

〔三千院圓融藏重書目錄〕

觀音講作
法

一觀音講作法 一卷

本云、寬治八年六月七日、依同行勸、竊草此式矣、

〔悉曇撰書目錄〕

悉曇略記

悉曇略記 玄昭著 一帖 加茂神光院藏

寬治八年甲戌七月一日於高野山書之、

同年同月十九日於御山如形移點了、

御請來儀
軌

〔東寺金剛藏聖教目錄〕

十二

御請來儀軌

拾帖寫

四不動使者法 一帖寫

寬治八年十月四日於禪定院奉受了、

正月大丁酉朔盡戊朔日本長曆今中正右嘉保二年乙亥嘉保二年正月一日

一日丁酉四方拜、小朝拜、節會、院及ビ郁芳門院拜禮

〔中右記〕嘉保元年寬治八年十二月十三日庚辰天陰雨下、時々飛雪、午後得晴、關白略

擬侍從定
關白ノ内
覽ナシ

關白家拜
禮

從等、給左大辨季仲書之、但被申請無内覽、是依爲式日、雖被定申、殿御上表間
不違他事、仍不被内覽歟、則左府令退出給了、
〔朱書〕所々拜禮
二年正月一日、丁酉、蒼天高晴、白日甚明、午時許先參關白殿、東三依拜禮、人々
被下立中門之間也、權大納言家忠以下公卿六人、殿上人、頭辨以下七八
人、一列諸大夫、大學頭是綱朝臣以下一列、上官一列、大納言一列、經信、民部

前關白家
拜禮

一院拜禮

卿俊明追參加列、仍關白殿爲答拜、從寢殿南階令下立給、四位少將忠教拜禮、
殿下御人々暫被上東對南面、則引公卿令參大殿給、高陽有拜禮、關白殿以下
公卿一列、殿上人諸大夫上官等列如初、人多參集、關白拜禮之間、拜禮了後、公
卿在東對南面、大殿有御出、人々皆以扈從、參仕一院、六條頭而有拜禮、大殿關
白殿以下公卿一列、東上殿上人一列、次階六位一列、舞踏、事了大殿如本從西

郁芳門院
拜禮

中門令出給、爰關白殿以下、東渡、依可有女院御方拜禮也、令列、
馬頭師隆朝臣申事由、其後列、庭中、西、白殿、帥大納言以下公卿一列、
頭辨師賴以下雲客一列、以貫首爲先、不依位階、如何、去年、依位階、可六位一列、
舞踏、事了、殿下從西中門、給予此間飛車參大殿言殿、已御出

小朝拜

出御

之後也、次參一條殿、次參内、光景已傾漸及秉燭、左大臣并大納言殿令參加給、
〔朱書〕小朝拜
拜禮給也、及夜陰、有小朝拜、仍先御座左右供御燈、燈臺二本、主殿官人立明
東庭、令頭辨奏、由御出之後、關白殿大納言以下、一列、七八

出御

人許一列、予在藏人左近將、兼在列後、拜舞了退歸、
〔朱書〕節會
次節會、天皇御南殿、殿上人取、劍關白殿取御衣扈從、内侍次

内辨

從女房、令候給、女房六人扈從、近衛陣列、右中將顯實、少將有賢、定輔、
御出近仗稱警、内辨左大臣著兀子、公卿著外辨、西中内侍臨西檻召人、左大臣
謝座參上、次開門、著座、内辨召舍人、少納言成、參入立、内辨宣、
大夫君達召、則向西、辨公卿帥大納言、信藤大納言、新大納言、家民

位宰相中將、經實、左宰相中將、保實、三位侍從、能實、右宰相中將、仲實、左大辨、季

嘉保二年正月一日

六六四

謝座謝酒

御酒勅使

御所樂器ヲ尋求ム

宣命使還御

四方拜ニ出御

御藥ヲ供ス

院拜禮

仲、新宰相中將、宗通、此間在近仗座少將有家、俊忠等動座失也、
此間大殿令退出給、謝座謝酒了著堂上座供膳次第如例、藏人辨時一獻國栖

二獻御酒勅使、左宰相中三獻樂、先雅樂寮遲參、頻相尋、御所樂器從去年參入、申云、樂器不

候先々申請、也、而雖尋更無答、在堀川院御藏數刻被尋求、此

間及深更頭辨密々借、綱朝臣樂器、件朝臣宅數刻纔大鼓一面許將參、春庭樂

舞、了罷出音聲、長慶宣命使、右宰相中拜了後還御本殿、及深

今日御物忌乙日也、復推所告之已無事、仍有御、雖然取役、少將有家

朝臣參籠也、

拜天明之後有御出、頭辨藏人兵、候御劔、陪膳典侍藤房

子、常陸、

天晴、中

藥間、民部大輔基兼勤後取役、

三日、己亥、漢天得晴、早旦參院并郁芳門院御、次參左大將殿並左府大納言

殿、中式部丞定仲勤後取役、

〔近衛家文書〕十二 季仲卿記 嘉保二年正月一日、京極大殿大殿相率人々令參院

給、以民部卿被申事由、大殿令立給一人也、次後方殿、後一條殿下令立給、其次後方帥大納言已下一列、殿上人一列、六位一列拜舞了、殿下已下參女院御方、先殿下、其次後方帥大納言已下列立拜了、

〔行類抄〕二 節會三 還御

公卿退出已前例

嘉保二正一、中右宣制如例、左大臣復座、此間天皇入御、宰相中將仲實稱警

蹕、令退下賜祿退出、

〔行類抄〕三 節會六 雜例

奏左右二曲事例

嘉保二正一、中三獻樂、左萬歲樂、賀殿、罷出音聲、右延喜樂、地久

一日、戊戌上皇御所六條殿二朝觀行幸アラセラル、

〔中右記〕嘉保元年十二月廿三日、庚寅雨脚濛々、中御佛名之次、元二十年

院司之公卿中無書定文之人歟、但納言書定文條、未有此例也、至有別仰、非此

限云々、

嘉保二年正月二日

六六五

公卿退出前ニ還御

左右二曲ヲ奏ス

行幸定

納言定文ヲ書スルハ未嘗有ノ例

出御

師實師通
扈從ス

上皇出御

御膳ヲ供

嘉保二年正月二日

二年正月〔采幸〕三日〔行幸〕天晴〔辰〕辰依例有行幸上皇御所〔六〕條殿〔御〕廊〔門〕院〔此處力〕午四點

御出南殿〔掌侍〕二人左次〔具〕御輿長隨身等渡階前向西中門〔主〕頭道計

言朝臣公卿列立〔藤〕大納言〔家忠〕新大納言〔俊明〕民部卿〔公實〕右衛門督〔忠實〕左大將〔基忠〕藤中納言〔通俊〕治部

卿江中納言〔經實〕二位宰相中將〔保實〕左宰相中將〔實〕左宰相中將〔實〕三位侍從〔能實〕右宰相中將〔實〕左

大辨〔宗通〕新宰相中將〔實〕左大〔將〕列進南階東頭〔關〕司奏〔鈴〕奏〔奏〕

御輿〔二〕位宰相中將置璽劔於御輿〔與〕之間次將等稱警

於西中門〔左〕大將仰可張〔其〕路經大炊門洞院東大路〔至〕

關白殿騎馬供奉〔瀧〕口十二人為御馬副調度〔懸〕相又大殿供奉〔唐〕車兩

殿下供奉之儀未有如此事珍重之事也此間發亂聲令院司中宮大夫師忠卿

奏事〔中〕宮大夫參會〔也〕白〔其〕後寄御輿於西中門〔實〕保實〔將〕經〔先〕御〔先〕御〔先〕御〔先〕

上皇〔赤〕色御出〔南〕面宸儀〔旨〕進寢殿〔御〕本殿〔直〕御〔東〕西〔近〕

給御間關白殿〔御〕衣後〔扈〕從〔大〕殿又令候給頭辨〔御〕本殿〔直〕御〔東〕西〔近〕

候御間關白殿〔御〕衣後〔扈〕從〔大〕殿又令候給頭辨〔御〕本殿〔直〕御〔東〕西〔近〕

帝御出次公卿依召候簀子敷大殿左大臣〔此〕處也〔關〕白殿〔自〕餘公

卿次第列坐發亂聲振梓次舞左右各五此間先居公卿衝重〔上〕位〔六〕位〔殿〕右近

權中將顯實朝臣勸益公卿〔頭〕替〔辭〕退〔次〕供內御膳〔權〕大納言〔家〕忠〔次〕供院御

還御

面〔供〕賜〔爰〕以頭辨殿下仰左大臣有院司勸賞〔又〕給諸〔簾〕中有御對

從三位〔宗〕通〔院〕別〔正〕四位下藤隆時〔院〕別〔藤〕忠教〔御〕給〔正〕五位下藤顯

隆〔院〕判〔藤〕從五位上橘家光〔女〕院〔已〕上六人御牽出〔俊〕忠〔能〕俊〔末〕

牽〔置〕馬〔其〕後還御已及亥刻

大殿櫻御下襲新殿下二重織物櫻下襲〔織〕物下襲〔母〕衣木表袴

樂屋〔大〕鼓一面〔右〕鼓〔也〕

樂行事左中將〔忠〕教〔右〕少將能俊〔略〕中

還御之間關白殿御車〔橫〕櫛〔毛〕

〔御遊抄〕〔朝〕觀行幸

嘉保二正二幸六條殿〔匡〕房

舞五番

無御遊

〔舞樂要錄〕〔上〕朝觀行幸

嘉保二年正月二日

嘉保二年正月二日

御遊ナシ

左万歳樂 團亂旋 万秋樂 三臺 陵王
右地久 古鳥蘇 長保樂 綾切 納蘇利

〔柳原家記錄〕

行幸雜要 公卿列事

嘉保二正二行幸上皇御所六條殿御此處也

公卿列立藤大納言新大納言民部卿右衛門督左大將略之下爰左大將離本列進南階東頭圍司奏

勸賞

〔公卿補任〕

九 參議正四位下藤宗通廿三左中將正月二日敍從三位天皇行幸

〔公卿補任〕

九 康和二年

參議正四位下源能俊卅一嘉保二正二正四下院行幸賞藤忠教廿六嘉保二正二正四下院行幸賞

〔公卿補任〕

十 保安元年 非參議從三位藤顯隆四十嘉保二正二正五下

〔近衛家文書〕

十二 代々朝觀行幸年々

堀河院 同二年正月二日戊戌行幸上皇御在所六條殿

三日亥前關白師實及比關白師通臨時客

師通臨時客

〔中右記〕

正月三日亥漢天得晴略○中今日兩殿下共有臨時客未時左府令

參關白殿給東三大納言殿令相具給仍予扈尊客入從東三條東門公卿

中門前東南次第相揖殿下東對當未申角立給公卿一列左府帥大

納言宗俊藤大納言中宮大夫新大納言民部卿右衛門督左大將藤中納言治部通俊

二通カ位宰相中將保實左宰相中將宗通新宰相中將宗雲客一列頭辨師賴朝臣以

下至藏人定仲宗佐仲兼遠實拜了後尊客與主人互以揖讓左府頗進從對

南階共昇給主人履侍從家政取之尊主人著給外座尊客著內座自餘

從東中門廊被昇次居尊者家清家朝臣爲家主陪膳一獻家主取房朝臣

二獻左宰相中將保次居飯汁物等三獻右衛門督公爰及淵醉人々肩脫帥卿

執拍子歌催馬樂安名尊後有之句次從與方牽御馬一疋左府前尊客先

令退出給頃而殿下引公卿令參大殿御所高陽院給於北門下左府與殿下自

一度令下車給于時申剋大殿令立東對前砌給公卿列立左府關白殿次

雲客列立二拜了後頗以揖讓先大殿南階獨昇給御履令著外座給

次左府與殿下共昇給府內府座殿取如初左次々人等從中門廊昇給公卿殿上

人著座了後居主人尊客前机初獻家主二獻右大辨基綱朝臣下五位三獻新

催馬樂
朗詠
師實臨時客

師實師通
齋院ニ參

師實後房
東通ノ裝

尊者

道長ノ平
緒

嘉保二年正月四日

六七〇

宰相中將、宗、四獻治部卿、通、此間帥卿執拍子催馬樂、此殿、席田、期詠、五獻藤中納言、基、

已及淵醉、自入幽興、居菓子間牽御馬二疋、兩尊、秉燭以前事了、兩殿下有御出、

齊院給、人々或扈從、或參所々、予參內、頭辨以下雲客著殿上、欲有淵醉之間關、

白殿左大將從齋院令參內給也、已物騷之間、入夜人々分散、頗遺恨歟、歸蓬門、

今日大殿并左大臣白重紺地緒、新殿下火色下襲、黑半、梅之平緒、

〔玉藥〕嘉禎三年正月三日、天陰雨降、略中、此日臨時客也、略中、

今日不降雨者、可有揖讓之儀、尊者左大臣、子息右大臣例頗稀、准嘉保二年、尊

左大臣第二關
白內大臣云々

〔後照念院殿裝束抄〕紅梅地平緒事

嘉保二年正月三日、自筆云、臨時客櫻練下重、著之紅梅平緒、件緒御堂殿被
著御、今日帶之

〔裝束抄〕平緒、紅梅地、紫裝束
紫革

嘉保二年臨時客ノ日、後二條關白、火色下襲ニ、紅梅平緒ヲ用ラル、

四日、庚子內御物忌、

〔中右記〕正月三日、己亥、漢天得晴、略中、歸蓬門、一寢之後、及夜半、有叩門者問

之、明日內御物忌間、當非番人更不被參籠、事已可闕也、早可參仕者、則參內、于

時子四點也、

四日、庚子、天晴、從今日四日內御物忌也、予并六位藏人之外、全以無人、供朝

夕膳、終日候御前、又宿仕、

五日、辛丑、天陰雨下、略中、御物忌也、仍人々參籠、略中、次鈸位、大納言召予被尋

功課文書、出弓場殿召大夫史祐俊宿禰尋之、越後國文書雖相具、已不籠御物

忌、藤國明朝
臣舊國、歸參申此旨、頃而有仰、令進文書、是御物忌不固、已及夜半之故也、

六日、壬寅、御物忌間、勤仕女房陪膳、

七日、癸卯、天晴、但時々雪飛、御物忌也、仍無出御、略下、略白馬節會、

十四日、從今日禁中、四日御物忌也、供朝夕膳了、牛一之後退出、朱書「節會」
略中、

十六日、天陰、終日雨下、秉燭之程參內、節會欲始之間也、略中、謝座後人々著座、

依當御物忌、無御出、

十七日、天晴、御物忌間、祇候御前、

廿日、今明內御物忌也、終日祇候御前、牛一之後、與兵部大輔同車歸家、通輔

廿四日、從今日三日內御物忌也、終日候御前、牛一之後退出、

廿六日、壬戌、除目初也、略日、略本月二十八條參看、依當八卦御物忌被破了、外宿參入、

嘉保二年正月四日

六七一

御物忌固
カラズ

八卦御物
忌

○十四日ノ御物忌等便宜合敘ス、

五日、辛丑敘位、是日、毎日ノ御拜ヲ始メ給フ、

〔公卿補任〕天永二年 參議正四位上藤爲房、六十嘉保元二十十七修理權

大夫、同二正五從四上、大夫

〔公卿補任〕保安三年 參議正四位下藤宗輔、四十同二正五正五下、勞

〔公卿補任〕大治五年 參議正四位下源雅兼、五十同七十八右衛佐、十五

嘉保二正五從五上、佐勞

〔辨官補任〕史權右中辨正五位下源重資 修理右宮城使、攝津守、正月五日敘

從四下、○公卿補任

〔中右記〕正月五日、辛丑、天陰雨下、敘位議、○中略、御物忌ノル、本月四日ノ條ニ收ム、戊刻許

公卿著仗座、左大臣、藤大納言、新大納言、家、右衛門督、公、左大將、治部卿、通、江

中納言、左宰相中將、左大辨、季、關白殿御殿上、頃而藏人木工助明國召公

卿、左大臣以下進御前座、殿下左大臣昇給後令進座給、大納言以下取管文如

常、次殿下先著給同座、次左大臣同著給、召藏人右衛門權佐時範、令進續紙、紙

柳管、入次敘位、大納言召予被尋功課文書、出弓場殿、召大夫史祐俊宿禰尋之、越

功過定

下名

後國文書雖相具、已不籠御物忌、藤國明朝歸參申此旨、頃而有仰、令進文書是御物忌不固、已及夜半之故也、予并右少辨時範二人、於弓場殿史所持之功課文書管、取て、從參議座後居之、予取視管時、藤大納言奉功課定、左大辨讀帳、左宰相中將書功課定文、江中納言見合文書、是依參議不足也、又有僉議史上、（朱書）「依史上藤重服未服任、第二者不給爵常例事」薦重服未復任、中云々、然者第二者可給爵歟如何、左大辨、宰相中將被申云、可給第二者、江中納言以上被申云、先例一者喪之間、（復）服任以後、追給爵常事也者、仍史無給爵人、丑刻許事了、左大臣於殿上取敘位給、下名上卿治部卿、先披見之後、治部卿於仗座令參議、左中將保實書下名、位記請印之間、中務輔不參、依仰左少將有賢爲輔代、（取力）位記管、藏人木工助明國取二宮奏聞、二人須取管也、而藏人皆隱了、奇怪歟、

大納言殿初奉行功課定給也、左大辨初讀帳、左宰相中將初被書功課定文

也、終夜雨下、予又宿侍、今日初有毎日御拜、

○上 今年敘位、無一院并郁芳門院分、

九日、○中 新殿上人々長忠朝臣、還昇、行信、敦兼初供御膳、

新宰相中將宗通、權辨重資、院還昇、

嘉保二年正月五日

一院女院
分ナシ
還昇
院還昇

嘉保二年正月五日

〔夕拜部類〕

○岩崎文庫所藏 右御記

六七四

同二年正月五日辛丑雨下今日御物忌也、有敍位議事、左府藤大納言、右衛門

督、左大將、治部卿、江中納言、左宰相中將、左大辨被參籠、早旦參御直廬、內覽吉

書次、內覽申文等、次於朝餉方奏之、頭辨藏人兵部大輔同奏申文畢、次於晝御

座方擇申文如例、擇畢盛御硯箱蓋、申刻藏人奉仕御裝束、其儀垂母屋御簾、卷

東庇御簾、以廂代孫庇供之、如堀河殿儀、但御物忌付身屋御簾、入夜左大臣以

下參著右仗、先是殿下令昇給、以頭辨被仰敍位召仰、申於大臣、頃之頭辨奉仰

令藏人木工助明國召諸卿、々々參上、殿下先出御、左大臣參上殿上、次左大臣

參御前、著大臣座、次殿下參御、令著左大臣下給、次藤大納言以下取箱文如恆、

次殿下依召先以參上、令著北面圓座給、次殿下召左大臣、々々參著西面座、次

召人下官參上、召續紙、即以持參、二局各九枚、盛柳筥、入自御座間進、大臣退歸、次被行敍

位如恆、以左大辨被召諸宮御申文、次以頭辨召入內、一加階勘文、先是侍臣居

火橫衝重、無勸盃事、召諸國文書、官申籠宿文書不候之由、頃之有議勅許上備

前守國明前任越後國文書、左大辨被讀之、子刻敍位畢、諸卿被候殿上、大臣出

于殿上給敍位於治部卿、即以開之、大臣退出、次納言已下退出、治部卿著右仗

申文ヲ擇

勸盃ナシ

被行入眼事、頃之下官退出、先是殿下出御、

右近中將顯實朝臣敍正四位下臨時恩也

修理權大夫爲房朝臣敍從四位上在藩之時舊勞

大外記大宅義範敍爵重喪之者去十月晦日復任

重喪者不復任以前不敍爵事左大史紀有保不敍爵七月遭父喪未

廿九日除日以敍爵復任之故也

〔禁祕抄〕

恆例每日次第 或記曰嘉保二年正月五日、今日依吉日、始有每日

御拜、

〔敍位除目執筆抄〕

嘉保二年正五敍位、執筆、上皇、越中大黑莊ノ造大神宮役夫工ノコトヲ沙汰セシメ給フ、

〔中右記〕 正月五日辛丑、天陰雨下、敍位議、裏書○中

敍位議間、越中國大黑庄役夫工事可沙汰由、仰行事史盛忠了、是江中納言

奉院宣、所被宣下也、仍則申上卿江卿後、仰史了、

十一日、○中行事史盛忠來向之次、一日所奏之宣旨下知了、

○造豐受大神宮役夫工等ニ關スル宣旨ヲ下スコト、嘉保元年十二月

十七日ノ條ニ見ユ、

嘉保二年正月五日

六七五

宣旨ヲ下知ス

嘉保二年正月五日

六七六

東大寺政所、大堂達延賢等ヲシテ、同寺領伊賀黑田莊ニ吉野山使ノ濫行
セルヲ檢察セシム、

〔東大寺文書〕

〇八 第二回採訪

政所下 大堂達延賢等

可早行向黑田庄尋沙汰進吉野山使入亂致苛法事

右如光國申狀者、件使入亂御庄内、搦居光國、旁致濫行者、事若實者甚非常也、
件田畠任本公驗理、可爲保房朝臣領之由、被下宣旨、先了、隨國司免判又了、而
何件使等違朝憲、背宣旨、可致如然狼藉乎、但子細暗以難知、早行向彼庄、且慥
尋問實否、兼任宣旨免判等旨、可停止非例責狀、所仰如件、不可違失、故下、

嘉保二年正月五日

權都那法師林

都維那法師賢快

別當法印

上座大法師

權上座大法師(花押)

〔慶源〕

寺主大法師(花押)

〔朝秀〕

權寺主大法師(花押)

〔暹慶〕

光國ヲ搦
保房ノ領

六日、壬寅御念誦ヲ始メ給フ、

〔中右記〕

正月六日、壬寅

〇主上今日初新年之後有御念誦、時々雨下、供夜侍

後退出、

〔禁祕抄〕

恒例毎日常次第

或記曰、嘉保二年正月五日、
〇中 又六日依吉日、始

御念誦畢、

七日、癸卯白馬節會、

〔中右記〕

正月七日、癸卯

天晴、但時々雪飛、御物忌也、仍無出御、南殿母屋從御

座間以東懸御簾、自餘之儀如例、未四點内侍給下名於内辨、
給兩省、左右近衛陣引、
人、内辨謝座、宣命付弓場殿被奏、内辨還登之後位記宮下、内辨召舍人、少納言

惟信參入、喚刀禰、次外辨列立、
大將、
宰相中將、
宗、謝座之後各著座、次二省引、
記召給、
卿下殿拜舞、
親族、
左大將於軒廊取左右奏、
不被參也、
次白馬引、
次第如例、
御酒

宣命拜

内辨

親族拜
御酒勅使

嘉保二年正月六日 七日

六七七

坊家奏

下名

嘉保二年正月八日

六七八

勅使將相中坊家奏帥大納言被奏次樂拜內辨被奏宣命所御次宣命使左宰相中將保祿所新宰相入夜事了

今日藏人左近將監高階仲兼給爵下名ニ被加也大略如此予入夜退出

〔公卿補任〕

嘉承元年

參議正四位下藤顯實五十

嘉保二正七正四下臨時

〔公卿補任〕

保延五年

非參議從三位源行宗七十嘉保二正十七從四上院未給

八日甲辰御齋會後七日御修法

〔中右記〕

正月十四日略

不參御齋會依爲神事行事也

後聞內論議於南殿被行八省事了後引被參內公卿三人道僧綱權少僧都隆禪結番當講經尋與福抑東寺長者法務定賢從真言院欲參內間仁和寺大衆許云々頗成訴訪之數剋沙汰行事辨時範奏事由遣史廣親仰宣旨及曉更事了頗奇恠者

〔東寺長者補任〕

長者權大僧都定賢法務

後七日伴僧交名不載法務

〔後七日御修法阿闍梨名帳〕

嘉保二年乙亥權大僧都定賢一長者房云覺意不審賴觀歎

後七日法阿闍梨

內論議仁和寺大衆訴ヲナ

還御

官歴

有慶大僧都弟子

○御齋會後七日御修法ヲ始ムル日詳ナラザルヲ以テ姑ク例日ニ掲

九日乙巳上皇法勝寺ニ御幸アラセラル

〔中右記〕

正月九日略

今夕上皇有御幸法勝寺關白殿初令參御幸給也則還御

前東大寺別當法印慶信寂ス

〔僧綱補任〕

興福寺本

法印經真慶信正月九日逝去

〔僧綱補任〕

興福寺本

法橋上人位慶信延久三年二月廿日敍有慶大僧都辭職讓與中納言公成男承保二年正月十四日任東大寺別當同三年十

二月十九日敍法眼應德三年十一月廿一日敍法印

〔東大寺別當次第〕

法橋上人位慶信七十一

承保二年正月十四日官符慶年卅五三論宗本寺東南院有去延久三年二月廿二日敍法橋辭年卅一師主有慶承保三年六月香菜新田定坪被宣下之承曆元年敍法眼臨時朝恩三年食堂坤角九間頽落年內造畢大佛殿東庇修造之間乾角第二母屋柱四丈切替千手院西面頽落即又修造勅封藏修理之次依宣旨麁

嘉保二年正月九日

六七九

嘉保二年正月九日

香五兩進上其代銀提一口被施入其數二百五十兩八幡宮禮殿始造之四年
修造廣目天榮爵二人宣旨應德三年十一月任法印修造賞寬治七年夏替東塔蓋層
角木築南大門西大垣三町葺瓦嘉保元年十二月廿六日依病辭別當寺務廿
年承保二、三、承曆四、永保三、應德三、寬治七、嘉保元

〔東南院務次第〕第九法印慶信 法印慶信姓藤原權中納言公成卿子隨有

慶僧都習串三論深究玄底延久三年二月廿五日（榮）敍法橋承保二年正月十四
日補東大寺別當承曆三年臨時朝恩敍法眼伽藍朽損忽加修補大殿東庇食
堂頽落或正倉院也八幡宮拜殿始造之又修造廣目天其功廣博也于時爲修
造賞應德三年十一月廿一日敍法印寬治三年白河天皇高野行幸時勅以東
南院爲旅皇居以來稱南都御所嘉保元年十二月廿六日依病辭別當二年正
月九日卒於東南院壽五十五

〔東大寺要錄〕別當章第七和上法印慶信第七十一承保二年同二、三、承寺務廿年同二、三、承

治元二、三、四、五、六、七、嘉保元、二、三、寬 承曆三年、食堂坤角九間亂落年內修造了、勅
封藏麝香五兩進官其代銀提一口施入百五八幡宮禮殿始造承曆四年修廣
目天榮爵下

〔尊卑分脈〕藤原氏

公成權中納言從二位
長久四六廿四薨四十五
慶信東大寺別當法印東南院
母淡路守藤原定佐女

○釋家初例抄華頂要略本朝高僧傳異事ナキヲ以テ略ス、

十日丙午藏人及ビ檢非違使ヲ補ス、是日、前關白師實、其室麗子ト共ニ、京
極殿ニ移ル、關白師通等之ニ從フ、

〔中右記〕正月十日、丙午大殿并北政所初渡御京極殿云々、略○中

檢非違使二人、宣旨被下、藏人左衛門尉藤宗佐、左衛門尉高階盛業、
今夕被補侍中二人、宮内丞藤宗仲、殿文章生大抑仲正兄弟相竝之事久絶之
例也、頗非落居之事歟、

裏書
十日、京極殿御渡之間、左府并關白殿令參給、諸卿殿上人、騎馬、皆衣冠、先依
忌方角、令渡廊給也、

天台座主仁覺ヲシテ、熾盛光法ヲ延曆寺ニ修セシム、

〔平記〕十四 時信記 大治六年正月十一日、略○中

右大丞御記云、

嘉保二年正月十日、丙午今日被始行熾盛光法、座主於山上修之、伴僧廿口、

嘉保二年正月十日

藏人御衣
ヲ捧持シ
テ監臨ス

嘉保二年正月十五日

六八二

藏人明國令持御衣監臨之、

十五日、亥外記政始及ビ檢非違使廳政始、是日、御薪ヲ進ル、

〔中右記〕

（朱書）政始正月十五日、早旦參結政、依有政始也、如例著座了、大夫史祐俊以下

先左一史盛忠結申六人著本座、頃而左大辨、左右少辨來著、史各覽文鈞匙、史生覽吉書、且令見了、

上卿民部卿俊明被著廳、官掌作法次可申南文三枚、祐俊宿禰結申、左大辨被

著廳、申文左右少辨、時有信範右大史成俊、右少史通貞、時真、少納言惟信、外記通景、

次請印少納言家俊、外記廣忠、事了出立、官掌還來之後、予立座向南所、先於樹

南左右少丞相揖於南所門前直申與奪之一々著座、先少納言成宗召大舍人、

了居飯、了後申文□食之後有勸盃、少納言家俊事了一々起座於門前有出立儀、如

常、渡參陣、依爲政始日、於仗座有申文、先左大辨於床子座見申文、史時真候之

左右少辨共爲檢非違使佐、仍於陽明門下留了、是今日必檢非違使廳政始

也爲著行云々、

帶蒔繪細劍、晚頭歸家、○中

宮内省御薪、左少辨被著行云々、

上皇及ビ郁芳門院、鳥羽殿ニ御幸アラセラル、

〔中右記〕

（朱書）略正月十五日、

今夕上皇竝女院御幸鳥羽殿云々、依催進出車了、

廿八日、天陰雨下、○中此曉上皇從鳥羽殿、還御六條殿、依除目事歟、○本月二

十六日、壬子踏歌節會、

〔中右記〕

（朱書）節會正月十六日、天陰、終日雨下、秉燭之程參内、節會欲始之間也、公卿著

外辨座、依雨儀依無他辨、予相具少納言惟信、外記史等、著外辨座、先内辨帥大

納言内侍召後謝座昇堂上、近衛陣、依雨儀此間雨止開門、内辨召人、少納言惟

信經外辨公卿座前砌、向西中門、雨儀此間外辨公卿起座、藤大納言、新大納言、

（宗俊）家、（忠實）左大將、（基）藤中納言、（匡）江中納言、（經）二位宰相中將、（宗俊）新宰相中將、（宗俊）左大辨

（宗俊）季、（宗俊）列立西廊中、雨儀而酒正數刻不見來、人々成恠被尋之處、造酒正申所勞不

參、仍以雅樂頭爲代官之間、不申左右隱了、令相求、遂不勤役者、然間已及一時、

外記廣忠申云、以主殿允有道爲代官、六位有先例者、仍以有道爲代官、謝座後

人々著座、依當御物忌、無御出、宣命見參等奏、内辨付御所被奏、御酒勅使、二位

將、宣命使、新宰相祿所、左大舞姬等依雨儀、從東昇南殿、女官四人公卿拜皆用

嘉保二年正月十六日

六八三

還御

雨儀

内辨

造酒正ノ
不參ニ依
リ代官ヲ
用フ

謝座

御物忌ニ
依リテ出
ズ御シ給ハ

嘉保二年正月十九日

六八四

西廊中、抑雅樂寮舞依雨止、如例用南庭、先參音聲、春庭次舞四曲、左萬歲樂、甘樂、登天退出音聲、長慶亥時許事了、人々退出、次第不同、依思出書之、今夜宿仕、

大治二年正月十六日、丙午或陰或晴、略○中

去嘉保二年正月十六日、朝雨夕晴、而舞晴儀、舞妓昇南殿、雨儀也、是依庭濕也、

彼日內辨、後房入道左府也、前文內辨ヲ、經信トナス

郁芳門院御惱、依リテ、法務增譽ヲシテ、熊野精進ヲ鳥羽殿ニ始メシメ給フ、

〔中右記〕正月十六日、天陰、終日雨下、略○中

十六日、從今日郁芳門院於鳥羽殿、增譽法務、舍方始熊野精進給、差別使被奉也、御惱之間御願云々、

○郁芳門院、鳥羽殿ニ御幸アラセラル、コト、本月十五日ノ條ニ、御惱ノコト、三月二日ノ條ニ見ユ、

十九日、關白師通、高陽院ニ於テ、大饗ヲ行フ、

〔中右記〕寬治八年十二月十九日、丙戌時々天陰、飛雪隨風、略○中、略官奏ノ事了、殿下令還二條亭給、予扈從參入、是明年大饗定也、帥大納言、新大納言、

右衛門督、忠實左大將、江中納言、忠實左大辨、殿上人兩三輩參入、行家朝臣書定文、正月十九日者、及深更歸家、殿下今夜令渡東三條給、

二年正月十七日、天晴、略○中、未時許參入高陽院、是依大饗習禮也、人々參集之後、公卿被出居寢殿南簀子敷、先敷大殿、鳥關白殿、冠帥卿、藤大納言、新大納言、後明民部卿、左大將、藤中納言、江中納言、左大辨等也、皆以直衣、此中江中納言、

左大辨二人束帶、今夜依被著射禮也、先官外記史生官掌召使等、於南庭拜了、向可立幄之所、次雅樂寮乘船參入、春庭於南庭有立樂、光末打一鼓舞、先萬歲樂、光末一人舞之、次地久佐忠父子舞之、禰冠秉燭之程事了、人々退出、與藏人

大輔同車歸家、十九日關白殿於賀陽院、有朱器大饗、子細在別記、及深更事了、

〔長秋記〕目錄 正月廿九日、大饗、略

〔台記〕仁平二年正月廿六日、壬戌、天晴風和、今日於東三條再行大饗、朱器初度、戊日也、略○中

嘉保二年、關后後二條殿大饗、光末左良井支、後日主人召光末、度欲令光時舞、左良井津支、而禪閣仰云、彼例不便、不可令舞、仍無其事、

嘉保二年正月十九日

六八五

御遊

〔御遊抄〕

大臣大饗御遊付關白朱器

嘉保二正十九關白師通

拍子權大納言宗俊

笙右中辨宗忠

笛少納言家俊

箏友召人友貞

比巴帥大納言經信

箏左大將

和琴師忠

二十三日、已政、賭弓、尋テ、又政ヲ行フ、

〔中右記〕

正月十八日、依爲凶會日、賭射延引、於此大炊殿未有弓場始之故歟、

廿二日、早旦參結政、依可有政也、到外記門前、上官等起座出、政延引者、略中

朝間雨脚下、雖可有賭弓、依雨濕延引、明日可被行者、

廿三日、已未、天晴、朝大盤以後參結政、要日之上依有政也、入外記門間、大夫、史

以下七人列立、著本座、少納言家俊參入、頃而權右中辨、左右少辨參來、右大辨

賭弓延引

政延引

賭弓又延引

上卿請印ナシ

參加史覽文、鈎匙上卿江中納言被著廳、參議不參仍無請印、但權右中辨重資

敘四品後、今日初參、依彼申請無注申、上卿則起座、被渡南所、大夫史可申南文

結申、上卿此後可被南渡也、頗早被立座也右大辨以下向南所、於南所門前辨侍直申、予依爲貫

首、可與奪也、雖然相讓權辨、初參也、彼人依引著座史申文、相模前司經敏帳下也、依殿下也、

早所被事了渡參陣、予申案內於上卿、從陽明門參大納言殿、未時許大納言殿

與左府同車參內、予扈從、依賭弓也、宿仕、賭弓在別記、

廿六日、壬戌、中略

今朝有政、上卿江中納言云々、依無參議無請印、左少辨有信所被語也、予宿

仕、

二十八日、甲子縣召除目、

〔公卿補任〕

九

參議正三位藤保實、廿五右中將正月、兼伊與權守、

正四位下同季仲、左大辨、勘解由長官、正月、兼越前權守、辨官補任二十八日

同宗通、廿三左中將、正月同月、兼備後權守、

嘉保二年正月二十八日

六八九

院分

〔公卿補任〕

康和元年

參議正四位下源顯通 嘉保二正、兼伊與介、

〔公卿補任〕

康和二年

參議正四位下藤忠教、廿六、同月、兼尾張守、

〔公卿補任〕

嘉承元年

參議正四位下藤顯實、五十、同廿八日兼備後介、中將

〔公卿補任〕

長承元年

非參議從三位藤家一、三十、嘉保二正廿八越前守、院

〔公卿補任〕

保延二年

非參議從三位源有賢、七十、同三正廿八遷右少將、

〔辨官補任〕

保延二年

非參議從三位源有賢、七十、同三正廿八遷右少將、

〔辨官補任〕

左中辨正四位下源師賴

正月廿八日兼備中介、裝束使勞、○公卿

〔辨官補任〕

左少辨正五位下藤有信

左衛門權佐、中宮大進、正月廿八日美作權介、

〔中右記〕

正月廿日、○中

除目御修法始、前大僧正覺圓、伴侶廿口、東對廿二日

始

廿四日、○中

關白殿今朝從內令參鳥羽給、大略除目之事歟、

師通鳥羽
殿二候ス

廿六日、壬戌

除目始也、依當八卦御物忌被破了、外宿參入、秉燭以前有召、公卿

參著御前、左大臣、關白、帥大納言、中宮大夫、新大納言、右衛門督、左大將、別當、藤

中納言、治部卿、江中納言、新宰相中將、宗、等也、依無參議、召二位宰相中將、左大

中夜

功過定

顯官舉

入眼

辨、及深更、伴人々參進、亥時許事了、人々退出、○申予宿仕、

廿七日、天陰雨下、關白殿從內白地令參賀陽院御、則歸參內、朝大盤以後參大

納言殿、爲御共入夜參內、秉燭以前除目始、公卿如昨日、有功課定、左大辨讀帳、

新宰相中將、宗、書定文、江中納言見合、依無人經敏舊國相模帳也、又有顯官舉、

亥時許事了、又宿仕、

廿八日、天晴雨下、○中、此曉上皇從鳥羽殿還御六條殿、○本月十五、依除目事

歟、予白地退出、申時許參內、依除目入眼也、戌剋許事始、左大臣、關白殿下以下

公卿參進御前座、帥大納言奉功課定、左大辨讀帳、新宰相中將、宗、書定文、江中

納言見合、肥後帳中有相違事、藤重房至新委不動穀條別功事、不載帳并申文、

而見押書如何、帥卿召予被問官、則向弓場殿、尋大夫史祐俊宿禰申云、有文書

相違時、追可被定也、予申此旨、事已及公卿定、人々被問國司之後、追可定申者、

又佐渡帳、後定讀了、定功課了、又源有宗朝臣與藤知房朝臣有得替合恪之論、

公卿定各々不同、共以浴受領之恩了、又別功者與管國一、以何人可被賞之由、

有定、以管國一俊光任遠江了、後定卿類爲御使、往反院之間、次日及辰刻事了、

召清書上卿江中納言於御前、給大間、於殿上人々披見之處、遠江守俊光執筆、

嘉保二年正月二十八日

六八九

俊明子院
二遣ス
清書上卿

書落シテ直ス

誤俊房被書付也

陸奧國以有宗朝臣可被任也、已書落也、此旨等清書上卿令藏人右少辨時範奏、須待直物之次、雖可被直、依爲執筆之名、清書之時爲無便、被忿奏、所被直也、

清書左大辨一人勤之、

史ヲ敘爵ス

裏書愚案、除目之次史被成了、又上臈史有保敘爵、而除目ハ先敘位ハ後也、何先被成替テ敘位ニ史敘爵哉、頗不得意、但定依先例歟、

下名延引

廿九日、早旦辰時許、除目了後、上皇還御鳥羽殿云々、予從內退出、
晦日、略中入夜雨脚濛々、今夜依可有除目下名、治部卿左大辨參內、休日有先例由、外記所勘申也、而依有可被加成之者、藏人辨爲內覽參殿下間、已及子剋

不見來、治部卿左大辨共稱所勞由、被退出了、已以延引、予宿仕、
二月二日、略中夕方爲勤下名參內、上卿治部卿參入、而外記來仰云、依殿下仰、

今日又延引、及深更退出、
（采書、除目下名人加）三日、晚頭秉燭之程參內、依有除目下名也、上卿治部卿通俊卿、參議左大辨季

上下名

仲被參仗座、少納言家俊祇候之、藏人右衛門權佐時範仰可行下名之由、上卿移著外座、召外記令進下名、入篋先以官置藤突時範仰云、太皇太后宮大進正五位下

二省丞テ召ス

源清實權大進從五位上藤原仲實、還著大炊允高階忠季、齊院去、被成加也、令

左大辨書加清書之中、次令時範內覽殿下、御內也、次進弓場殿、外記入篋相具、上卿令藏人宮

內丞宗仲奏、返給之後歸著仗座、召二省丞、式部兵部丞參入、立小庭、先召式部給下名、次兵部、共給了後退出、上卿起座、出從敷政門代、參議以下相從、從郁芳

門、至官廳東門、爰予少納言相具、經東廳後向南門、此間上卿參議著廳、頃而召使出南門、召少納言家俊、予、輔代二人、式部代遠江權守爲綱、兵部代下野守爲綱、付前版、二省丞以

下付次版、上卿命云、召予依爲四位先昇、從南面西階著床子、次々著之、但六位以下昇西階著壁下座、如申文、但無三位、

段、上卿命云、式部省召、輔代進上卿前、先座稱唯、給清書著本座、兵部如此、輔代共著座、上卿命云、令召與、式部輔召、錄給清書、兵部又以此、二省掌各令置驗木、兵部又如此、次錄讀任人名、及兩三人間、上卿以下起座、出從北戶各退出、辨少納

言同從此出了、

今日、依日次宜好、勤此下名、任辨之後、未著官廳之故也、及亥剋歸家、

〔魚魯愚別錄〕

七召轉任宿官兼國勘文事 任新敘宿官

裏書云、左府示給曰、今年二嘉保五日、敘位、史可敘爵、而依障不預敘位、而去廿

八日、除目次、已敘爵存其由、先令任宿官、但不入宿官勘文、然而存可敘爵之

嘉保二年正月二十八日

史敘爵ノ次第

嘉保二年正月二十八日

由、先任宿官也云々、

〔魚魯愚別錄〕

關白大臣以下著御前座事

秘抄次關白起座著御前座、

嘉保二年二月廿日記曰、殿下著櫻御下襲、

〔敍位除目執筆抄〕

嘉保二年正廿六縣召、廿八日入眼、

執筆左大臣俊房、

〔魚魯愚鈔〕

受領舉事關白不參時用下書紙事

嘉保二年春除目、受領申文之上書側記、被插於成文之束、殿下同被仰不知之、

由、○下略魚魯愚別錄異事ナシ、

〔魚魯愚鈔〕

受領舉事一舉書樣之、中山抄注

大和 公綱 年勞

尾張

遠江 俊光

駿河 廣貞 文

武藏 重實 藏人

下總 資俊 民

師通裝束

執筆

申文ノ作法

受領舉書樣

木工寮請

常陸 知房 得

美濃 義綱

飛驒 朝俊

下野 邦季 檢

越前 家保 院

備後 行實 都勞

長門 季綱 式

豐後 恒方 外

肥前 重綱

壹岐 定清

嘉保二年案也、有注爲忘却歟、執筆左大臣俊房之

〔朝野群載〕

請奏木工寮

請殊蒙天恩、因准傍例、以長上藤井則季被補任少工闕狀

右得則季款狀、備謹檢案內、少工有闕之時、長上十五人中、以上臚被補任者、承前之例也、今少工有闕、次第所至、則季已當其仁、則季夙傳郢斤成風之妙、已綺

嘉保二年正月二十八日

嘉保二年正月二十八日

六九四

厦屋如雲之構、況乎奉公之勞、年序多積、採擇之處、猶異傍輩者、察加覆審所申、有實、望請天恩、以件則季被拜任少工闕者、彌令抽奉公之節、仍勒在狀、謹請處分、

嘉保二年正月廿六日

正六位上行少允橘朝臣

正六位上行少允高階朝臣

正六位上行源朝臣

兵部權大輔正五位下兼行頭藤原朝臣

〔魚魯愚鈔〕

〔五〕 諸未給

院宮年々御給次第

二條院御給

嘉保二年正月以藤原宗憲任木工助、

嘉保二年十一月十三日

〔除目申文抄〕

〔院宮名替〕

無品禊子內親王家

正六位上阿比留宿禰忠好

右去延久四年巡給二合、承曆四年以藤井友成申任長門掾、而稱非本望、不賜

禊子內親王年給御申文

親王年給

籤符、然間一任四年空以暮了、仍以忠好可被任彼對馬掾之狀、所請如件、

嘉保二年正月廿六日

從四位下行主殿頭藤原朝臣公經

〔魚魯愚鈔〕

〔五〕 諸未給

親王年給巡給

可勘二合年二件內親王巡給

無品禊子內親王家

正六位上大中臣朝臣有武

望諸國掾、遠江

右當年巡給二合所請如件、

嘉保二年正月廿三日

從四位下行主殿頭藤原朝臣公經

此申文執筆袖書如公卿二合申文、若爲一說歟、未知事也、件兩年執筆源左府也、而相違如何、若嘉保袖書被思失歟、

〔魚魯愚鈔〕

〔五〕 諸未給

公卿年給未補

可勘給不

從七位上秦宿禰久行

望國目、阿波

嘉保二年正月二十八日

六九五

公卿年給申文

嘉保二年正月二十八日

右去寬治六年給未補，仍以件久行可被任之狀所請如件。

六九六

嘉保二年正月廿三日

從二位行權中納言兼治部卿藤原朝臣通俊

〔魚魯愚鈔〕

諸未給

公卿二合給未補

白紙

可勘二合年二合未補給

正六位上佐伯宿禰為茂

望阿波國掾

右去年給二合未補，所請如件。

嘉保二年正月廿六日

正二位行權大納言藤原朝臣宗俊

白紙

可勘二合年舞姬同七年給二合未補

正六位上秦忌寸光行

望諸國掾

右寬治六年依獻五節舞姬，同八年給二合所請如件。

嘉保二年正月廿六日

從二位行權中納言兼左近衛大將藤原朝臣忠實

〔朝野群載〕

曆道 天文道

從五位上行主計權助兼權天文博士安藝介安倍朝臣親宗，誠惶誠恐謹言。

天文博士
安倍親宗
申文

請殊蒙天恩因准先例，以天文得業生正六位上惟宗朝臣忠盛拜任博士闕狀。

自得業生依舉狀被拜任博士例。

惟宗是邦天延元年

賀茂光國同二年

安倍章親寬仁三年

巨勢孝秀長久二年

安倍奉親同八年

安倍親宗康平三年

同國隨治曆元年

右親宗謹檢案內天文博士有闕之時，得業生中以堪其器之輩，被抽任者例也。爰件忠盛早補得業生，又學天文道，見其繼日之勤，尤足司天之奏，況乎忠盛執來之業，已及三代，鑽仰之勤，漸過四旬，推薦之處，旁當其任，望請天恩，因准先例，以件忠盛被拜任博士闕將俾竭奉公之節，親宗誠惶誠恐謹言。

嘉保二年正月廿二日

從五位上、

〔朝野群載〕

諸國雜事上

上臈辭退受領下臈申文

散位從五位下菅野朝臣則元誠惶誠恐謹言。

請殊蒙天恩因准先例，依官史勞，拜任下野等國守狀。

嘉保二年正月二十八日

六九七

菅野則元
申文

右則元謹檢案内、經官吏敍爵之者、每春一人必被任受領、古今之例也、如今年之巡相當伴廣貞、而嫌任國申他官、若廣貞不被登用者、則元爲第二、尤當其仁、望請天恩、因准先例、拜任伴等國者、將知奉公之不空矣、則元誠惶誠恐謹言、

嘉保二年正月廿六日

散位從五位下菅野朝臣則元

二十九日、丑乙上皇、鳥羽殿ニ御幸アラセラル、

〔中右記〕

正月廿九日、早旦辰時許、除目了後、上皇還御鳥羽殿云々、

○上皇、六條殿ニ還御ノコト、二月二十九日ノ條ニ見ユ、

二月丁卯盡朔

一日、丁卯日食、依リテ、大原野祭、釋奠ヲ延引ス、是日、内御物忌、

師實師通
御物忌ニ
參籠ス

〔中右記〕

〔朱書〕日蝕依雨不正現
二月一日、丁卯今日可有日蝕之由、曆道奏聞、仍兩殿下令參籠御物

食十二分
半

正現セズ
音奏アリ

忌給、殿上人職事十人之外、又以濟々參籠、而從夜前天陰雨下、已不正見、司天臺所奏十二分半、蝕從寅刻可及辰刻者、纔及午刻、天頗晴、雖然圓光甚明、定知覆末以後天晴歟、不正現條人々皆感歎、仍有音奏、未時許兩殿下令退出御人々或退出、予終日候御前、又以宿仕、

從今日及五日、禁中御物忌也、

今日大原野祭并釋奠、依可有日蝕、皆以延引、大僧正良真爲日蝕不正現、從兼日於私房七佛藥師法所修也、而已天陰雨下、不正見其實、誠雖末代、佛力之靈驗、自以顯然者歟、

二日、早旦從内退出、

十二日、天晴、從今日四ヶ日内御物忌也、依當番供朝夕膳、

十三日、〔朱書〕大原祭略○中、其次内覽伊賀并遠江國解、次參内、依御物忌付藏人宗仲奏此旨、

略○下

嘉保二年二月一日

良真七佛
藥師法ヲ
修ス

十五日終日候御物忌、供朝夕膳、○中略
俄依無女房陪膳、供夜侍之後宿仕、

廿二日、從今日禁中三ヶ日御物忌、

廿四日、庚寅、天晴、今日於御殿供養大般若經一部、○中略參議皆有障、夜前不被

參籠御物忌、奇恠歎、

○十二日以後ノ御物忌、便宜合斂ス、釋奠ヲ追行スルコト、本月十一日
ノ條ニ、大原野祭ヲ追行スルコト、同月十三日ノ條ニ見ユ、

二日、前關白師實、宇治ニ赴ク、

〔中右記〕二月二日、○中略大殿御宇治者、今日是故宇治殿御忌日也、

五日、辛未、天晴、○中略於九條程、奉逢左大將殿、（從宇治別業令歸給也）

十五日、○中略今朝太閤渡御宇治別業、

○十五日、師實、宇治別業ニ赴クコト、便宜合斂ス、

六日、壬申、春日祭、

〔中右記〕二月五日、辛未、天晴、依爲春日祭分配辨、辰時許下向良、（奈勝力）道間直衣、共
人六七人許、辨侍、友清、騎馬前行、於九條程、奉逢左大將殿、（從宇治別業令歸給也）於御車

故關白類
通ノ忌日
ニ依ル

宗忠分配
辨トシテ
向良ニ下

宗忠宇治
訪フ

宗忠上卿
代テ勤仕
宿院ノ儀

祓殿ニ著
ス

諸使氏人
著座ス

著到殿ニ
著ス

下、暫申案内、已刻許過宇治間、聞大殿御之由、○本月二日參泉殿、前大僧申參
春日之由、則退出、酉時許參著宿所、是神主散位大中臣時經宅也、（御社宅）暫休

息之後、亥時許參詣御社、是慶賀之後、依未參詣、爲申慶參詣也、

六日、壬申、朝間天陰、飛雪紛々、宛如花散、御笠山中万木皆春、午時許少外記通

景來仰云、上卿代依殿下仰可勤仕者、（著直衣相逢）申時許先著宿院、（騎馬前行）

宿院之座、西一間上卿座、東面、辨氏人等南北對面、院別當座東一間、西面、辨入

從北戶著北一座、（近代氏人等不參、只院宿院之司兼居饗膳、盃酌有三獻、二後

居、（御寺下部益送）頃而起座、出門外騎馬、辨侍并院別當騎馬前行、次共人在

後、於列見辻辨侍下馬相從、（御寺丑寅角）於鳥居下辨侍又騎馬前行、次著祓殿

座、伴座御社外未申庭間也、三行敷筵、（東西行北面北一行、院別當座北面、

予并院別當末任同著於此處、令院雜色催使々掌侍、已及數剋、秉燭之程、內藏

寮使以代官散位則綱參向、又近衛府使左少將忠教、代官下野守邦季、中宮使

大進爲隆、殿下之神馬使紀伊守朝輔著座、參仕氏人少納言惟信同著、（惟信申

餘年二季御祭時參仕、使々可著座次第、（辨一座、院內藏寮、近衛府馬寮、中

未闕者、希有之事也、（神祇官々人祓了、次著々到殿、座外屋也、北壁下敷

使、齋院奉幣使、（今既王不奉障）神祇官々人祓了、次著々到殿、座外屋也、北壁下敷

也、（給長者殿神馬使等也）神祇官々人祓了、次著々到殿、座外屋也、北壁下敷

嘉保二年二月六日

七〇一

所掌ヲ定

宮南砌下院別當座、辨從北戶著座、院別當、次定所掌、其詞云、辨召院別當名、未著座、氏人等催著、并東上南面、不居、饗也、當、次定所掌、其詞云、辨召院別當名、未

仕、次院別當取紙筆札、著到申上、則我、辨結取、又召未任、仰云、倭舞可奉、支六、乃

位與、以下、定申、未任申上、我名、辨結取、次仰倭舞五位二人、六位二人、心先

中點定、則綱朝臣、邦季朝臣、未任、各稱唯、辨、次外記史生、可申代官也、雖然、依初

著行止之、但與奪詞云、史生申上、辨仰云、イマシメタリ、次入社內、先於西鳥居

之、次昇一御棚立東社前、先神部取食薦敷之、一御棚四人昇之、次二人昇之、

氏人多、入中門間、稱警蹕、歸著前庭奉幣座、敷筵三行、東上北面、北一行、辨使々

別當、內侍下參社內、障、蓋云々、內侍俄有、內藏寮官人持官幣列立、院中宮、長

者殿御幣等同列立、捧立、次付社司、等、次私幣等、於此座兩端、再拜之後、付社司、

次敷祝師座、次祝師社司著座、中門、馬寮御馬、四疋、牽立、次長者殿神馬、又牽立、

暫刻不將來、祝了後、拍手、四度、起此座、則撤、次著直會殿、西廊、次寮御馬長者殿

神馬廻、八度、了直會殿座、北上、辨氏人等同東面著之、座前、置式筥、外記通景、史

惟兼著座、西面、院別當、人後、大膳居饗、社司勸神酒三獻、一獻拍手、後、取盃、飲

之、不疑、二獻、不、此間、近衛府舞人歌舞、如法、可舞、辨召官掌二音、官掌來、依入夜

間、誰々、信季稱名、仰云、宮、內省、七、召、則宮內參入、仰云、御飯豎らかこ給へ、大

社內ニ入

立ッ

直會殿ニ著ス

近衛府舞人ノ歌舞

倭舞

膳參入、申給由、次庭中令敷倭舞座、人々進座、倭舞、雅樂官人々進座、倭舞、發琴笛聲、次外記史生指

文指進見參於辨、々披見之後、目史、々起座居、辨後、下給見參之後、各々退出、代、近

無祿、及深更事了、于時雲收月明、自然催感、(叶カ)、辨外記史掌侍皆新任、未練之間、無事、遂了、自、先規、尤可悅々々、今夜饌物

廿荷、差專使送掌侍宿所、宿院之饗、并辨宿所儲等、宿院司等所勤仕也、

七日、早旦歸京、先向掌侍宿所、利原相訪、午時行過宇治之次、參大殿御所、泉殿、

召御前面奉仰旨、初參仕氏社之次、奉長者仰、吉慶之徵也、申時許歸洛、入夜參

內、爲三ヶ日不審也、宿仕、

八日、早旦歸家、

〔春日祭歷名部類〕春日祭

同二年二月六日、壬申、嘉保、祭

辨右中宗忠朝臣、(朱書)中宮使大進爲隆、近衛使左少將忠教朝臣

八日、戊甲、法勝寺常行堂修二月會、是日、上皇御所閑院上棟

〔中右記〕二月八日、略、中、今日上皇御所閑院棟上、播万守顯季作之七、(也カ)、從去正月事始吉書、加賀國年

顯季造進事始吉書

使

宗忠歸京